取扱説明書

Active Balancer

アクティブバランサー

EAB-100 （Ver.3.0～）

医療機器届出番号：13B2X00081000013

EMC 適合

✱このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

✱正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただくとともに本製品を使用する方には、必要により安全教育を実施してください。

✱「取扱説明書」は

・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。

・１部を保存用として、大切に保管してください。

SAKAImed

02-008⑦KZ

危険、警告、注意、参考の定義

⚠ 危険　・・・　死亡または重傷を負うことに至る切迫した危険状況。

⚠ 警告　・・・　死亡または重傷を負う可能性がある危険状態。

⚠ 注意　・・・　軽傷または中程度の障害を負う可能性がある危険状態。
物的損害の発生のみが予想されるような危険状態。

参考　・・・　操作・保守において、知っておくと得な製品の性能や誤りやすいミスに関する事項。

⚠警告

1．プラグを改造して、アースなしのコンセントでの使用は絶対にやめてください。感電する恐れがあります。
2．トレーニング前に、すべての手すりを押し引きして、ノブがしっかり締まっていることを確認してください。緩んだ状態で使用していると手すりが抜け落ち、転倒の恐れがあります。

⚠注意

1．スタンドの移動の際は、転倒・落下に十分注意してください。
2．マットが検出台のコーナー部に差し込まれていないと、滑って転倒する場合があります。
3．濡れた手で、各機器の操作をすると感電の恐れがあります。
4．手すり（オプション）のノブは、確実に締め付けてください。緩んだ状態で使用していると手すりが抜け落ち、転倒の恐れがあります。

目　次

１．用途及び特長 1

１－１　用途 1

１－２　特長 1

２．構成 1

３．各部の名称 2

４．ご使用になる前に 3

４－１　電源について 3

４－２　環境について 3

４－３　機器の接続方法 4

４－４　パソコンの使用条件 5

４－４－１　画面領域サイズ 5

４－４－２　電源設定 5

４－４－３　プリインストールソフトウェア 6

４－４－４　データバックアップのおすすめ 6

４－５　計測・トレーニングソフトウェア 7

４－５－１　計測・トレーニングモード 7

４－５－２　本システムでの重心とは 8

４－５－３　キャリブレーション 8

４－５－４　データベースファイル 9

４－５－５　入力補助ファイル 10

４－５－６　操作説明での表記 11

４－５－７　計測・トレーニング実施中での注意事項 13

５．基本操作 14

５－１　全体のフロー 14

５－２　起動と終了 15

５－２－１　起動手順 15

５－２－２　終了手順 18

５－３　基本機能の操作手順 19

５－３－１　新たなデータベースを作成して使用する手順.....20
５－３－２　被検者を新規登録して計測・トレーニングを行う手順.....22
５－３－３　登録済み被検者を選択して計測・トレーニングを行う手順..25
５－３－４　過去の計測・トレーニング結果を表示する手順.....27
５－３－５　ステップゲームを行う手順.....28

６．機能別操作説明.....30

６－１　被検者情報関連 30
６－１－１　被検者を新たに登録する 30
６－１－２　被検者情報を更新する 35
６－１－３　条件に合う被検者を検索して表示する.....37
６－１－４　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する.....39
６－１－５　被検者一覧を印刷する 43
６－１－６　被検者情報を削除する 45
６－２　計測・トレーニング関連 46
６－２－１　計測・トレーニング操作手順.....46
６－２－１－１　スタティック計測操作手順.....48
６－２－１－２　部分負荷トレーニング操作手順.....54
６－２－１－３　アクティブ計測操作手順.....60
６－２－１－４　アクティブトレーニング操作手順.....70
６－２－１－５　ステップ計測操作手順.....73
６－２－１－６　ステップトレーニング操作手順.....81
６－２－１－７　ステップゲーム操作手順.....85
６－２－２　過去の最大重心移動位置データを条件設定に使用する
（アクティブ計測／トレーニング） 93
６－２－３　過去の条件から目標値をコピーする
（アクティブ計測／トレーニング） 95
６－２－４　目標値パターンを保存する
（アクティブ計測／トレーニング） 97
６－２－５　保存した目標値パターンを使用する／削除する
（アクティブ計測／トレーニング） 99

６－２－６　過去の条件から目標値をコピーする
（ステップ計測／トレーニング）.....101
６－２－７　目標値パターンを保存する
（ステップ計測／トレーニング）.....103
６－２－８　保存した目標値パターンを使用する／削除する
（ステップ計測／トレーニング）.....105
６－２－９　開始／終了／警告時の音声を変更する.....107
６－２－１０　手元スイッチで開始する.....108
６－３　計測・トレーニングデータ表示関連.....109
６－３－１　計測・トレーニング結果を表示・印刷する.....109
６－３－１－１　スタティック計測結果の表示項目.....111
６－３－１－２　部分負荷トレーニング結果の表示項目.....113
６－３－１－３　アクティブ計測結果の表示項目.....115
６－３－１－４　アクティブトレーニング結果の表示項目.....117
６－３－１－５　ステップ計測結果の表示項目.....119
６－３－１－６　ステップトレーニング結果の表示項目.....121
６－３－２　表示グラフの説明.....123
６－３－２－１　全体重心図.....124
６－３－２－２　拡大重心図.....126
６－３－２－３　パワースペクトル.....127
６－３－２－４　位置ベクトル.....128
６－３－２－５　速度ベクトル.....129
６－３－２－６　振幅確率密度分布.....130
６－３－２－７　重心移動時間変化.....131
６－３－２－８　重心移動距離.....132
６－３－２－９　荷重時間変化.....133
６－３－２－１０　目標位置.....134
６－３－２－１１　目標達成度.....135
６－３－２－１２　移動平均時間.....136
６－３－３　特定の計測・トレーニングモードのみデータ表示する.....137
６－３－４　被検者情報と計測・トレーニング履歴を印刷する.....138
６－３－５　計測・トレーニングデータを削除する.....139

６－３－６　データをＣＳＶファイル（テキストファイル）に出力する . 140
６－３－７　重心図を操作する（軌跡再生／スケール変更等） 142
６－３－８　グラフを操作する（部分拡大／数値表示） 144
６－４　印刷関連 147
６－４－１　プリンタドライバの印刷ダイアログを表示せずに印刷する . 147
６－４－２　ヘッダーとフッターに任意の文字列を設定する 149
６－５　その他の機能 150
６－５－１　キャリブレーションをやり直す 150
６－５－２　入力補助ファイルを編集する 151
６－５－３　入力補助ファイル内容をソートして表示する 152
６－５－４　起動時に前回使用した DB ファイルを開く 153
７．データベース 155
７－１　データベースユーティリティ 155
８．テキストファイル形式 158
８－１　計測・トレーニングデータＣＳＶファイル形式 158
８－２　入力補助ファイル形式 158
９．手すりの利用方法 159
１０．使用上の注意 160
１１．お手入れの仕方 161
１２．ソフトウェアのインストール手順 161
１３．このようなときには 162
１４．機器の保守・点検 164
１５．保証とアフターサービス 165
１６．仕様 166
１７．医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項 167

Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
Olectra Chart
Copyright(C) APEX Software Corporation
ActiveReports
Copyright(C) 1998 DataDynamics,Ltd.
VB SourceBook
Copyright(C) 1996-99 FMS,Inc.

その他全てのブランド名または製品名はそれらの所有者の商標もしくは登録商標です。

１．用途及び特長

１－１　用途

本装置は、重心動揺の測定及び重心移動のトレーニングを目的とした装置です。

１－２　特長

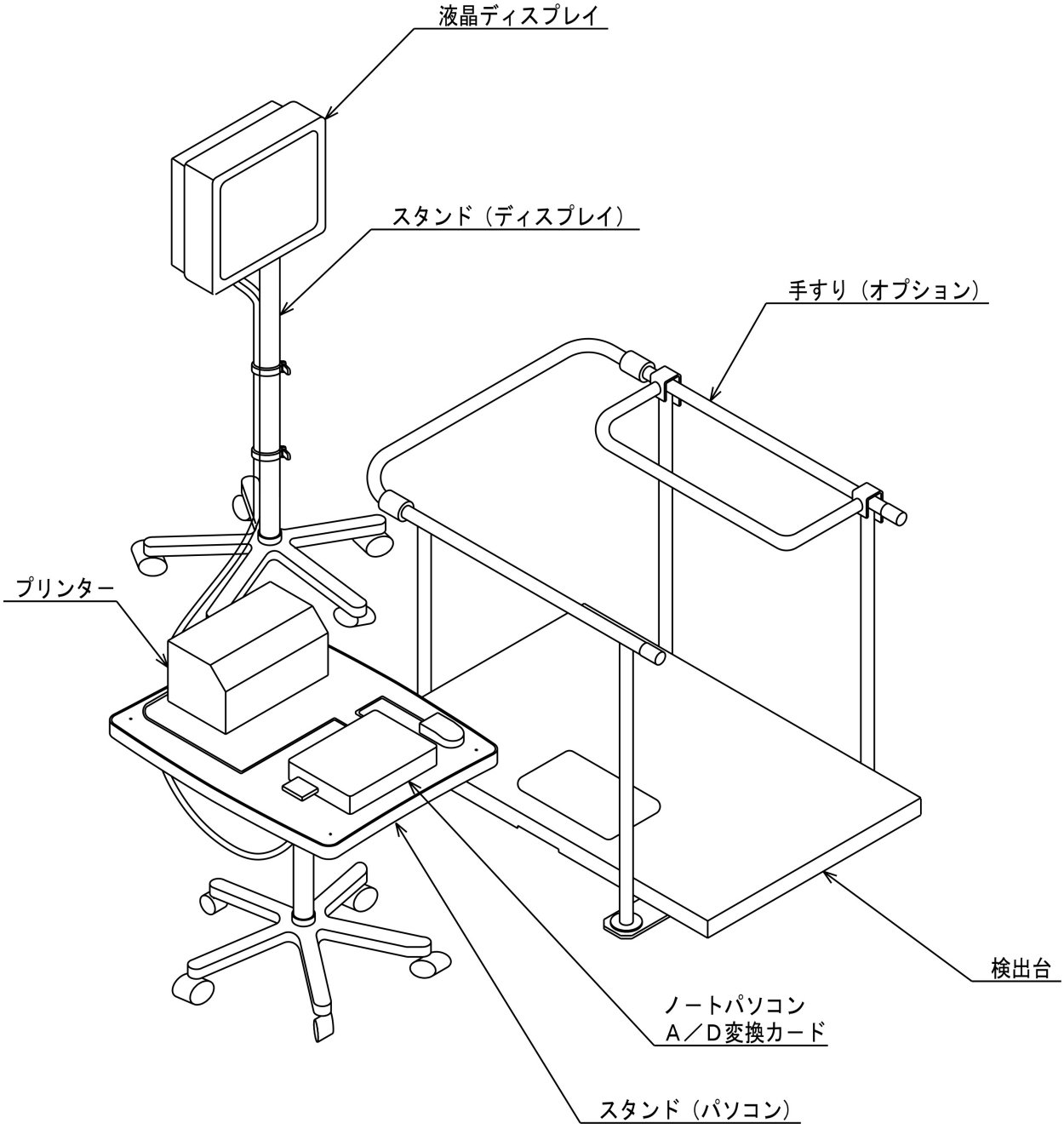
特長として下記の機能を備えています。

① スタティック計測（重心動揺計測）
② 部分負荷トレーニング
③ アクティブ計測及びトレーニング
④ ステップ計測及びトレーニング
⑤ ステップゲーム

２．構成

- 検出台 ---------- １セット
- マットＡ ---------- １セット
- マットＢ ---------- １セット
- スタンド（ディスプレイ） ---------- １セット
- スタンド（パソコン） ---------- １セット
- ディスプレイ ---------- １セット
- ノートパソコン ---------- １セット
- プリンタ ---------- １セット
- Ａ／Ｄ変換器（PC カード） ---------- １セット
- 手すり（オプション） ---------- １セット

３．各部の名称


液晶ディスプレイ
スタンド（ディスプレイ）
手すり（オプション）
プリンター
検出台
ノートパソコン
A／D変換カード
スタンド（パソコン）

４．ご使用になる前に

本製品を安全に正しくご利用いただくために､本取扱説明書を読んで操作を十分熟知し、また、各注意事項を厳守しながらご使用をお願いします。次の事項はご使用前に必ずお守りください。

４－１　電源について

検出台の電源コードは、アース付になっています。必ず、アース付コンセントを使用し、完全にアースしてください。

⚠警告　　プラグを改造して、アースなしのコンセントでの使用は絶対にやめてください。感電する恐れがあります。

⚠注意　　コンセント電圧は、ＡＣ９５Ｖ～１０５Ｖの範囲内で使用してください。範囲外の場合には、機器の故障及び誤作動の原因となります。

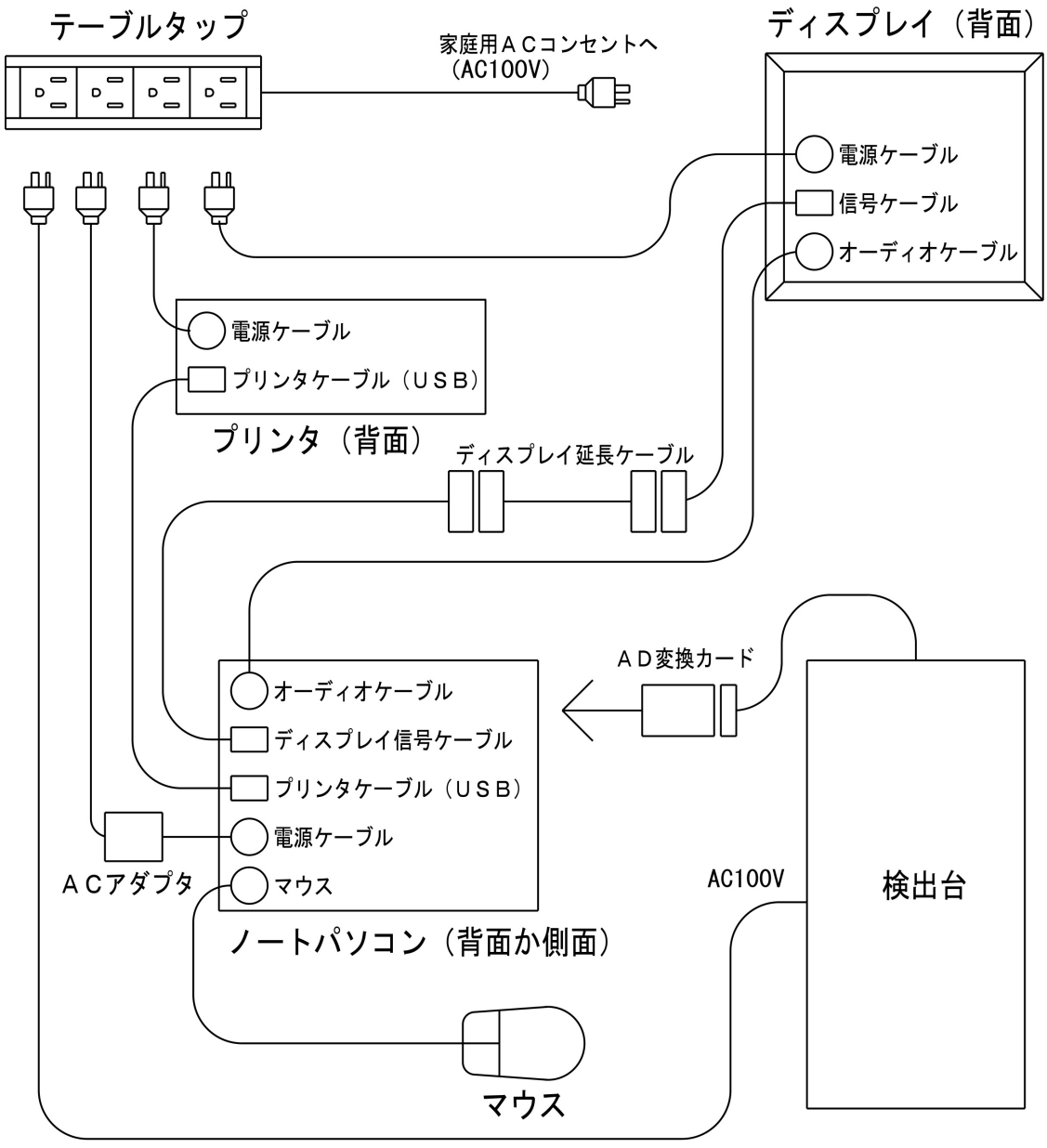
４－２　環境について

下記のような場所でのご使用は避けてください。

- 周囲温度が１０°～３５°Ｃの範囲外であるところ。
- 周囲湿度が２０%～８０%の範囲（結露しない）外であるところ。
- 湿気、ほこり、ガスの多いところ。
- 振動、衝撃の多いところ。
- 雨、日光の直接当たるところ。
- コードレス電話、携帯電話など強い電磁波を発生するものがあるところ。

４－３　機器の接続方法

下記のように各機器を接続してください。



ＡＤ変換カード（ＰＣカード）は、ノートパソコンのＰＣカードスロット１（上段）に装着してください。

４－４　パソコンの使用条件

⚠注意　　付属品以外の機器や部品を使っての使用はしないでください。けが、機器の故障及び誤作動の原因となることがあります。

パソコンの設定を変えたり、他のソフトウェアをインストールしないでください。誤作動の原因になる場合があります。また、本装置用のソフトウェア以外の付属のソフトウェアを同時に起動すると誤作動の原因になる場合があります。

４－４－１　画面領域サイズ

パソコンの画面領域サイズは 1024×768 ピクセルにしてください（本製品出荷時に設定済みです)。
画面のプロパティ（コントロールパネルから開くことができます）で参照／設定できます。

４－４－２　電源設定

電源の設定での「モニタ／ハードディスク電源断までの時間」はトレーニング時間（最長６０分）より長くしてください。「システムスタンバイ／システム休止状態までの時間」は「なし（スタンバイにならない)」にしてください。「電源ボタン押下時の動作／パネルをしめた時の動作」ではシステムスタンバイあるいはシステム休止を選択しないでください（共に本製品出荷時に設定済みです)。
電源オプションのプロパティ（コントロールパネルから開くことができます）で参照／設定できます。パソコンメーカーが提供するユーティリティで設定する場合もあります。

⚠注意　　本製品ソフトウェアで検出台からデータ読込中にシステムスタンバイあるいはシステム休止状態になると正常に復帰できなくなります。復帰できない場合にはソフトウェア終了後にパソコンを再起動してください。

４－４－３　プリインストールソフトウェア

プリインストールしたソフトウェアをお客様の都合で他のパソコンにインストールされた場合のサポートは致しかねますので、ご了承ください。

４－４－４　データバックアップのおすすめ

データのバックアップはお客様の責任で行ってください。デフォルトのインストールフォルダ（C:¥program Files¥ActiveBalancer）にインストールした場合、対象ファイルは以下の通りです。data フォルダごとバックアップすることをお薦めします。

- データベースファイル
  C:¥Program Files¥ActiveBalancer¥data フォルダの
  ¥system¥AbSystem.abs
  ¥rdb¥***.abd
  その他お客様自身で作成したデータベースファイル

- 入力補助ファイル
  C:¥Program Files¥ActiveBalancer¥data フォルダの
  ¥charge.txt
  ¥diagnosis.txt
  ¥group.txt
  ¥memo.txt

- 情報設定ファイル
  C:¥Program Files¥ActiveBalancer¥data フォルダの
  ¥Conf¥ConfACTVBLNCR.ini

- その他お客様自身で作成した保存すべきファイル

４－５　計測・トレーニングソフトウェア

４－５－１　計測・トレーニングモード

- スタティック計測
  重心動揺の解析を行う計測です。体の動きを重心の動揺としてとらえ、記録することにより、身体の平衡障害の分析、評価に役立ちます。

- 部分負荷トレーニング
  患側下肢への体重負荷を調節するトレーニングです。被検者自身が体重負荷量を認識しながらトレーニングを行うことができ、足の位置も自由に設定できますので、より有効なトレーニングが可能です。

- アクティブ計測
  前後左右斜めの最大８方向に自ら重心を移動したときのバランス保持能力を見る計測です。足の位置も自由に設定できますので、被検者に合った計測を行うことができます。

- アクティブトレーニング
  バランス保持能力を向上させるトレーニングです。アクティブ計測と同様に最大８個の目標値を使って重心移動のトレーニングを行うことができ、被検者のバランス保持能力の向上が計れます。

- ステップ計測
  足の踏み出しから接地までの重心動揺を見る計測です。一歩踏み出すことにより歩行状態に近い重心動揺の計測が可能となります。

- ステップトレーニング
  歩行能力を向上させるトレーニングです。８つの目標位置にステップできますので、被検者の能力に合った幅広いトレーニングを行うことができ、被検者の歩行能力の向上が計れます。

- ステップゲーム

  ステップトレーニング同様、歩行能力を向上させるトレーニングです。８つの目標位置にステップできますので、被検者の能力に合った幅広いトレーニングを行うことができ、被検者の歩行能力の向上が計れます。ゲーム形式ですので、楽しみながらトレーニングができます。

４－５－２　本システムでの重心とは

本システムでの「重心」とは、検出台で検出する足底圧の垂直作用力中心位置を示します。即ち「重心位置」は検出台表面二次元座標での足圧中心の座標（X 軸：左右方向、Y 軸：前後方向）を表しています。
このため、被検者が静止している状態（足底圧の前後作用力および左右作用力が垂直作用力に対して無視できる程度に小さい状態）では被検者身体の重心位置を検出台表面に垂直に投影した位置と本システムでの「重心位置」はほぼ一致します。これに対して被検者が加速度を伴って移動している状態では上記の２つの位置のズレは静止状態時に比べて大きくなります。

ステップ計測のように片足（非軸足）が接地していない状態（ステップ途中）での重心位置はもう一方の接地している足（軸足）の足圧中心に一致します。

４－５－３　キャリブレーション

キャリブレーションは検出台のゼロ点調整です。検出台に被検者が乗っていない状態、即ちマットのみを載せた状態での検出台からの入力値を測定し、記憶しておきます。これがゼロ点になります。
検出台に被検者が乗っている場合、

被検者の体重分の値　＝　検出台からの入力値　－　ゼロ点での値

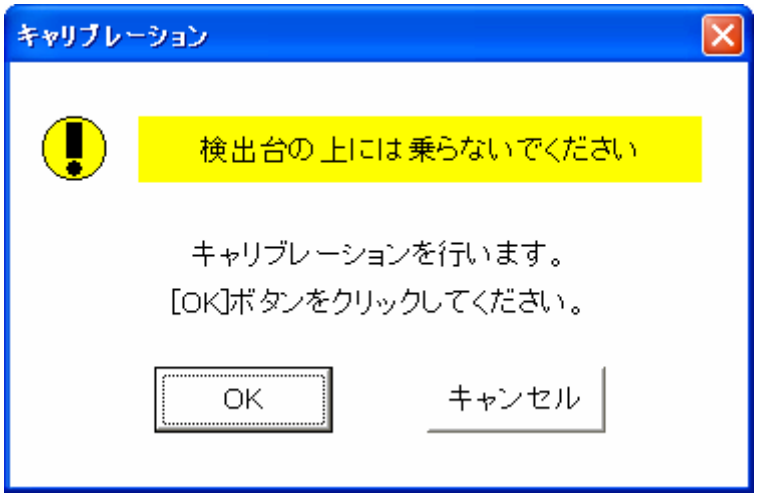
となり、これから検出台にかかる荷重を計算することができます。

この為、キャリブレーションが適切になされないと計測を正しく行うことができません。キャリブレーション実行中に検出台に物を載せたり、触ったり、振動を与えたりした場合にはキャリブレーションをやり直す必要があります。

キャリブレーションはソフトウェアを起動して計測・トレーニングを行う前に必ず実行する必要があります。通常は一度実行すればマットを載せかえる等しない

限り再度キャリブレーションをし直す必要はありません。しかし時間経過とともに温度等の影響で電気的特性が若干変化することがありますので、ソフトウェアを終了せずにおく場合には一時間に一度は再キャリブレーションすることをお勧めします。

本システムのソフトウェアでは計測・トレーニングあるいはステップゲームを選択すると下のような Window が表示されます。［OK］ボタンをクリックするとキャリブレーションを実行します（２秒程度）。必要のない場合はキャンセルしてください。



４－５－４　データベースファイル

被検者情報、計測・トレーニングの条件やデータは専用のデータベースファイル（DB ファイル）に格納されます。DB ファイルはデータ格納用およびシステム用の２種類あります。

データ格納用 DB ファイルは、ソフトウェア起動時にファイル選択して開きます（起動後に他の DB ファイルに切り替えることも可能です）。被検者情報を登録したり、計測・トレーニングを行ったりするとデータは自動的に開いている DB ファイルに書き込まれますのでデータ保存の為の特別な操作は必要ありません。

データ格納用 DB ファイルは任意に作成可能です。作成基準は自由にお決めください。例えば、グループ毎・担当者毎・期間毎などです。また、DB ファイル間でのデータのコピー・移動ができますので現役被検者用の DB ファイルと非現役被検者用の DB ファイルとを作成しておき、非現役になった時点でデータを移すといった使い方も可能です。

本製品出荷時では操作練習等にご使用いただけるサンプルデータを格納した DB ファイル（ファイル名：Smaple.abd）のみがインストールされていますので、最初にお使いいただく際にデータ格納用のデータベースファイルを新たに作成してください。DB ファイル名は任意で、作成後に変更することも可能です。作成フォルダも任意ですが、バックアップの容易さという観点からデフォルトフォルダか、あるいはその下位フォルダを使用することをお勧めします。

システム用 DB ファイルにはシステム共通データが格納されます。

関連 **【５－３－１　新たなデータベースを作成して使用する手順】**
【７－１　データベースユーティリティ】

４－５－５　入力補助ファイル

以下に説明いたします「入力補助ファイル」を使用しなくともソフトウェアの機能上なんら問題はありません。不要でしたらこの機能を使用せずにお使いください。

入力補助ファイルは以下の情報を入力する際にキー入力の手間を省くためにファイル内容を一覧表示して、そこから項目を選択できるようにするために用います。

- 担当者名（計測・トレーニングを実施する担当者のお名前）
- グループ（被検者を識別する（所属する）グループ名）
- 診断（被検者の診断名等）
- メモ（計測・トレーニング条件設定時に指定するメモ）

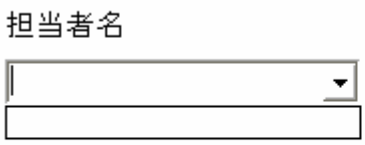
これらはテキスト形式のファイルですので簡単に設定でき、且つ他のシステムで使用している情報の移植も容易です。テキスト１行に１情報を記述します。
表示する順番は

- 記述した内容順に表示
- ソートして表示

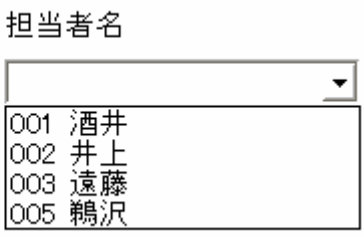
の２通りから選択できます。

例：担当者の場合

○　入力補助ファイル使用しない場合
（キー入力が必要）



○　入力補助ファイル使用した場合
（リストから選択あるいはキー入力する）



関連 **【６－５－２　入力補助ファイルを編集する】【８－２　入力補助ファイル形式】【６－５－３　入力補助ファイル内容をソートして表示する】**

４－５－６　操作説明での表記

- キーボードのキー押下
  “ [キー名]押下 ” のように表記します。
  同時に複数キー押下の場合、“ [キー名]＋[キー名]押下 ” のように表記します。
  例：エンターKey 押下の場合 [Enter]押下、
  　　タブ Key とエンターKey を同時に押下する場合 [Tab]＋[Enter]押下

- クリック
  特に記述しない限りマウスの左ボタンのクリックを示します（＝左クリック）(*)。

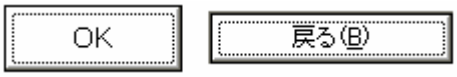
* マウスのボタン構成／クリック方法の設定は標準設定（＝出荷時設定）をもとに説明しています。

- コマンドボタン操作

  コマンドボタンを操作するには通常いくつか方法があります。

  - マウスでクリックする
  - [Tab]（あるいは[Shift]＋[Tab]）押下してボタンを選択状態にし、[Space]（あるいは[Enter]）押下する
  - [Alt]＋コマンドキー（括弧内の英数字；下記例［戻る］の場合は“ B ”）押下する

  このマニュアルではクリックする方法のみで説明します。
  下のような文字表示コマンドボタンの場合それぞれ、**[OK]** ボタンクリック、**[戻る(B)]** ボタンクリックと表記します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。



- ウィンドウ名称

  ウィンドウ名称は“「ウィンドウ名」ウィンドウ ”のように表記します。
  ウィンドウ名は Window の左上に表示されている名称で表記するか、あるいはその意味するところの名称で示します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。

  例：

Window 左上の表示	**ウィンドウ名称**
ActiveBalancer - [計測データ表示]	「計測データ表示」ウィンドウ
無し（計測 Window）	「スタティック計測」ウィンドウ　等

- フレーム名称

  ウィンドウ中のフレーム（細線で囲まれた領域）名称は“「フレーム名」フレーム ”のように表記します。
  フレーム名は領域の左上に表示されている名称で表記するか、あるいはその意味するところの名称で示します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。

- メニュー操作
  メニューの操作は“メニュー［項目］-［項目］”のように表記します。メニューを辿ることにより表示される Window についても同様に表記します。なお、半角カナ文字の場合でも全角カナ文字で表記します。

- 入力条件での全角 N 文字、半角ｎ文字の表記について

全角 N 文字	全角１文字は半角２文字に相当します。全て全角文字、全て半角文字、あるいは全角半角混在でも全角相当の文字数が合えば入力できます。
半角ｎ文字	半角文字のみ入力できます。

４－５－７　計測・トレーニング実施中での注意事項

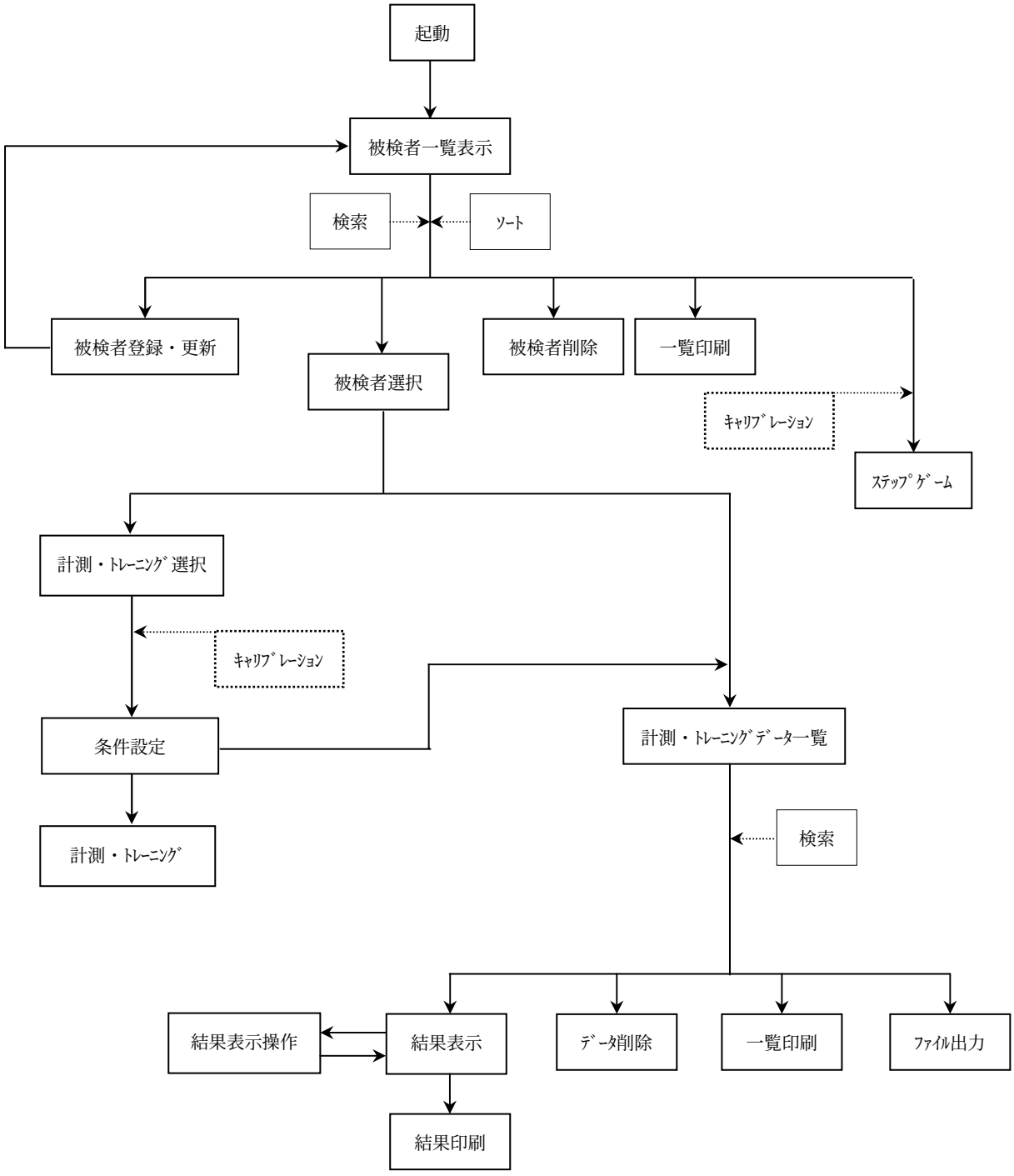
「計測」ウィンドウ、「トレーニング」ウィンドウその他検出台からデータ読込するウィンドウでは、検出台からのデータサンプリング精度低下やデータ読込みから表示までの反応速度低下等が起こりえますので以下のような使い方は避けてください。

- CPU に高負荷のかかるソフトウェアの同時実行
- メモリを大量に消費するソフトウェアの同時実行
- 他の（起動に時間がかかるような）ソフトウェアの起動
- 本ソフトウェアの Window サイズ変更、最小化　etc

本ソフトウェア以外のソフトウェアを終了させた状態で計測・トレーニングを行うのが望ましいです。

５．基本操作

５－１　全体のフロー



５－２　起動と終了

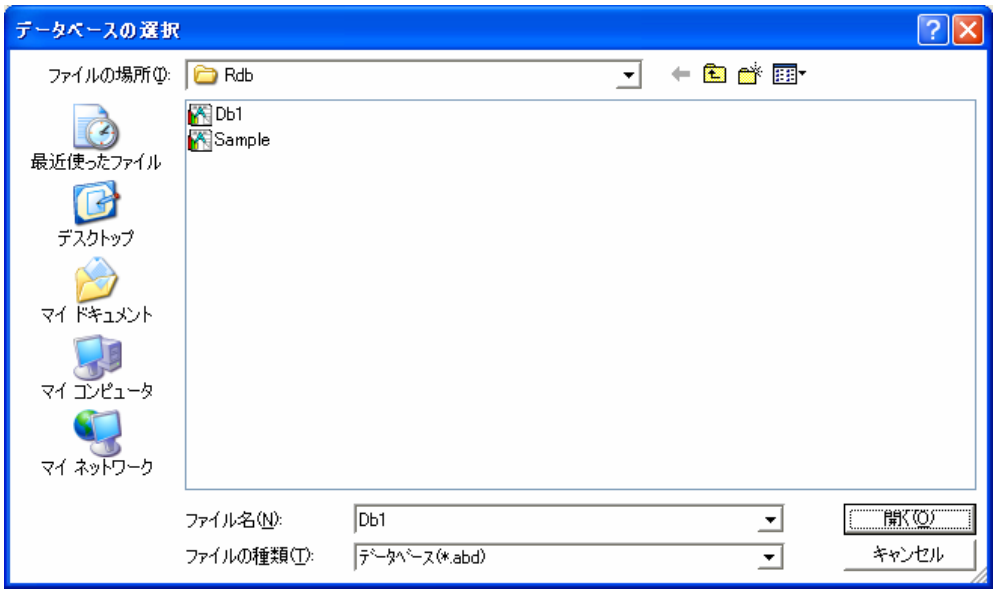
５－２－１　起動手順

検出台の電源を ON（電源ケーブル脇の緑色のボタンを押して点灯させる）にした後、以下の手順で起動してください。

（1）Windows を起動しユーザー名：ActiveBalancer でログオンします(*)。

（2）デスクトップ上の「ActiveBalancer」ショートカットアイコンをダブルクリックします。

（3）データベース選択ダイアログが表示されます。ファイルを選択して[**開く(O)**]ボタンクリックします。初めてお使いになる場合は、先にデータベースファイルを作成する必要があります（次頁 参考 参照）。



* 本製品出荷時での登録ユーザーアカウントは ActiveBalancer のみですのでユーザー選択する必要はありません。

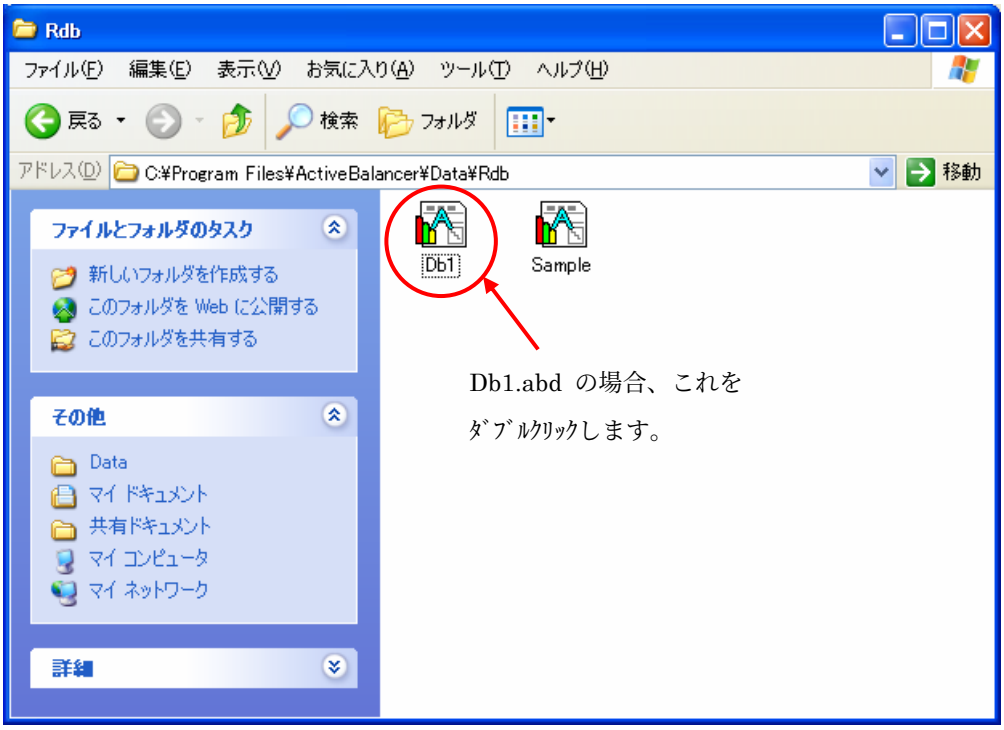
参考 本製品出荷時にあるデータベースファイルは Sample.abd のみです。
これにはサンプルデータが格納されています。操作練習等にお使いください。
新たにデータベースファイルを作成するにはデータベース選択ダイアログで
［**キャンセル**］ボタンクリックしてください。その後の操作は
【５－３－１　新たなデータベースを作成して使用する手順】を参照してください。

（4）「被検者情報」ウィンドウが表示されます。

（5）パソコンを立ち上げた後、１０分程度経過するとＡＤ変換カードの動作の安定性が増し、計測性能はより高くなります。「被検者情報」ウィンドウを表示したままお待ちください。

参考 上記(2)～(3)の手順ではなく、データベースファイルを指定して起動することも可能です。エクスプローラ等で対象ファイルのアイコンをダブルクリックしてください。デスクトップ上の「データベースフォルダ」ショートカットアイコンをダブルクリックするとデフォルトのデータベース格納フォルダが開かれます。

例：データベース格納フォルダ

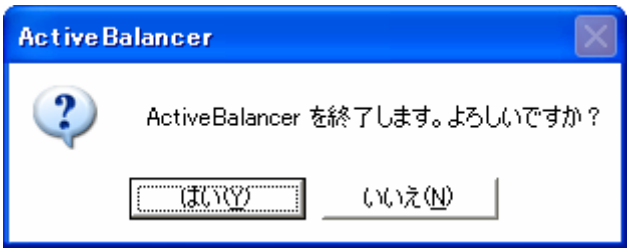


５－２－２　終了手順

以下の手順で終了した後、検出台の電源を OFF にしてください。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**終了(X)**］ボタンをクリックします。

（2）［**はい(Y)**］ボタンクリックで終了します。



（3）Windows を終了し、パソコン電源を切ります。

参考 計測ソフトウェアは以下の操作でも終了可能です。

- メニュー［ファイル(F)］-［終了(X)］を選択する
- ウィンドウ右上の ☒ をクリックする。

５－３　基本機能の操作手順

基本機能の操作手順概要（流れ）を示します。各操作の詳細は機能別操作説明を参照してください。

計測・トレーニングおよびゲームを行う前にデータベースファイル（DB）を作成する必要があります。計測・トレーニングの場合には更に事前に DB に被検者登録をする必要があります。下表は状況毎の基本機能に対して必要な手順の順番を番号（①,②,…）で示しています。例えば、DB 未作成の状況で計測・トレーニングを行うには①5-3-1 ②5-3-2 の順に操作が必要であることを示しています。

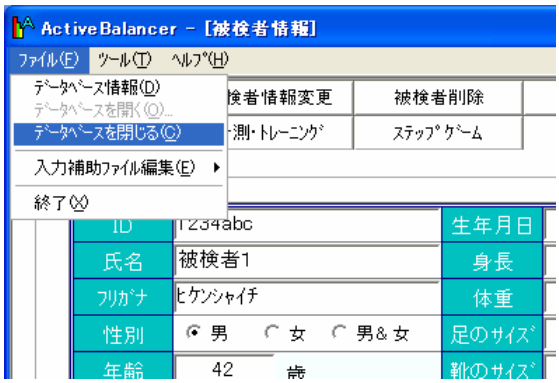
基本機能と状況 / 手順	計測・トレーニングを行う			計測・トレーニング結果を表示する	ステップゲームを行う	
	DB 未作成	DB 作成済 被検者未登録	DB 作成済 被検者登録済	※既存 DB に登録してある被検者で計測･トレーニング済である場合です。 未の場合には事前に左記の何れかを行ってください。	DB 未作成	DB 作成済
５－３－１　新たなデータベースを作成して使用する手順	①	—	—	—	①	—
５－３－２　被検者を新規登録して計測・トレーニングを行う手順	②	①	—	—	—	—
５－３－３　登録済み被検者を選択して計測・トレーニングを行う手順	—	—	①	—	—	—
５－３－４　過去の計測・トレーニング結果を表示する手順	—	—	—	①	—	—
５－３－５　ステップゲームを行う手順	—	—	—	—	②	①

なお、以降のウィンドウ画面の縮小図はおおよその外観を認識するためのものです。表示内容は実際のディスプレイ上で確認してください。

５－３－１　新たなデータベースを作成して使用する手順

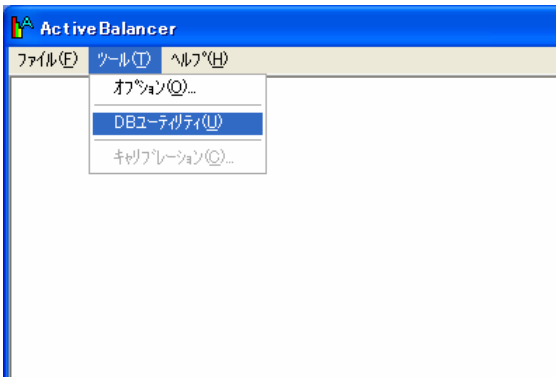
（1）データベースを閉じる：「被検者情報」ウィンドウ

- メニュー［**ファイル(F)**］-［**データベースを閉じる(C)**］でデータベースを閉じます。
  ※データベースファイルを開いていない状態では「閉じる」必要はありません。



↓

- メニュー［**ツール(T)**］-［**DB ユーティリティ(U)**］で DB ユーティリティを起動します。



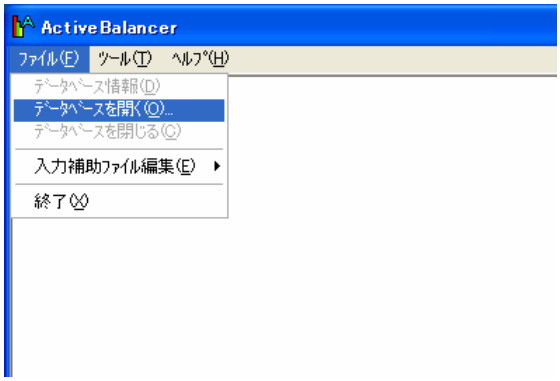
（2）データベース作成：DB ユーティリティ

- 表示に従って新しいデータベースファイルを作成します。
- DB ユーティリティを終了させます。

関連【７－１　データベースユーティリティ】

（3）データベースを開く

- メニュー［**ファイル(F)**］-［**データベースを開く(O)**］で作成したデータベースを開きます。



↓

５－３－２　被検者を新規登録して計測・トレーニングを行う手順

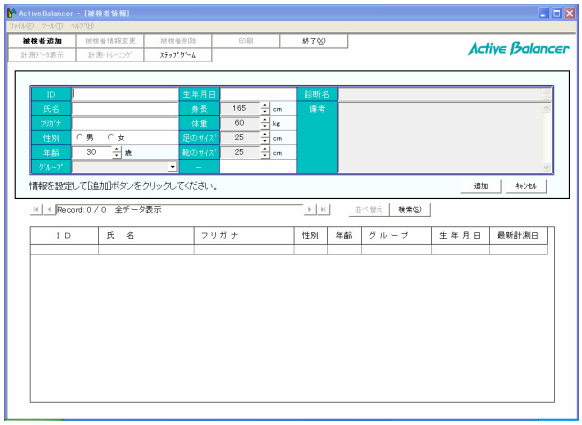
（1）新規登録開始：「被検者情報」ウィンドウ

- **［被検者追加］**ボタンをクリックします。

関連【６－１－１　被検者を新たに登録する】

（2）被検者情報入力：「被検者情報」ウィンドウ

- 被検者情報を入力します。
- **［追加］**ボタンをクリックしてデータ登録します。



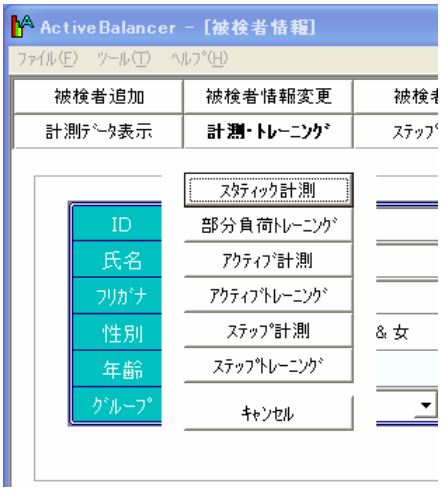
関連【６－１－１　被検者を新たに登録する】

(3) 計測・トレーニング選択：「被検者情報」ウィンドウ

- 登録した被検者を選択します。

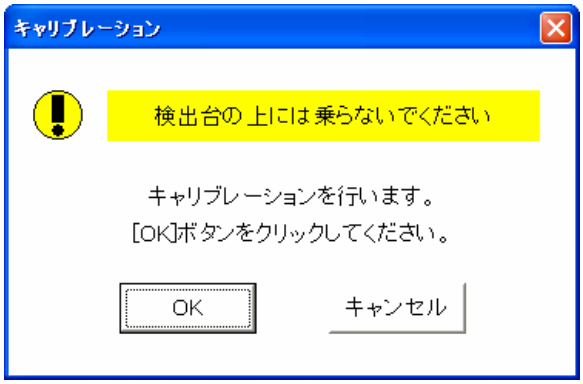
(4) 計測・トレーニング選択：「計測・トレーニング選択」サブメニュー

- **［計測・トレーニング］**ボタンをクリックし、更にサブメニューで実行する計測・トレーニングボタンをクリックします。

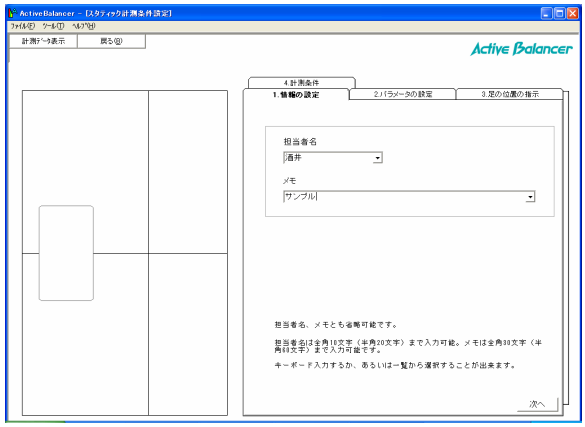


(5) キャリブレーション：「キャリブレーション」ウィンドウ

- 検出台上にマット以外のものが載っていないことを確認して**［OK］**ボタンをクリックしてください。
- 検出台に振動が加わらないように注意してください。



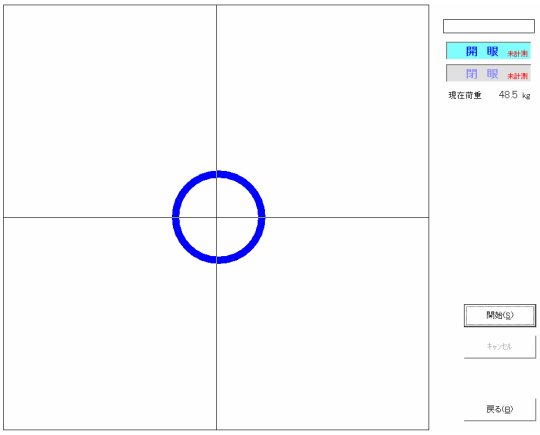
（6）条件設定：計測・トレーニングの「条件設定」ウィンドウ



- 条件設定した後、［次へ］ボタンをクリックします。
- 順次条件設定して最後の設定タブでは［完了］ボタンをクリックします。

関連【６－２－１　計測・トレーニング操作手順】

（7）計測・トレーニング実行：「計測・トレーニング」ウィンドウ



- ［開始(S)］ボタンをクリックして計測・トレーニング開始します。
- 計測・トレーニング終了後、［戻る(B)］ボタンをクリックすると各「条件設定」ウィンドウに戻ります。

関連【６－２－１　計測・トレーニング操作手順】

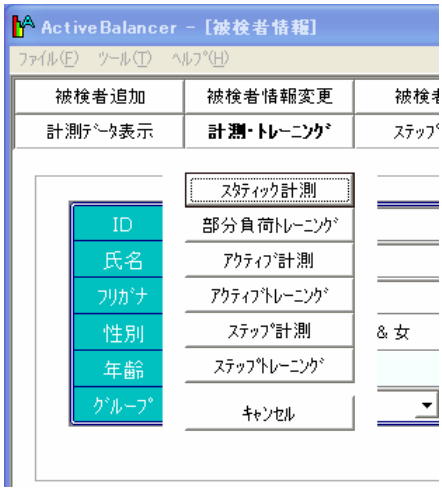
５－３－３　登録済み被検者を選択して計測・トレーニングを行う手順

（1）被検者選択：「被検者情報」ウィンドウ

- 被検者を選択します。

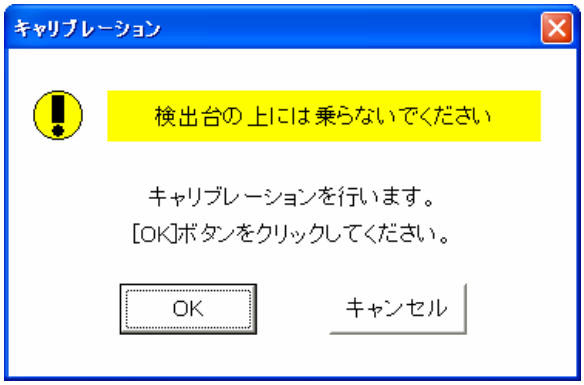
（2）計測・トレーニング選択：「計測・トレーニング選択」サブメニュー

- **［計測・トレーニング］**ボタンをクリックし、更にサブメニューで実行する計測・トレーニングボタンをクリックします。



(3) キャリブレーション：「キャリブレーション」ウィンドウ

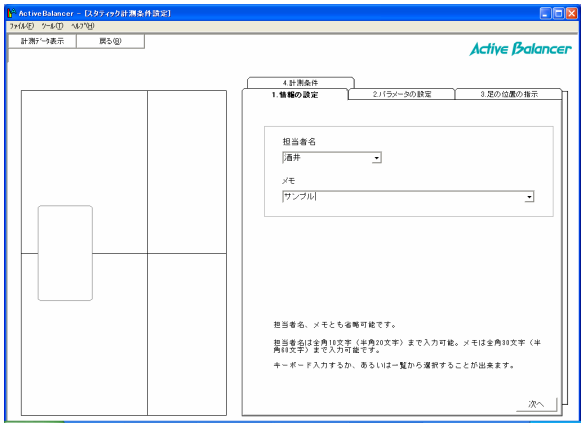
- 検出台上にマット以外のものが載っていないことを確認して［**OK**］ボタンをクリックしてください。
- 検出台に振動が加わらないように注意してください。



(4) 条件設定：計測・トレーニングの「条件設定」ウィンドウ

- 条件設定した後、［**次へ**］ボタンをクリックします。
- 順次条件設定して最後の設定タブでは［**完了**］ボタンをクリックします。

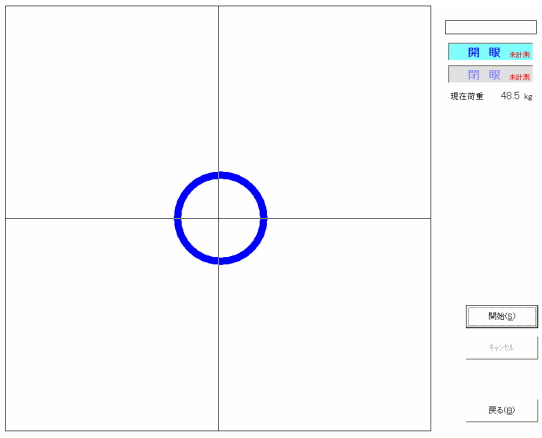
関連【6－2－1　計測・トレーニング操作手順】



(5) 計測・トレーニング実行：「計測・トレーニング」ウィンドウ

- ［**開始(S)**］ボタンをクリックして計測・トレーニング開始します。
- 計測・トレーニング終了後、［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると各「条件設定」ウィンドウに戻ります。

関連【6－2－1　計測・トレーニング操作手順】



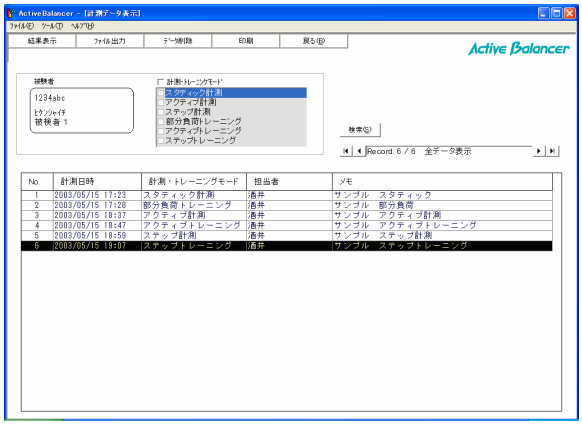
５－３－４　過去の計測・トレーニング結果を表示する手順

（1）被検者選択：「被検者情報」ウィンドウ

- 被検者を選択します。
- ［**計測データ表示**］ボタンをクリックします。あるいは該当行をダブルクリックします。

（2）表示データ選択：「計測データ表示」ウィンドウ

- 結果表示するデータを選択します。
- ［**結果表示**］ボタンをクリックします。あるいは該当行をダブルクリックします。



関連【６－３－１　計測・トレーニング結果を表示・印刷する】

（3）結果表示：計測・トレーニングの「結果表示」ウィンドウ

- 「表示対象」フレームで表示対象を選択します。
- 「印刷対象」フレームで印刷対象を選択し、［**印刷**］ボタンをクリックすると印刷します。

関連【６－３－１　計測・トレーニング結果を表示・印刷する】

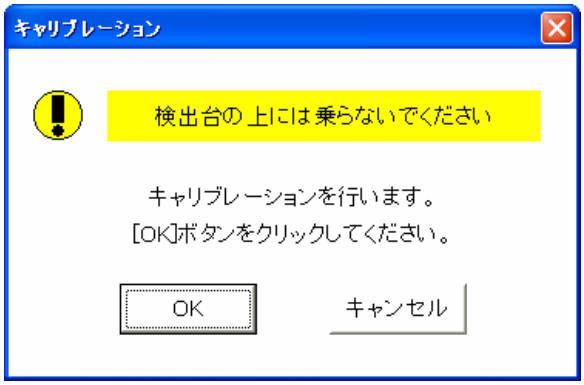
５－３－５　ステップゲームを行う手順

（1）ゲーム選択：「被検者情報」ウィンドウ

- **［ステップゲーム］**ボタンをクリックします。
  ※データは保存されませんので被検者を選択する必要はありません（任意で可）。空の DB ファイルでも可能です。

（2）キャリブレーション：「キャリブレーション」ウィンドウ

- 検出台上にマット以外のものが載っていないことを確認して［OK］ボタンをクリックしてください。
- 検出台に振動が加わらないように注意してください。



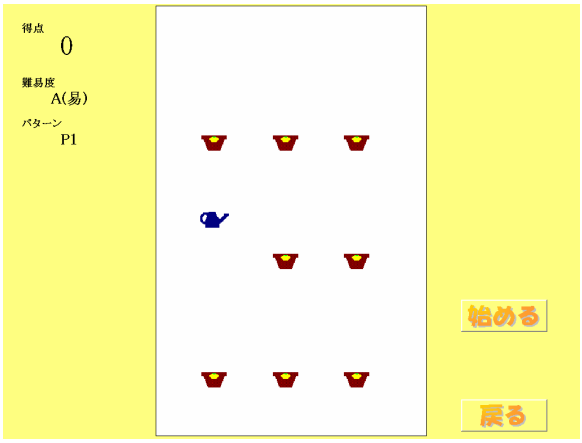
（3）条件設定：「ステップゲーム条件設定」ウィンドウ

- ボタンをクリックして条件を選択します。
- **［ゲームを行います］**ボタンをクリックします。

関連**【６－２－１－７　ステップゲーム操作手順】**

（4）ゲーム実行：「ステップゲーム実行」ウィンドウ

- 被検者に検出台に乗ってもらいます。
- ［**始める**］ボタンをクリックしてゲーム開始します。



関連【６－２－１－７　ステップゲーム操作手順】

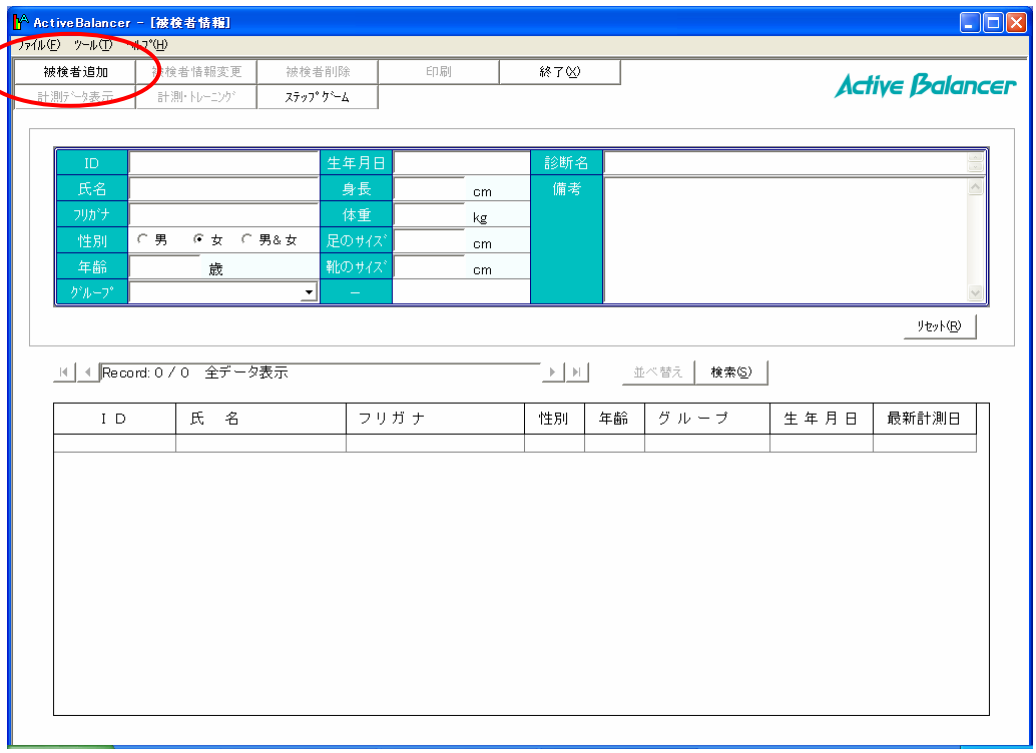
６．機能別操作説明

６－１　被検者情報関連

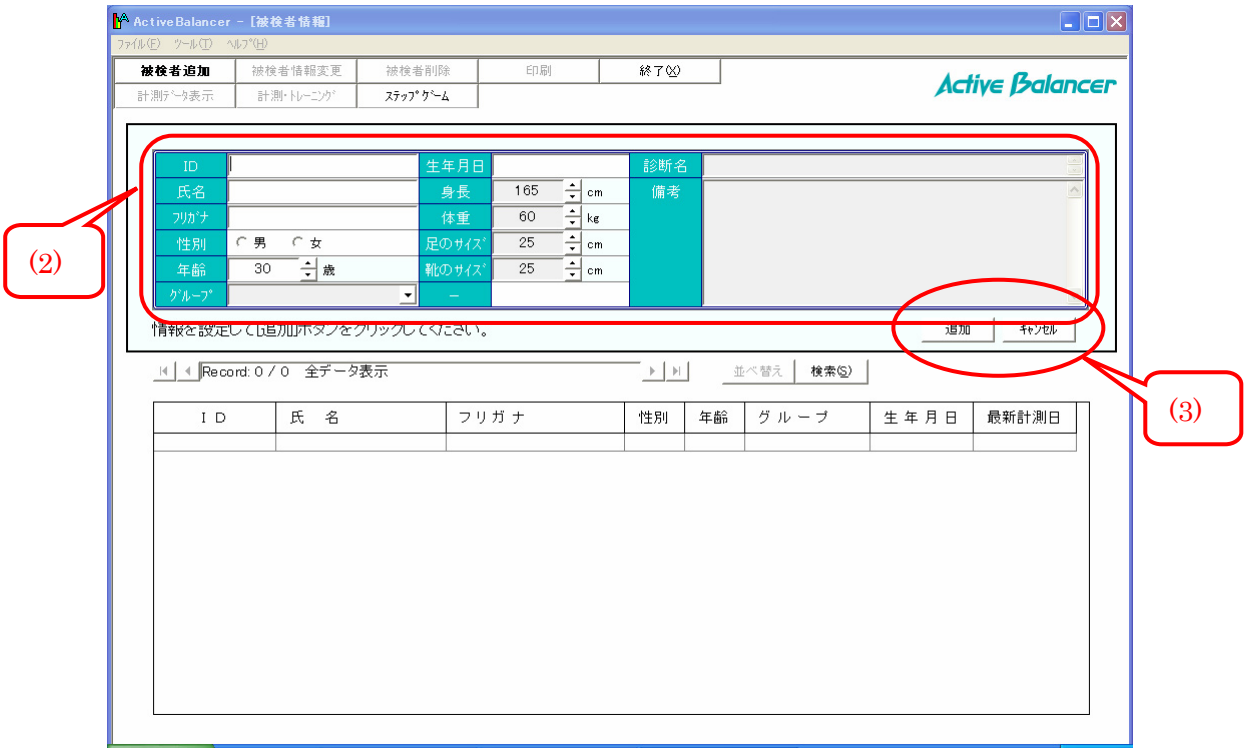
６－１－１　被検者を新たに登録する

被検者情報を新たに入力して被検者を登録する方法です。
被検者を特定する ID の登録後の変更はできませんのでご注意ください。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**被検者追加**］ボタンをクリックします。



（2）「表示」フレームが入力可能になります。被検者情報を入力します。



項　目	省略可否	内　　容
ID	【必須】	半角１２文字以内の英数字で同一の ID は登録できません。 英字の大文字と小文字は同一と見なしますのでご注意ください。 例．ABC05、abc05 および aBc05 は何れも同一と見なします。
氏名	【必須】	全角１０文字以内で入力します。 半角のダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。
フリガナ	【必須】	半角カナ２０文字以内で入力します。
性別	【必須】	男女を選択します。
年齢	【必須】	半角数字で入力します。入力範囲は 0～200 歳です。
生年月日	【必須】	西暦の生年月日を'yyyy/M/d'形式（半角文字）で入力します。 入力範囲は 1800/1/1～当日です。 例．1931/3/10
グループ	【任意】	全角７文字以内。直接入力するか、あるいは入力補助ファイルにグループ名を登録してある場合はリストからの選択も可能です。英字の大文字と小文字は同一と見なします。 登録しておくと被検者情報の検索・ソートキーとして使用できます。 半角のダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。

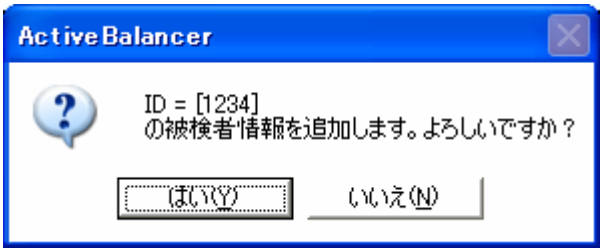
項　目	省略可否	内　　容
身長	【任意】	半角数字で入力します。入力範囲は 30.0～300.0[cm]です。
体重	【任意】	半角数字で入力します。入力範囲は 2.0～200.0[kg]です。 ここで入力する体重値はあくまでも参考情報であり、計測・トレーニングには反映されません。
足のｻｲｽﾞ	【任意】	半角数字で入力します。入力範囲は 4.0～50.0[cm]です。 ここで入力する値はあくまでも参考情報であり、計測・トレーニングおよび結果表示には反映されません。
靴のｻｲｽﾞ	【任意】	
診断	【任意】	全角３０文字まで入力可能です。改行は入力できません。 直接入力するか、あるいは入力補助ファイルに診断名を登録してある場合はリストボックスから選択して追加することも可能です。
備考	【任意】	全角５１２文字まで入力可能です。改行も入力可能です。

（3）登録する／キャンセルする

［**追加**］ボタンクリック ・・・・・・・・・・ 登録確認をします。→(4)

［**キャンセル**］ボタンクリック ・・・・ 登録をキャンセルします。入力した情報は破棄されます。

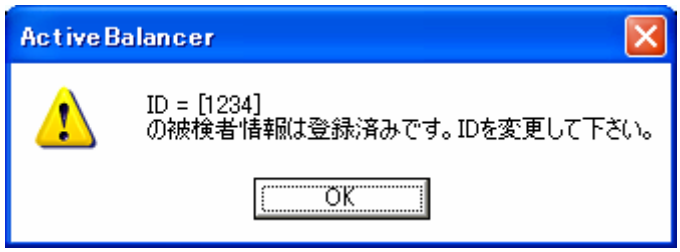
（4）(3)で［**追加**］ボタンをクリックした場合は、追加確認のメッセージボックスが表示されます。



［**はい(Y)**］ボタンクリック ・・・・・・・ 登録します。
これで被検者情報登録は完了です。

［**いいえ(N)**］ボタンクリック ・・・・・ 登録しません。
再び入力できる状態になります。

参考 既に登録してあるものと同じ ID を登録しようとすると“登録済みです”のメッセージボックスが表示され登録できません。新規情報の ID を変更して再度登録を試みてください。

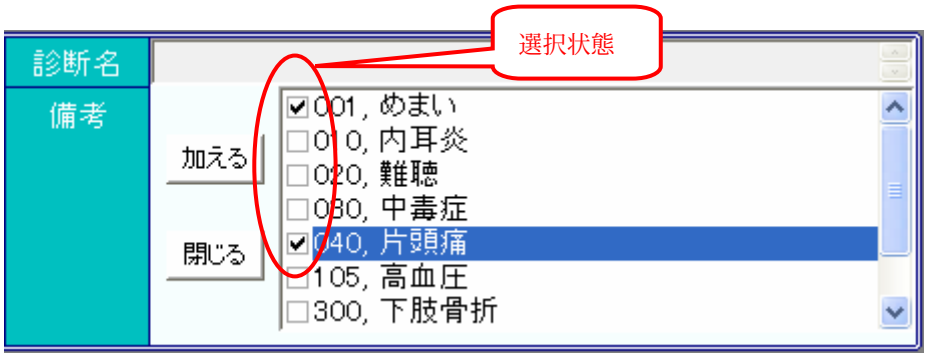


参考 診断リストボックスの使い方

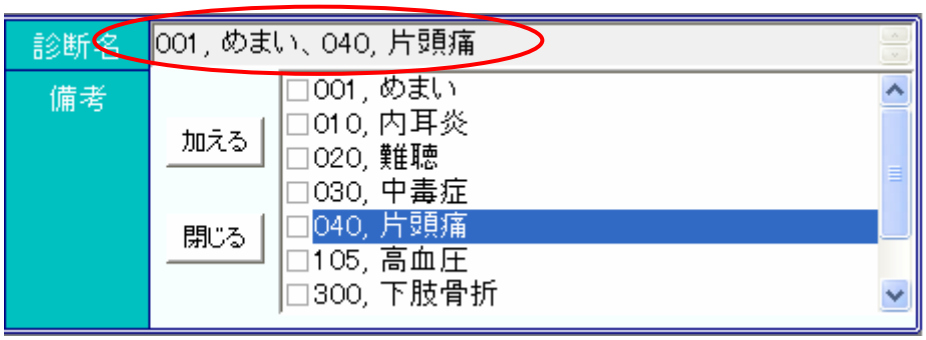
① 診断名テキストボックスをクリックするとリストボックスが表示されます。

② 項目をクリックして選択します。

③ ［**加える**］ボタンをクリックします。



④ 診断テキストボックスに診断が追加コピーされます。



⑤ ［**閉じる**］ボタンをクリックすると非表示になります。

参考 **西暦の上2桁を省略**

生年月日等を入力時に西暦の上2桁を省略した場合の解釈はWindowsの設定によります。地域のオプションのカスタマイズ－日付タブ－カレンダー（コントロールパネルから開くことができます）で確認ください。

参考 表内データの選択方法

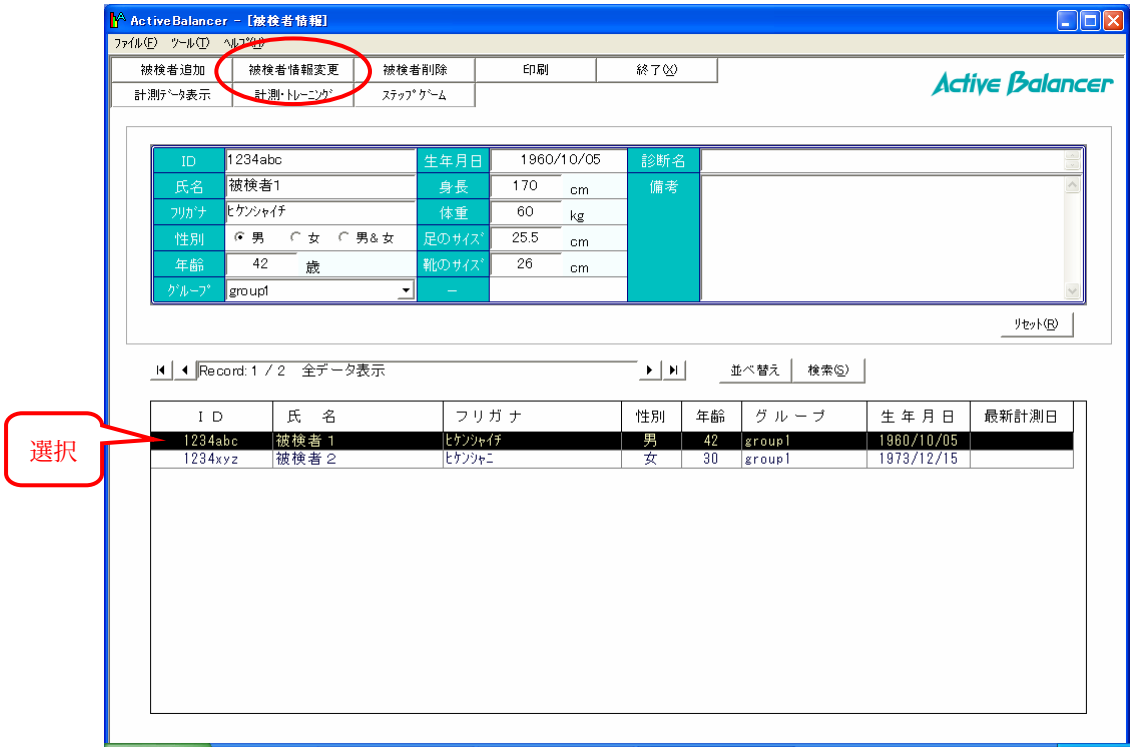
以下の何れの方法でも可能です。

- マウスで直接該当行をクリックする
- ボタンクリックで移動する
- フォーム上（ウィンドウ上で何もない部分）で左クリック（前進）、右クリック（後退）する
- 表を選択状態にし、[↑]押下、[↓]押下、[PageUp]押下、[PageDown]押下で移動する

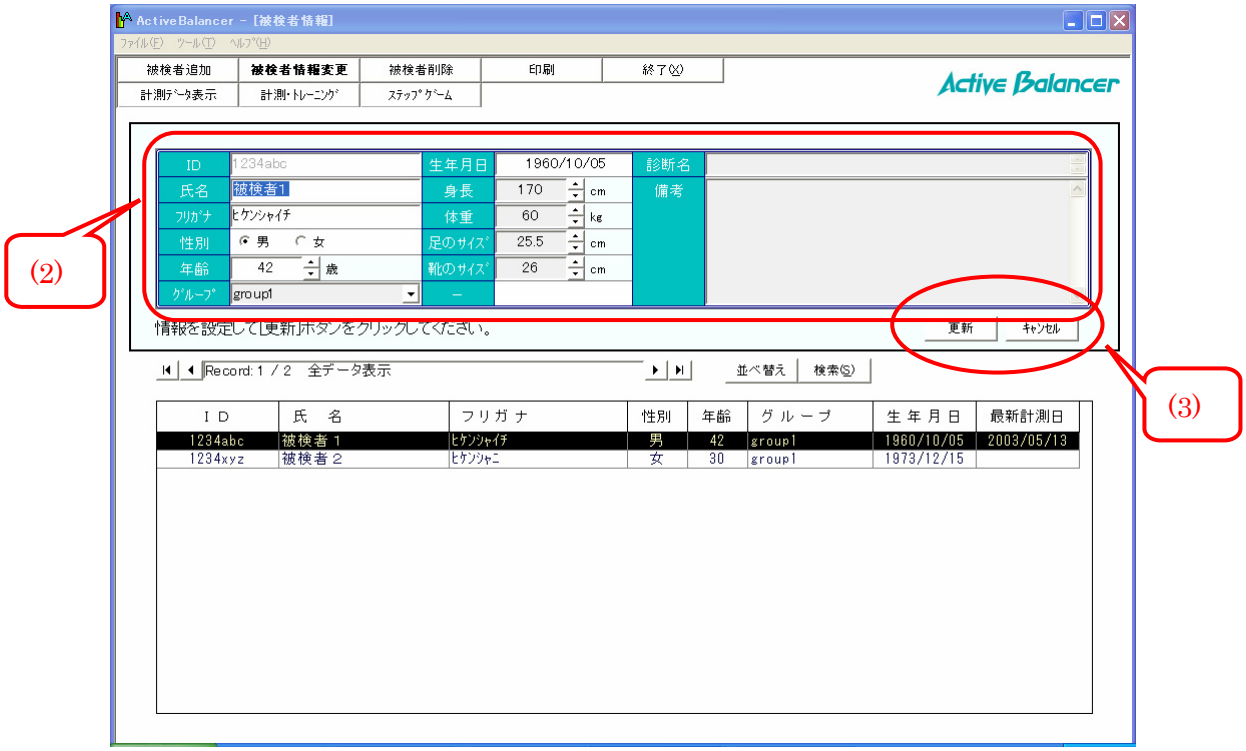
６－１－２　被検者情報を更新する

登録済みの被検者情報を修正し登録する方法です。ID は変更できません。

（1）「被検者情報」ウィンドウで更新する被検者を選択状態にして、[**被検者情報変更**] ボタンをクリックします。



(2) 「表示」フレームの ID 以外の項目が入力可能になります。変更する情報を入力します。設定内容は【6－1－1　**被検者を新たに登録する**】を参照してください。

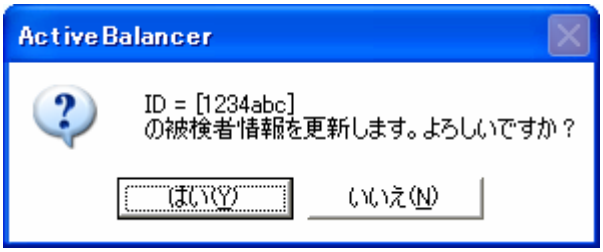


(3) 更新する／キャンセルする

［**更新**］ボタンクリック ・・・・・・・・・・ 更新確認をします。→(4)

［**キャンセル**］ボタンクリック ・・・・ 更新をキャンセルします。入力した情報は反映されず更新前の状態のままとなります。

(4) (3)で［**更新**］ボタンをクリックした場合は、更新確認のメッセージボックスが表示されます。



［**はい(Y)**］ボタンクリック ・・・・・・・ 更新します。
これで被検者情報更新は完了です。

［**いいえ(N)**］ボタンクリック ・・・・・ 更新しません。
再び入力できる状態になります。

６－１－３　条件に合う被検者を検索して表示する

登録済みの被検者情報から特定の条件に合致する情報のみを検索･表示します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**リセット(R)**］ボタンをクリックすると、「表示」フレーム内の表示がクリアされます。

（2）ID～グループの何れか一つあるいは複数の項目に検索内容を入力します。

ID、氏名、フリガナ	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）が文字列の何れの位置にも使用できます。 例：012*、*abc、0*3*c
性別	男、女、あるいは男&女（性別検索無し）から選択します。
年齢	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）は最終桁（１の位）のみに使用できます。 例：3*＝３０歳台、10*＝１００歳台、0*＝０歳台
グループ	ワイルドカード（*：半角アスタリスク）が文字列の何れの位置にも使用できます。リストから既登録グループを選択することも可能です。

(3) ［**検索(S)**］ボタンをクリックすると、対象情報を検索して表示します。(2)で検索項目を入力しなかった場合、全ての情報を表示します。

例：男性、４０歳台で検索の場合

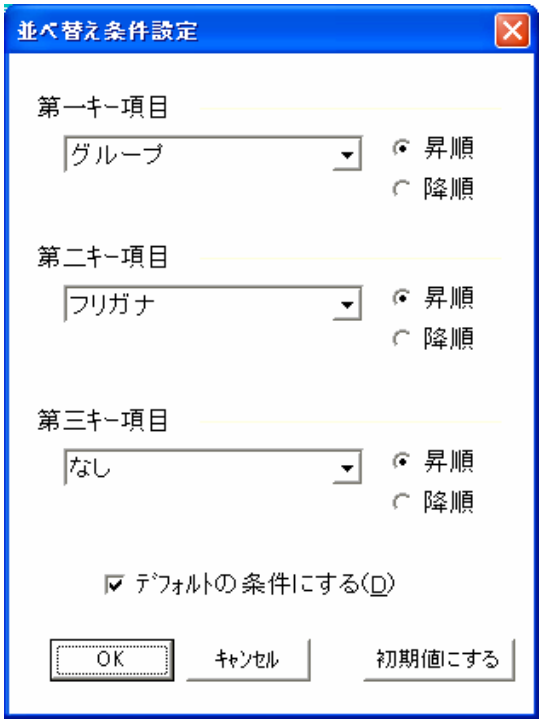
↓

６－１－４　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する

表示している被検者情報にソート条件を設定し、並べ替えして表示します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**並べ替え**］ボタンをクリックすると「並べ替え条件設定」ウィンドウが表示されます。

（2）キー項目を設定します。

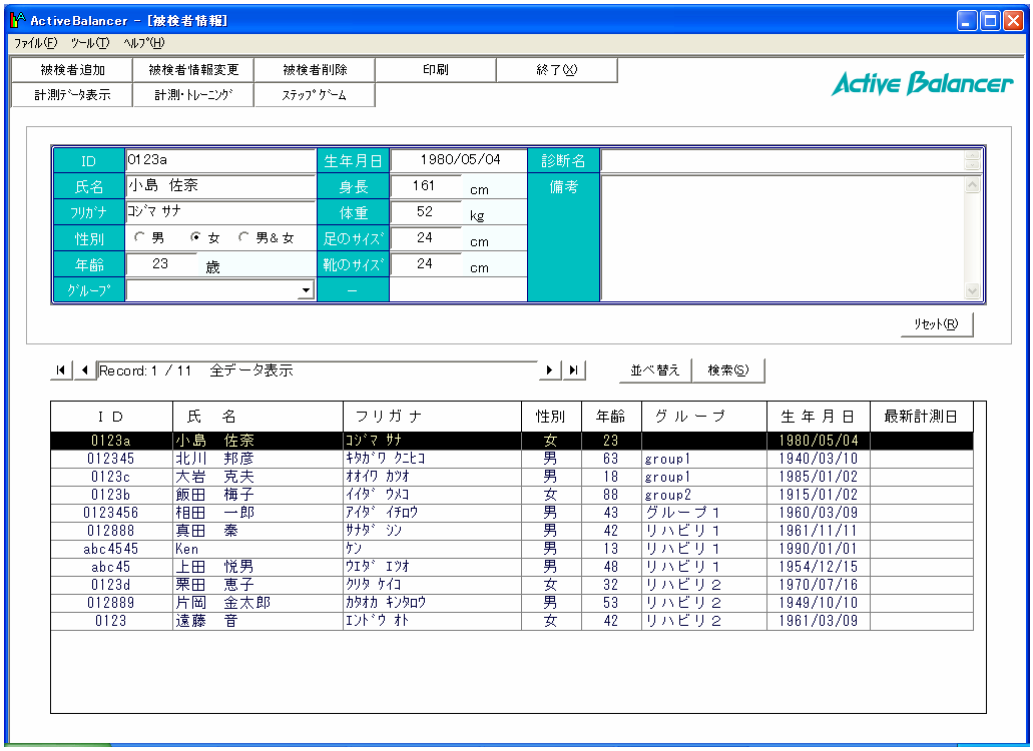


- 「デフォルトの条件にする」チェックボックス
  ［チェック ON］ ・・・・・・・・ 設定が保存され、次回ソフトウェア起動時にも反映されます。
  ［チェック OFF］ ・・・・・・・ 設定は保存されません。
  ソフトウェア起動中のみ有効です。

- **［初期値にする］**コマンドボタン
  クリックするとソート項目は全て「なし」昇順になります。この設定では最も新しく登録／更新した被検者情報が先頭になります。

（3）［**OK**］ボタンをクリックして設定を有効にします。

例：第一キー：グループ（昇順）
　　第二キー：フリガナ（降順）の場合



以降設定してある条件でソートされます。

参考 被検者一覧ソート条件

ID	昇順の場合、桁数が少ない方が先となり、桁数が同じ場合には更に文字コードでソートします（数字、英字の順)。
氏名	文字コードでソートされるため漢字の場合はソートする意味が余りありません。フリガナでのソートをお勧めします。
性別	昇順の場合、女性が先、男性が後になります。
グループ	昇順の場合、未設定は先頭になります。氏名同様文字コードでソートされます。
生年月日	昇順の場合、古い日付が先になります。
最新計測日	昇順の場合、未計測は先頭になります。生年月日同様古い日付が先になります。

IDは重複することはありませんので、例えばIDを第一キーに使った場合、第二キー・第三キーの設定は無意味です。
なお、IDを第一キーに指定すると最も高速に表示することができます。

参考 被検者を新規追加してデータベースを開いたままの状態ですと、並び順は設定通りにはなりません。このような場合には以下の何れかの操作を行うと本機能が有効となります。

- データベースを一旦閉じてから改めて開く
- ［**リセット(R)**］ボタンクリックし続いて［**検索(S)**］ボタンクリックする

これは表示上のみの制限です。上記操作を行わなくても計測等の機能は問題なく使用できます。

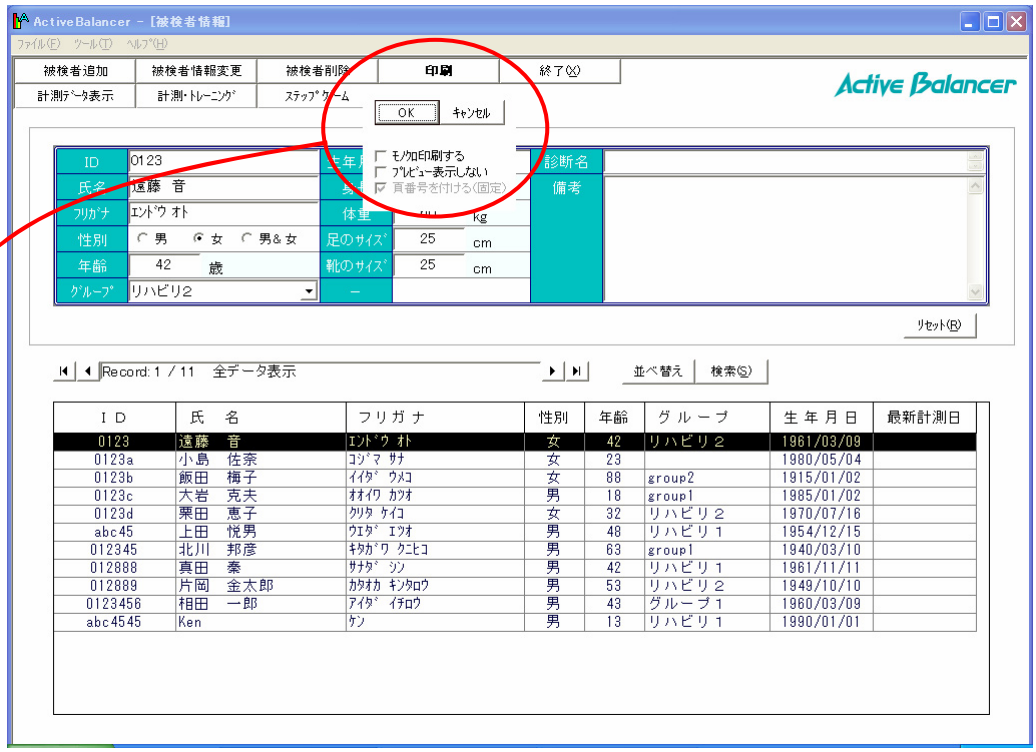
６－１－５　被検者一覧を印刷する

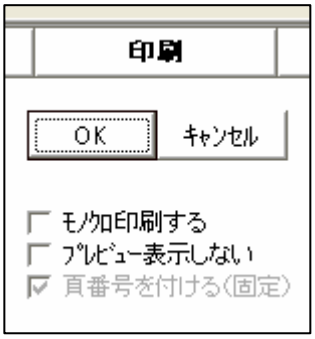
被検者一覧を印刷する手順です。印刷対象・順番は「被検者情報」ウィンドウで表示している内容と同じです。

（1）「被検者情報」ウィンドウで必要に応じて検索・ソートを行います。

関連【６－１－３　条件に合う被検者を検索して表示する】
【６－１－４　表示している被検者一覧を並べ替え（ソート）する】

（2）［印刷］ボタンをクリックするとサブメニューが表示されます。



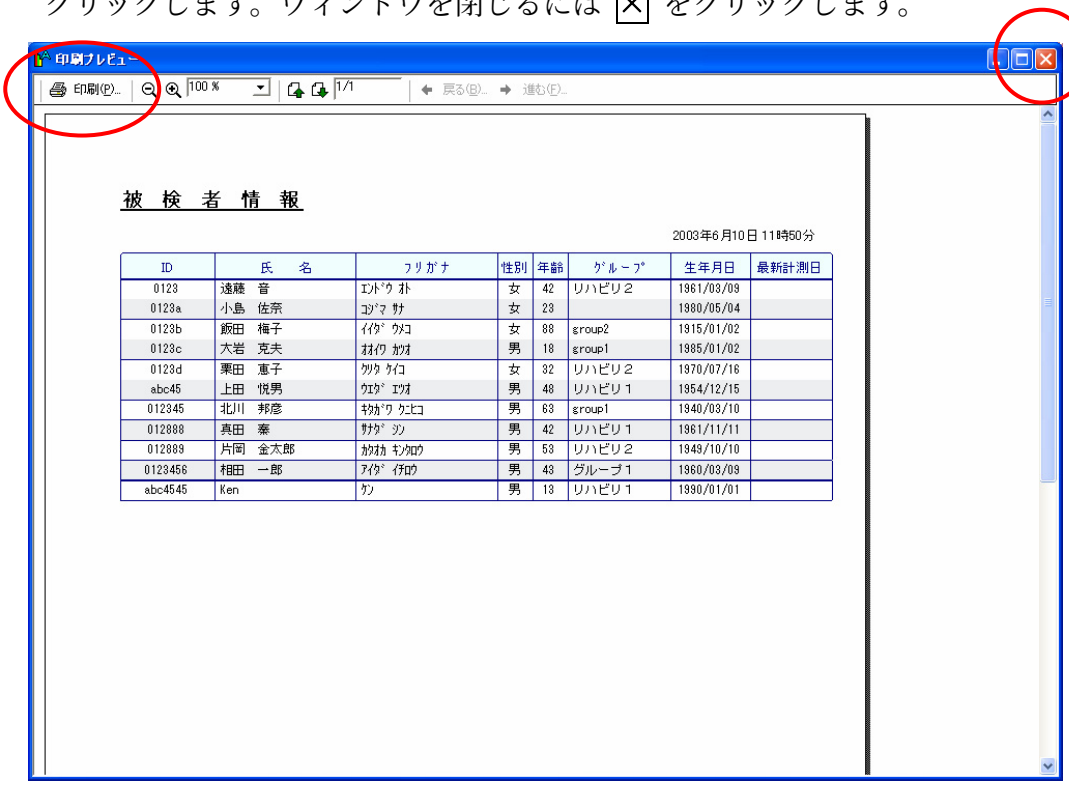


【以下の設定は印刷機能全般で共通です】

- 「モノクロ印刷する」チェックボックス
  チェックするとモノクロ印刷します。
- 「プレビュー表示しない」チェックボックス
  チェックすると「印刷プレビュー」ウィンドウを表示しません。
- 「頁番号を付ける」チェックボックス
  チェックすると用紙中央下に頁番号を付与します。
  ※一覧印刷時は選択できません（頁番号付きになります）。

(3) ［**OK**］ボタンをクリックします。

(4) 「印刷プレビュー」ウィンドウを表示した場合には更に［**印刷(P)**］ボタンをクリックします。ウィンドウを閉じるには ☒ をクリックします。



ID	氏　名	フリガナ	性別	年齢	グループ	生年月日	最新計測日
0123	遠藤　音	ｴﾝﾄﾞｳ ｵﾄ	女	42	リハビリ２	1961/03/09	
0123a	小島　佐奈	ｺｼﾞﾏ ｻﾅ	女	23		1980/05/04	
0123b	飯田　梅子	ｲｲﾀﾞ ｳﾒｺ	女	88	group2	1915/01/02	
0123c	大岩　克夫	ｵｵｲﾜ ｶﾂｵ	男	18	group1	1985/01/02	
0123d	栗田　恵子	ｸﾘﾀ ｹｲｺ	女	32	リハビリ２	1970/07/16	
abc45	上田　悦男	ｳｴﾀﾞ ｴﾂｵ	男	48	リハビリ１	1954/12/15	
012345	北川　邦彦	ｷﾀｶﾞﾜ ｸﾆﾋｺ	男	63	group1	1940/03/10	
012888	真田　秦	ｻﾅﾀﾞ ｼﾝ	男	42	リハビリ１	1961/11/11	
012889	片岡　金太郎	ｶﾀｵｶ ｷﾝﾀﾛｳ	男	53	リハビリ２	1949/10/10	
0123456	相田　一郎	ｱｲﾀﾞ ｲﾁﾛｳ	男	43	グループ１	1960/03/09	
abc4545	Ken	ｹﾝ	男	13	リハビリ１	1990/01/01	

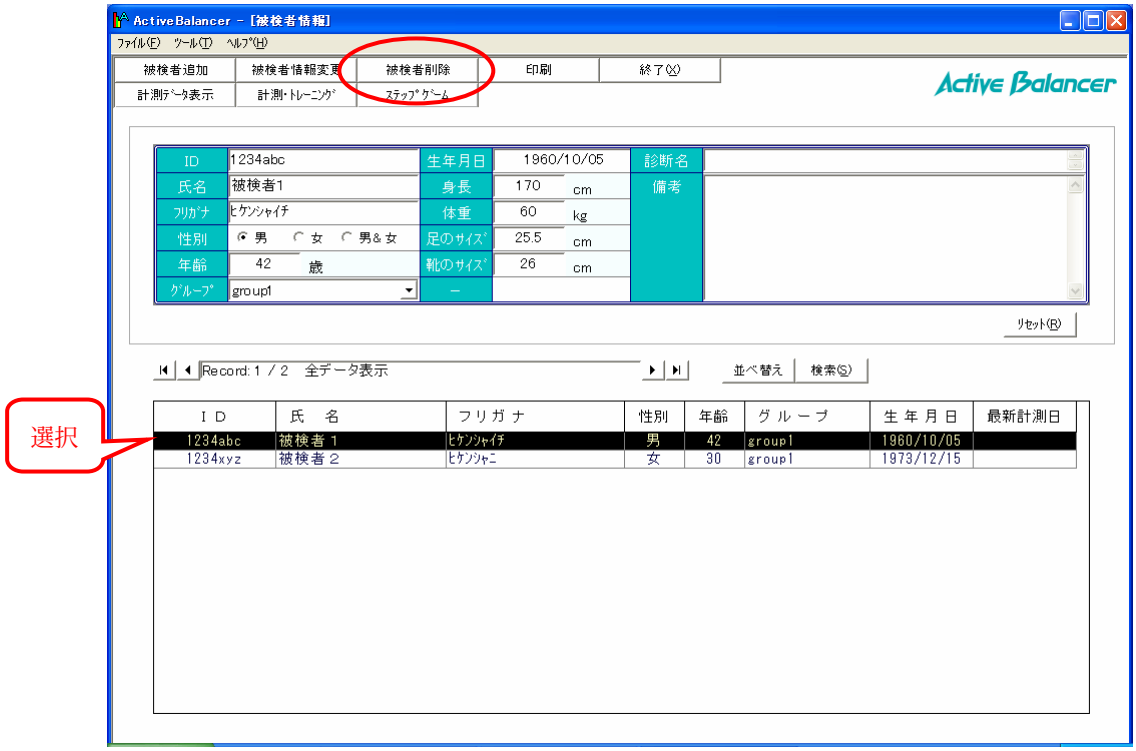
(5) 更にプリンタドライバの印刷ダイアログが表示されます。印刷を実行してください。

参考 印刷ダイアログを表示せずに直接印刷するには
【６－４－１　プリンタドライバの印刷ダイアログを表示せずに印刷する】
を参照してください。

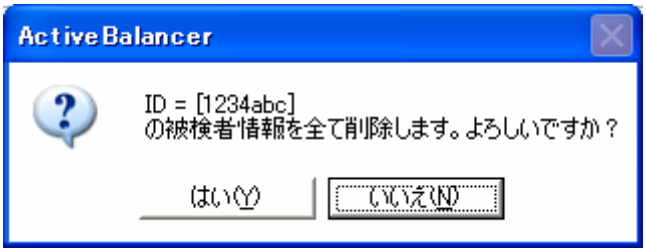
６－１－６　被検者情報を削除する

登録済みの被検者情報を削除します。計測・トレーニングデータがあれば同時に削除します。

（1）「被検者情報」ウィンドウで削除する被検者を選択状態にして、[**被検者削除**]ボタンをクリックします。



削除確認のメッセージボックスが表示されます。



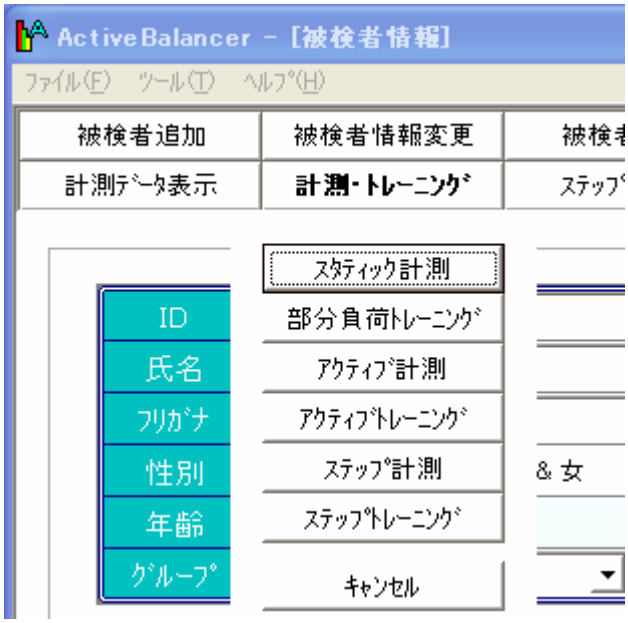
[**はい(Y)**]ボタンクリック ・・・・・ 計測・トレーニングデータも含めて削除します。

[**いいえ(N)**]ボタンクリック ・・・ 削除しません。

６－２　計測・トレーニング関連

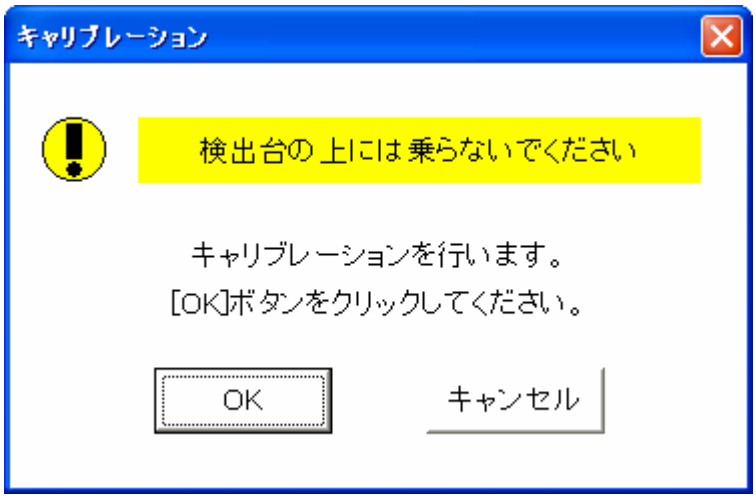
６－２－１　計測・トレーニング操作手順

「被検者情報」ウィンドウで［**計測・トレーニング**］ボタンをクリックし、更にサブメニューで実行する計測・トレーニングボタンをクリックします。



「キャリブレーション」ウィンドウが表示されます。検出台上にマット以外のものが載っていないことを確認して［**OK**］ボタンをクリックしてください。キャリブレーション中は検出台に振動が加わらないように注意してください。

関連【４－５－３　キャリブレーション】



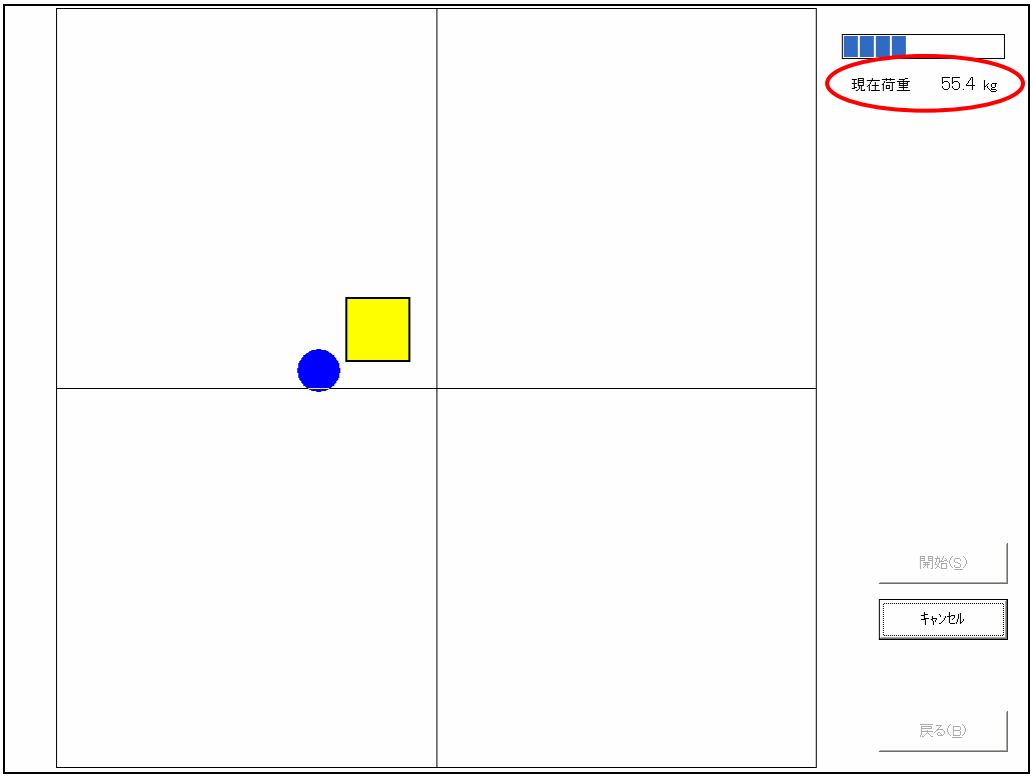
以降は各計測・トレーニングの操作手順を参照ください。

参考 計測・トレーニング実行時の荷重表示について

各ウィンドウでは下例のように操作者向けの情報として荷重表示がされます（表示形態はモードにより異なります）。表示される荷重値が被検者の体重値とかけ離れている場合はキャリブレーションが適切でない可能性が高いのでキャリブレーションを再実行してください。

なお、静荷重時でもノイズ等の影響で多少のふらつきがありますが、数百ｇ程度であれば異常ではありません。

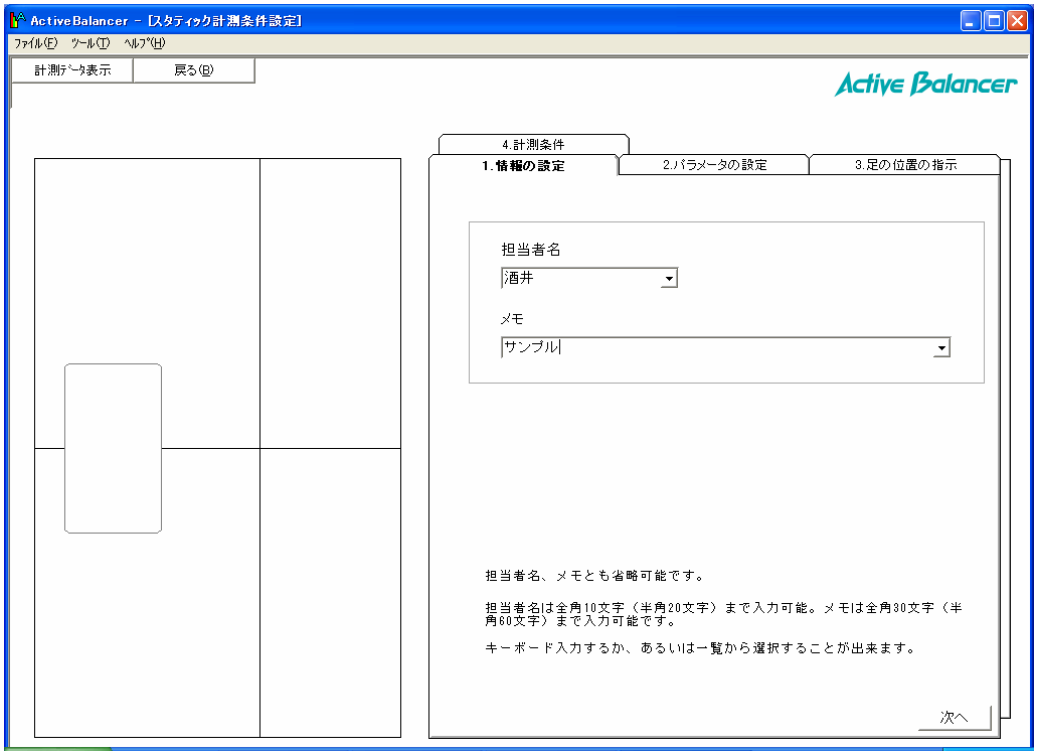
例：アクティブ計測時



６－２－１－１　スタティック計測操作手順

スタティック計測の手順を説明します。被検者には手順（４）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＡを使用してください。

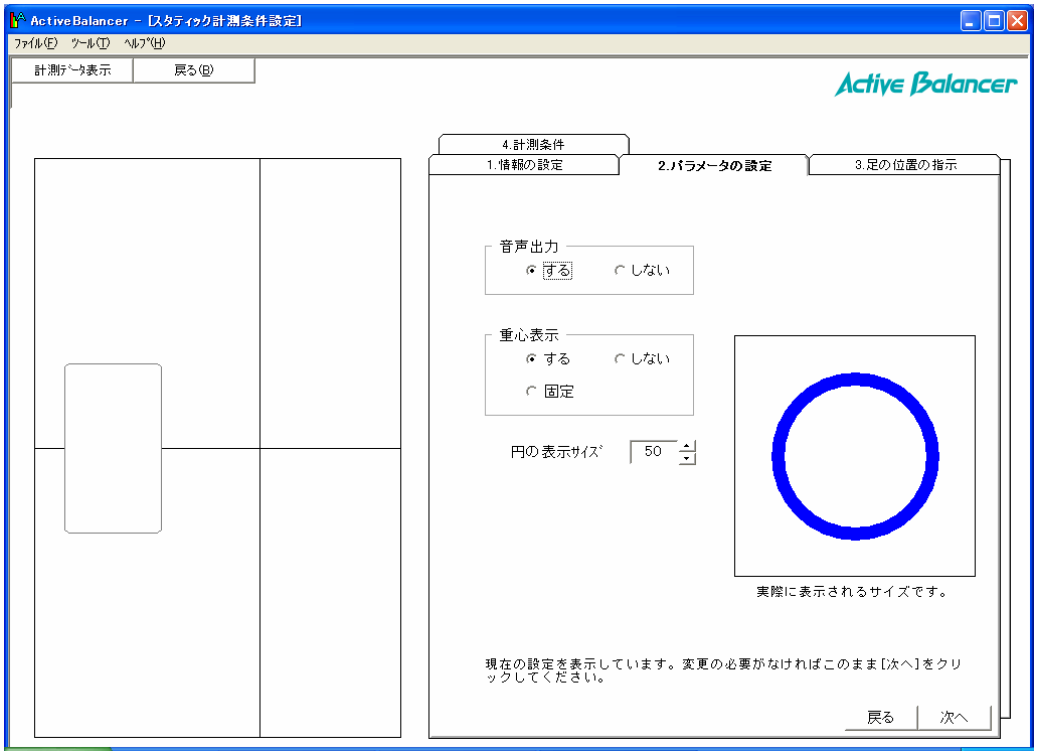
（1）計測情報を入力して（省略可能）、[次へ] ボタンをクリックします（タブをクリックしても切り替えできません）。



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することもできます。全角１０文字以内。

メモ　　直接入力するか、あるいはメモ入力補助ファイルに記述してある場合はリストから選択することもできます。
全角３０文字以内。

（2）現在のパラメータ（保存値）が表示されます。必要があれば変更して［**次へ**］ボタンをクリックします。

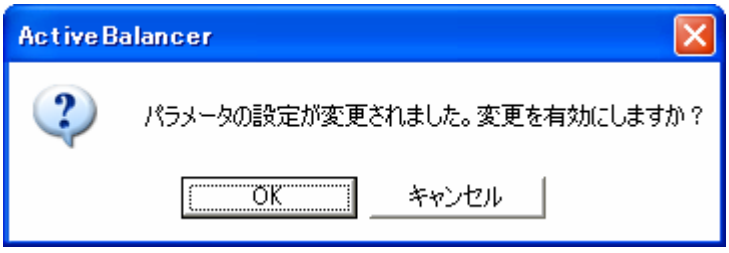


音声出力　　「する」・・・・・・・ 計測開始時および終了時に音声出力します。
「しない」・・・・・ 音声出力しません。

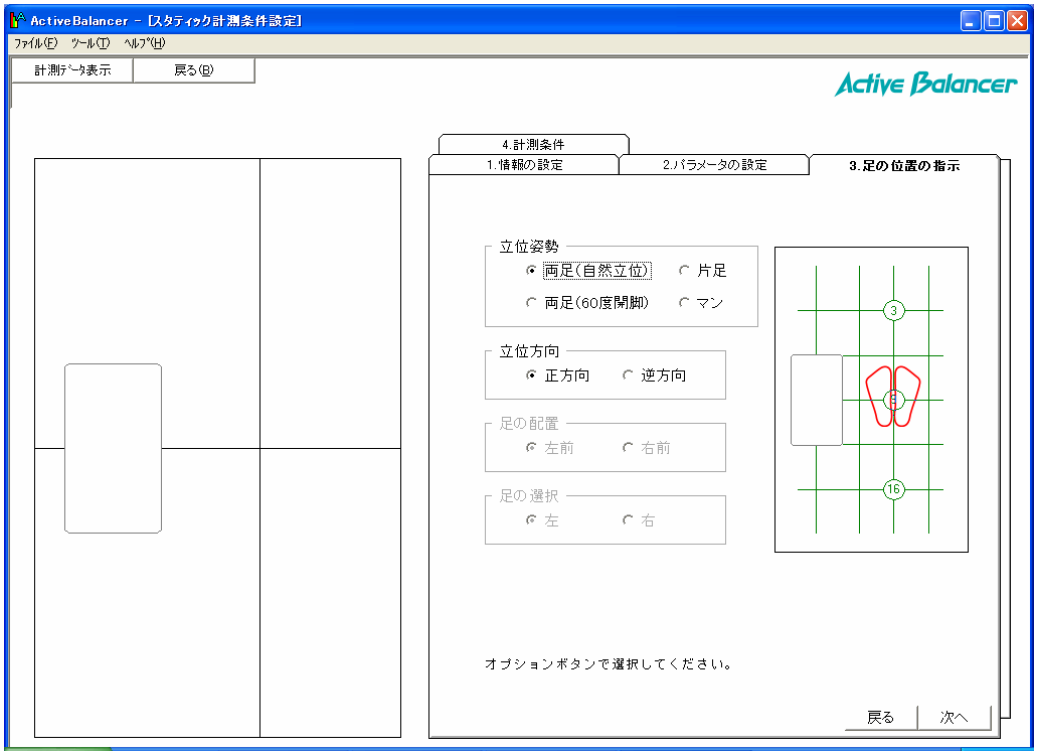
重心表示　　「する」・・・・・・・ 実測位置を表示します。
「しない」・・・・・ 表示しません。
「固定」・・・・・・・ 画面中央に固定して表示します。

円の表示サイズ　　重心を示す円の画面表示サイズです。
１０～５０[mm]の範囲で指定します。

参考 パラメータを変更して［**次へ**］ボタンをクリックすると以下のような問い合わせがあります。［**OK**］ボタンをクリックすると変更が有効になります。



（3）足の位置を指定して［**次へ**］ボタンをクリックします。



立位姿勢　　「両足（自然立位）」、「両足（６０°開脚）」、「片足」、「マン」の中から選択します。

立位方向　　「正方向」、「逆方向」の何れかを選択します。検出台の向きを示します。

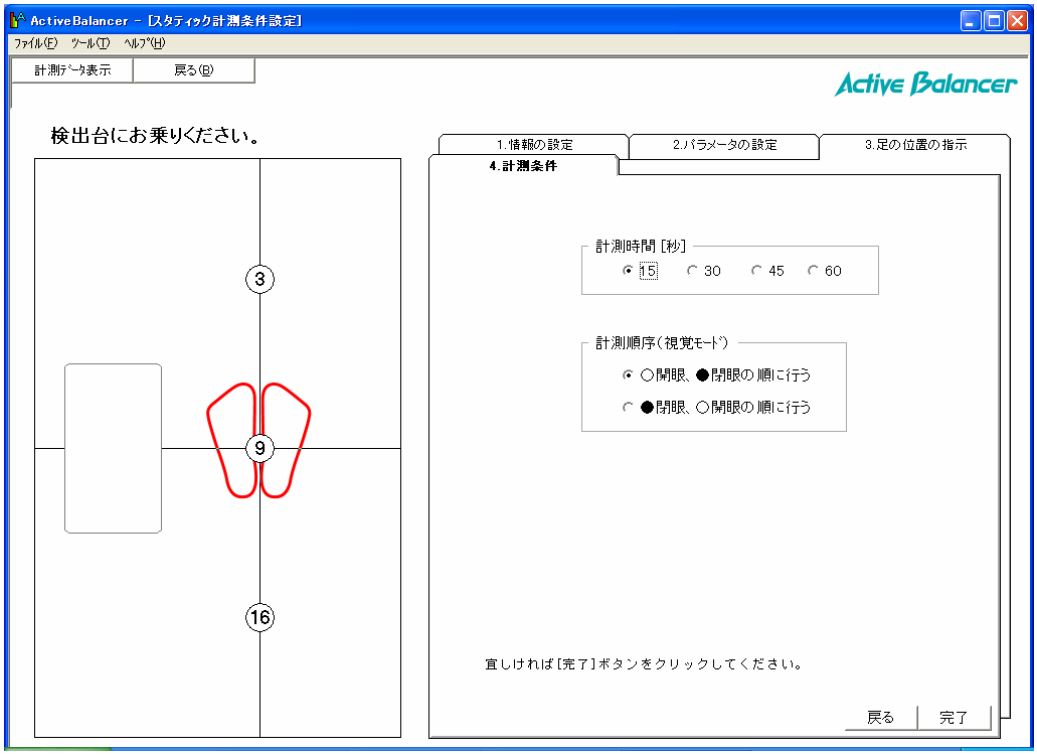
足の配置　　立位姿勢が「マン」の場合「左前」、「右前」の何れかを選択します。

足の選択　　立位姿勢が「片足」の場合「左」、「右」の何れかを選択します。

（4）被検者に検出台に乗ってもらいます。
画面には、足の位置が表示されますので被検者に画面と同じ位置に立ってもらいます。

参考 足の位置の基準は、被検者の腓骨果（くるぶし）を№９の横軸にあわせ、№９の縦軸に両足のあわせ部（両足立位の場合）または、第２趾と踵中心を結んだ線（マン及び片足立位の場合）を合わせるように足の位置を決めてください。

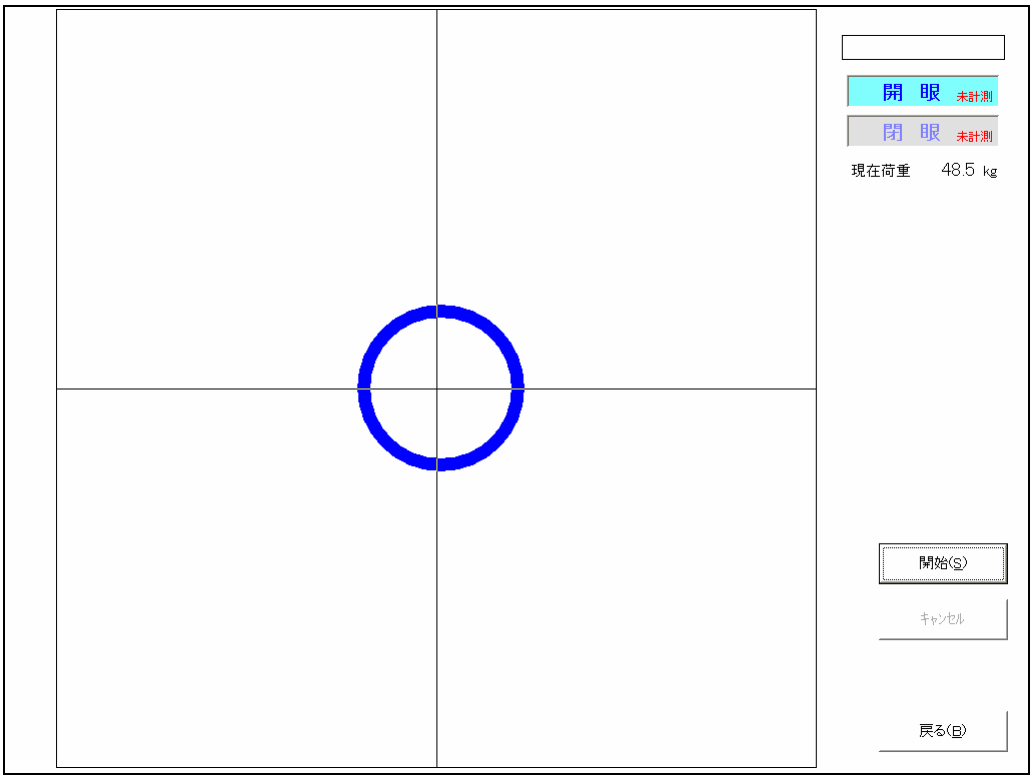
（5）計測条件を設定して［完了］ボタンをクリックします。



計測時間　　「１５秒」、「３０秒」、「４５秒」、「６０秒」の何れかを選択します。

計測順序　　「開眼、閉眼の順に行う」
「閉眼、開眼の順に行う」の何れかを選択します。

（6）被検者の重心位置が表示されます。被検者に重心が揺れないようにする練習を行ってもらいます。



（7）計測実施：

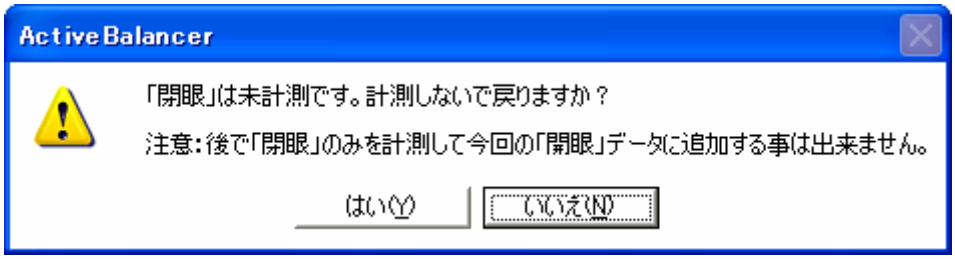
- 被検者の重心の揺れが安定したところで［**開始(S)**］ボタンをクリックして計測を開始します。
- 設定時間が経過すると自動的に終了します。
- 続いてもう一方の視覚モードで計測を行います。［**開始(S)**］ボタンをクリックしてください。
- 計測途中で［**キャンセル**］ボタンをクリックすると計測を中止することができます。
- 開眼、閉眼の両モードの計測が終了すると計測データは自動的に保存されます。これで計測は終了です。

被検者の動作

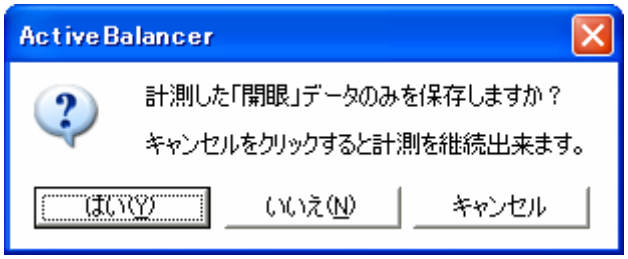
- 練習の延長で計測を行いますので、重心が揺れないようにして検出台に立ってもらいます。
- 一度計測が終わっても、引き続きもう一方の視覚モードで計測を行いますので、検出台に立って待ってもらいます。
- 両モードでの計測が終わったら検出台から降りてもらいます。

(8) ［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「スタティック計測条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件で計測を行うことができます。

参考 一方の視覚モードのみが終わった状態で［**戻る(B)**］ボタンクリックすると以下のような問合せがあります。



［**はい(Y)**］ボタンクリックすると更に以下のような問合せがあります。



［**はい(Y)**］ボタンクリックすると計測済みの視覚モードのみのデータが保存されます。［**いいえ(N)**］ボタンクリックするとデータは破棄されます。

６－２－１－２　部分負荷トレーニング操作手順

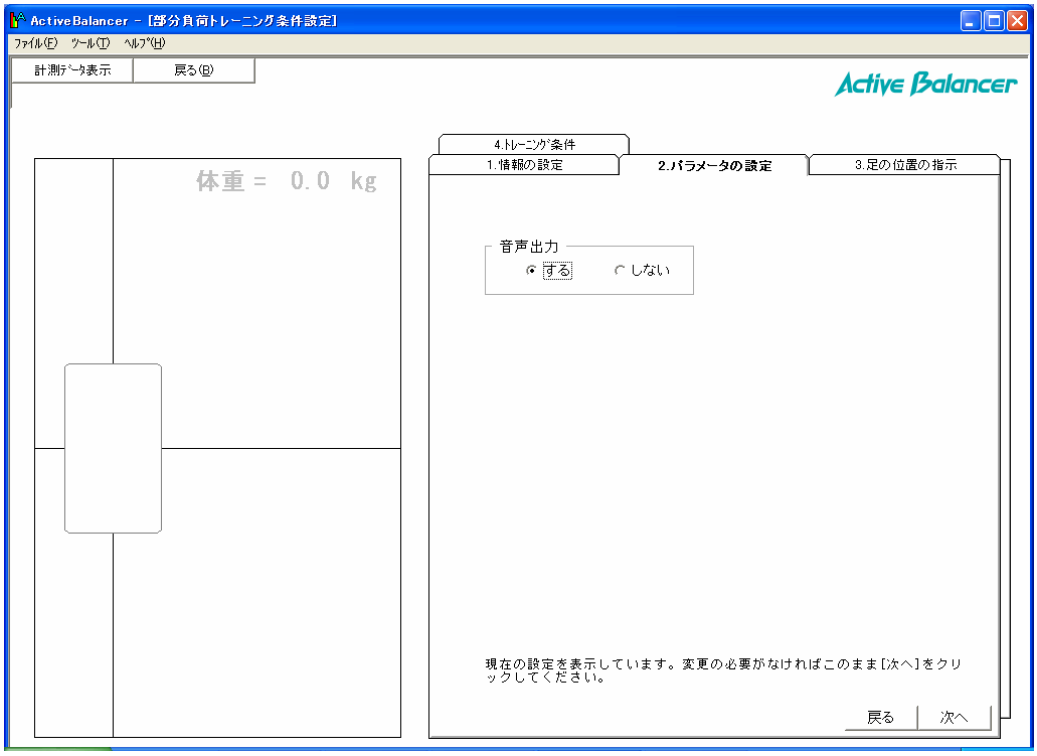
部分負荷トレーニングの手順を説明します。被検者には手順（３）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＡを使用してください。

（1）トレーニング情報を入力して（省略可能）、[次へ] ボタンをクリックします（タブをクリックしても切り替えできません）。

担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することもできます。全角１０文字以内。

メモ　　直接入力するか、あるいはメモ入力補助ファイルに記述してある場合はリストから選択することもできます。
全角３０文字以内。

（2）現在のパラメータ（保存値）が表示されます。必要があれば変更して［**次へ**］ボタンをクリックします。

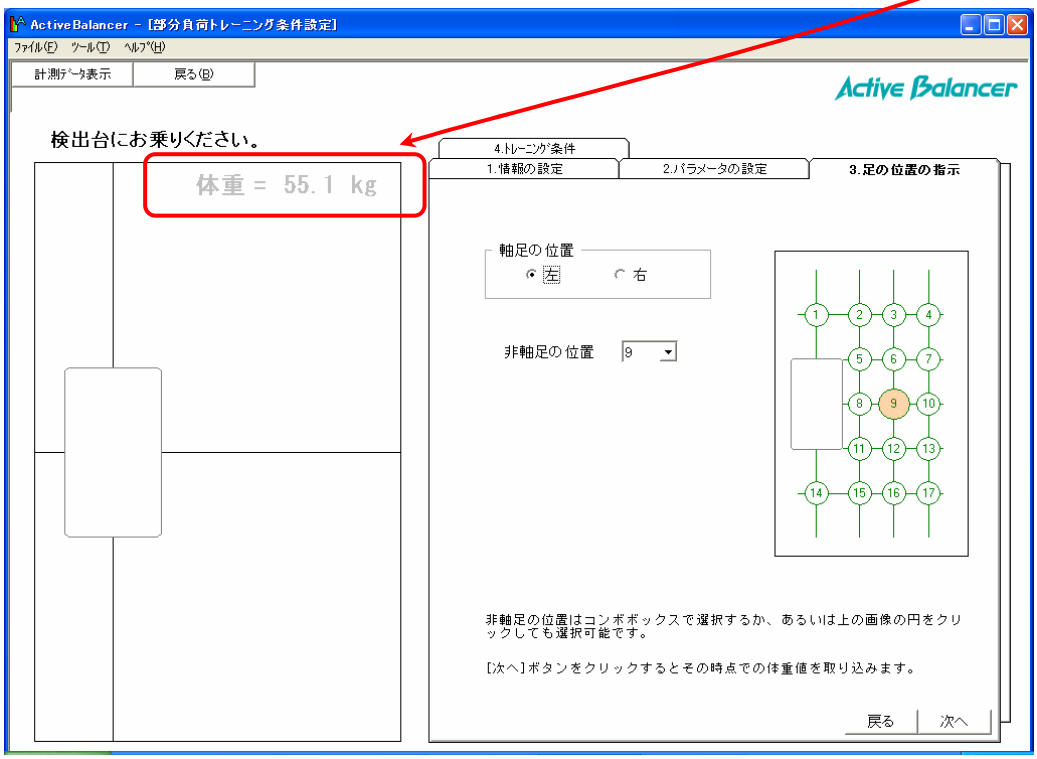


音声出力　　「する」・・・・・・・ 計測開始時、終了時および目標荷重範囲外になった時に音声出力します。

「しない」・・・・ 音声出力しません。

（3）被検者に検出台に乗ってもらいます（体重が表示されます）。

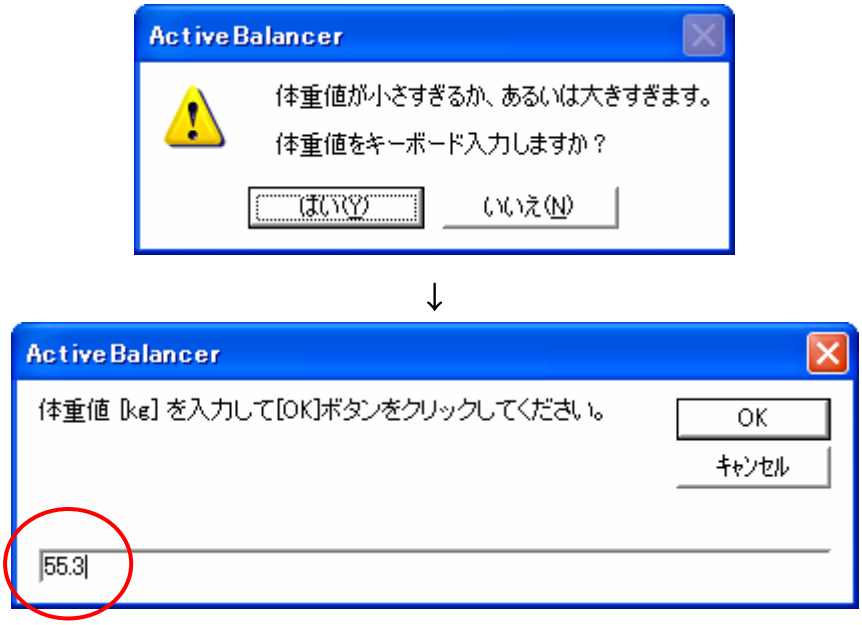
（4）足の位置を指定して［**次へ**］ボタンをクリックします。
［**次へ**］ボタンをクリックした時の体重値が被検者体重となりますので、被検者にはなるべく静止していてもらいます。



軸足の位置　　小さいプレート（上絵中の小さい長方形）に置く足を軸足とし「左」、「右」から選択します。

非軸足の位置　　非軸足の位置（No.1～No.17）を選択します。リストから選択するか、あるいは絵中の①～⑰をクリックしてください。

参考 ［次へ］ボタンをクリックした時に被検者が乗っていない等で検出体重が適切でない場合には以下の問合せがあります。［はい(Y)］ボタンをクリックするとキーボードから入力することができます（半角、全角いずれでも可）。

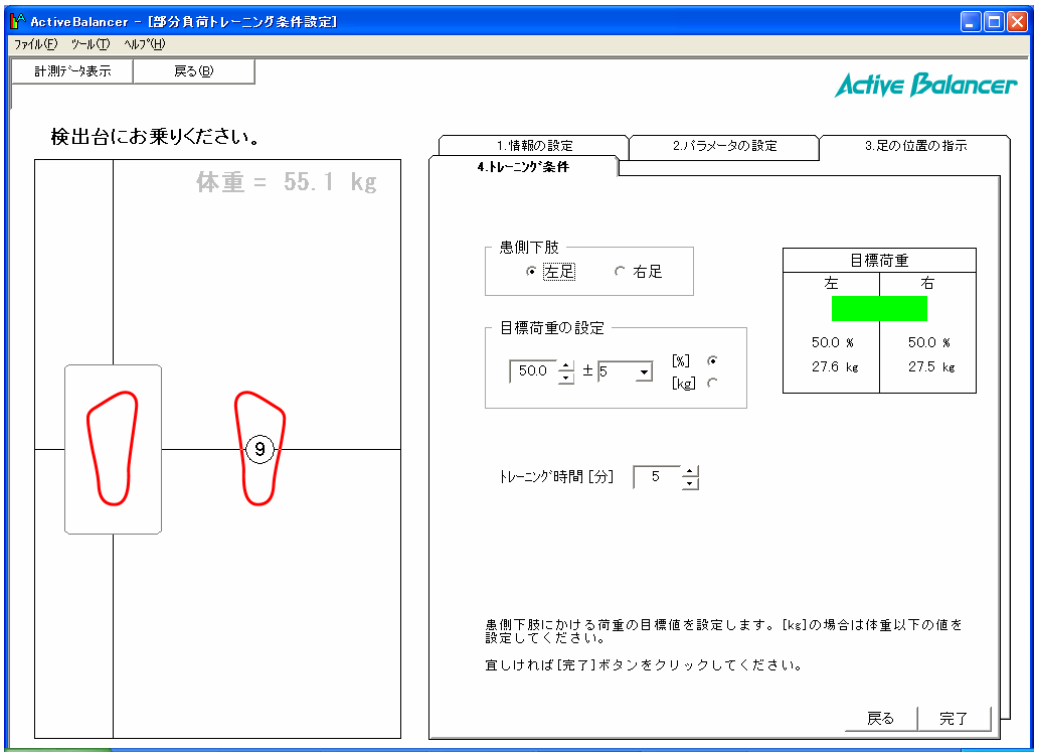


［いいえ(N)］ボタンをクリックした場合には適切な体重を検出するまで次の設定タブに進むことはできません。被検者が検出台に乗っているにもかかわらず上記の問合せがある場合はキャリブレーションをやり直してください。

※本機能は被検者が単独でも操作できるようにする為の機能ですが、通常は被検者に乗ってもらい体重値を計ってください。

（5）画面には足の位置が表示されますので、被検者には画面と同じ位置に立ってもらいます。

（6）トレーニング条件を設定して［完了］ボタンをクリックします。



患側下肢　　患側下肢を「左足」、「右足」から選択します。

目標荷重　　患側下肢に対する荷重目標を設定します。単位は「%」、「kg」の何れかを選択します。

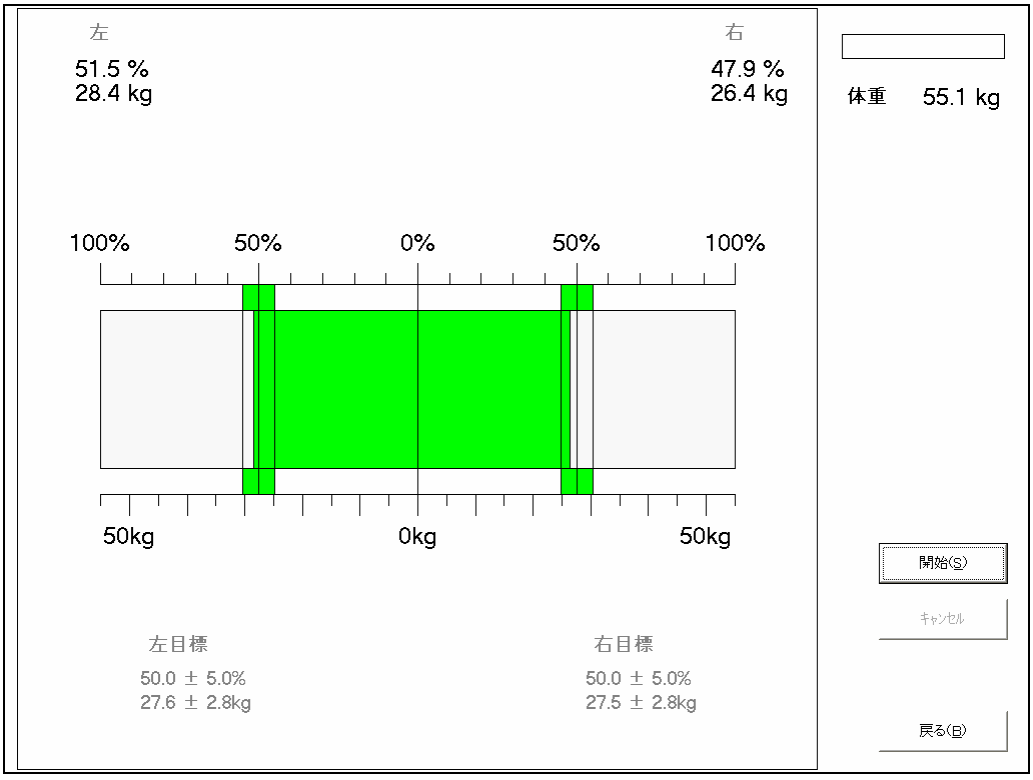
トレーニング時間　　１～６０[分]の範囲で設定します。

（7）被検者の荷重状態が表示されます。

- ［**開始(S)**］ボタンをクリックしてトレーニングを開始します。
- トレーニング途中で［**キャンセル**］ボタンをクリックするとトレーニングを中止することができます。
- 設定時間が経過すると自動的に終了し、計測データは自動的に保存されます。

被検者の動作

- 軸足・非軸足の荷重バランスを調整して、バーの色が緑色になるようにしてもらいます。赤色になると体重のかけ過ぎ、黄色は不足を表します。
- トレーニングが終了したら検出台から降りてもらいます。

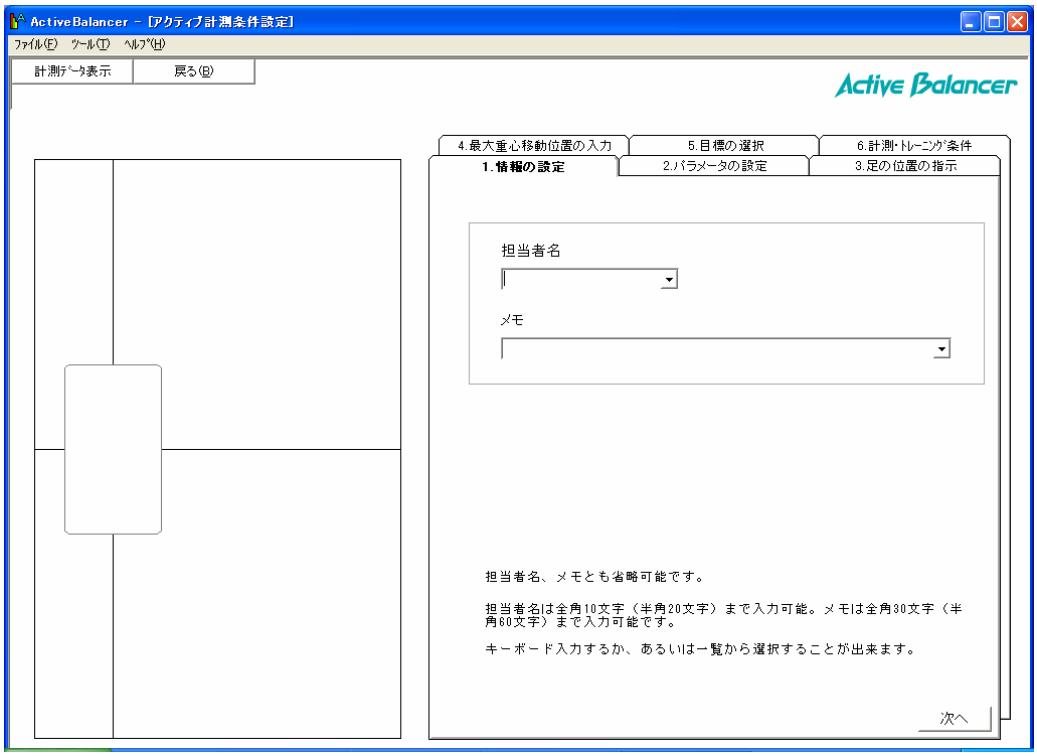


（8）［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「部分負荷トレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件でトレーニングを行うことができます。

６－２－１－３　アクティブ計測操作手順

アクティブ計測の手順を説明します。被検者には手順（４）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＡを使用してください。

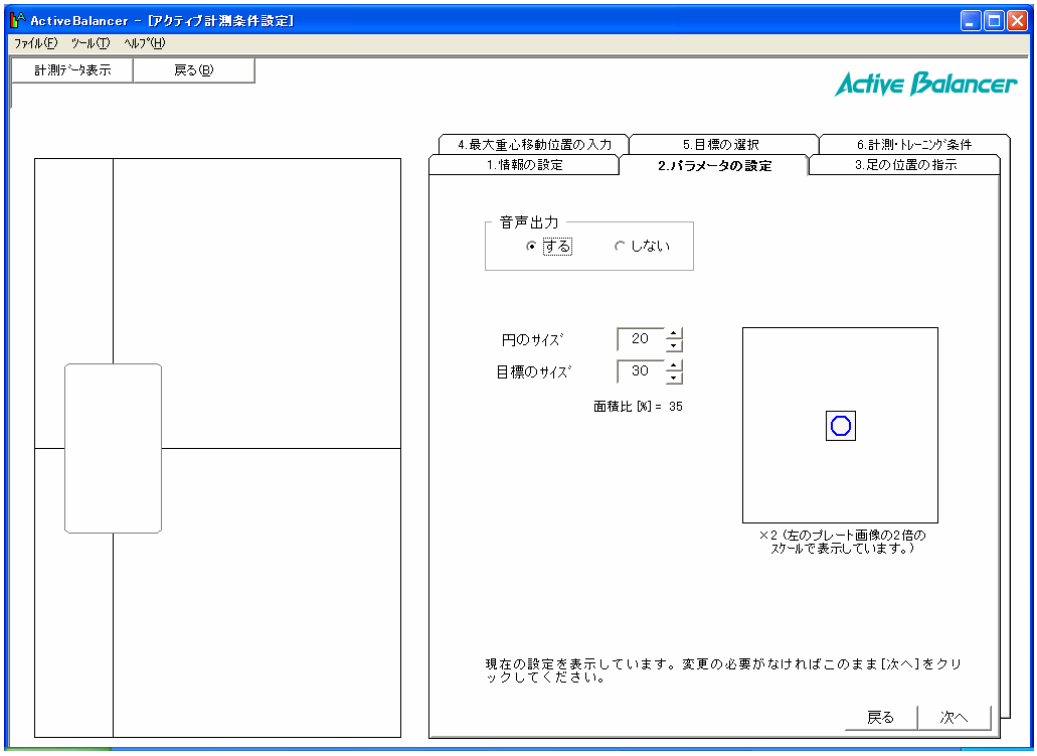
（1）計測情報を入力して（省略可能）、[次へ]ボタンをクリックします（タブをクリックしても切り替えできません）。



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することもできます。全角１０文字以内。

メモ　　直接入力するか、あるいはメモ入力補助ファイルに記述してある場合はリストから選択することもできます。
全角３０文字以内。

（2）現在のパラメータ（保存値）が表示されます。必要があれば変更して［**次へ**］ボタンをクリックします。



音声出力　　「する」・・・・・・・ 計測開始時、終了時および重心位置が目標範囲内に入った時に音声出力します。
「しない」・・・・ 音声出力しません。

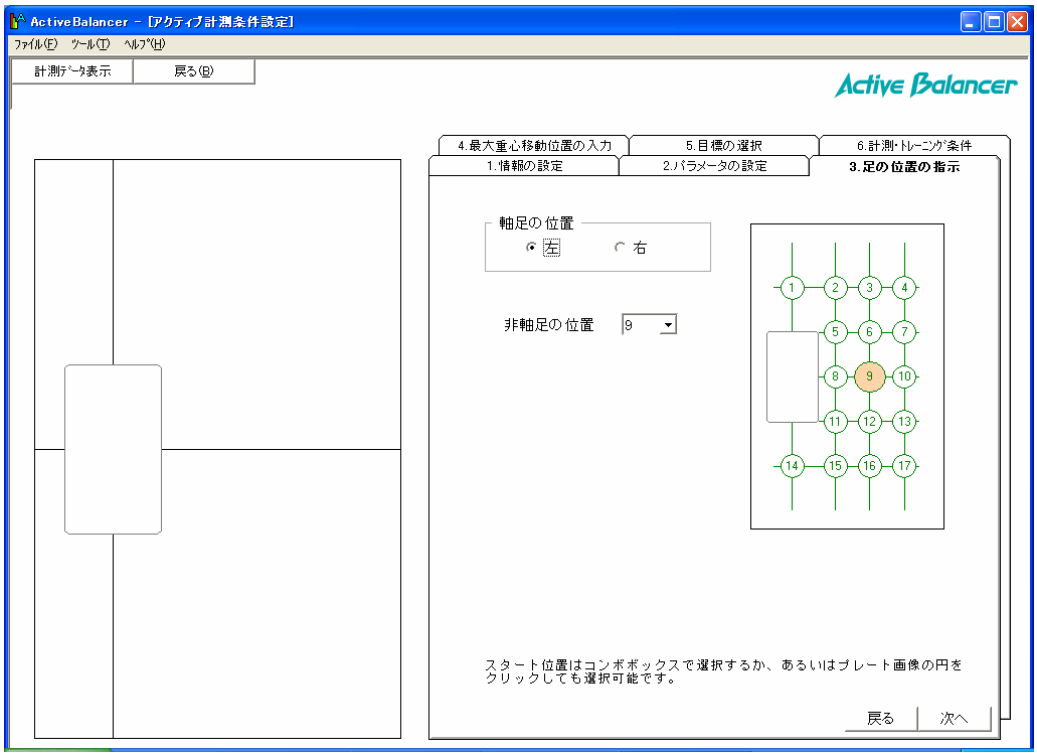
円のサイズ　　重心位置を示す円の検出台上でのサイズ（直径）を１０～５０[mm]の範囲で指定します。

目標のサイズ　　目標位置を示す正方形の検出台上でのサイズ（辺の長さ）を２０～１００[mm]の範囲で指定します。

参考 目標範囲内に入ったか否かの判定は円の中心、即ち重心位置が目標範囲にある／ないで判断します。従って目標のサイズを大きくすると目標内に入りやすくなりますが、円のサイズを大きくしても入りやすさは変わりません。

参考「アクティブ計測」ウィンドウの表示スケールは両足間距離に比例して変わります。従って円／目標サイズが同一の場合でも非軸足位置によりそれらの表示サイズは変わります。

（3）足の位置を指定して［**次へ**］ボタンをクリックします。

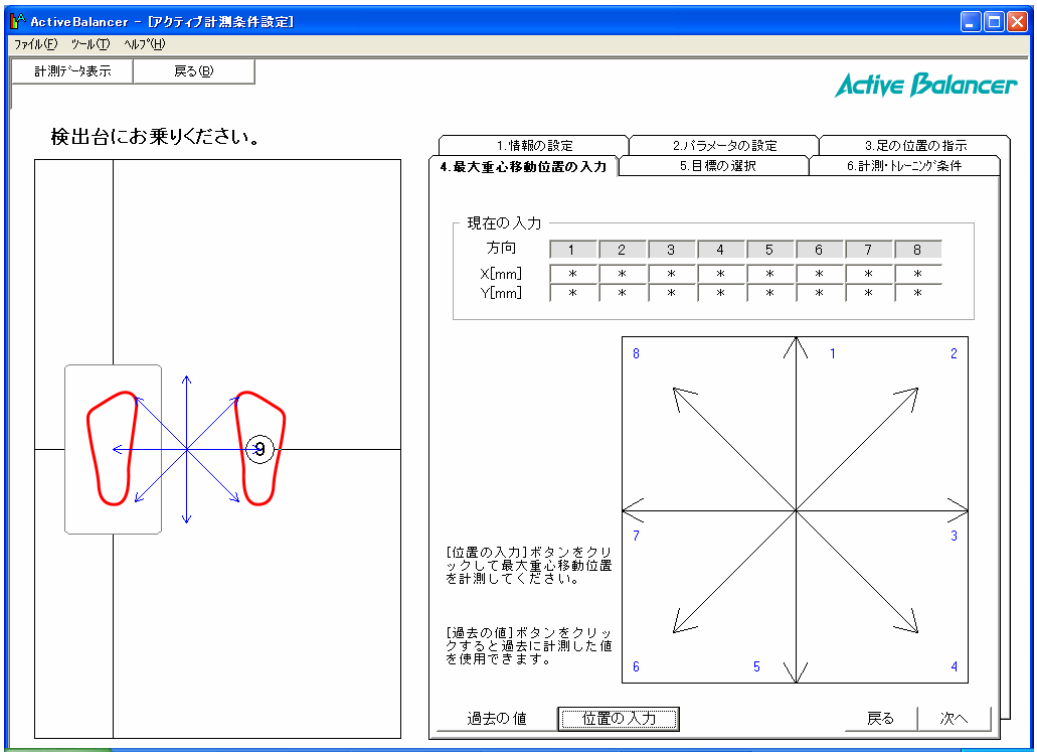


軸足の位置　　小さいプレート（上絵中の小さい長方形）に置く足を軸足とし「左」、「右」から選択します。

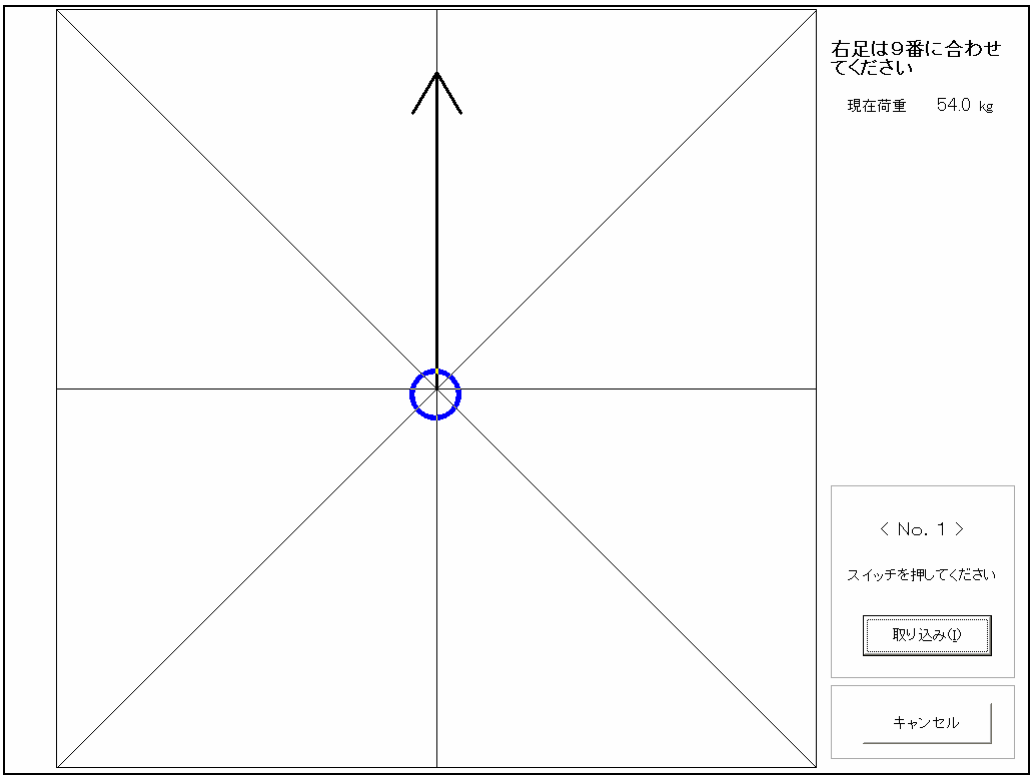
非軸足の位置　　非軸足の位置（No.1～No.17）を選択します。リストから選択するか、あるいは絵中の①～⑰をクリックしてください。

（4）被検者に検出台に乗ってもらいます。画面には足の位置が表示されますので、画面と同じ位置に立ってもらいます。

（5）最大重心移動位置の設定をして［次へ］ボタンをクリックしてください。



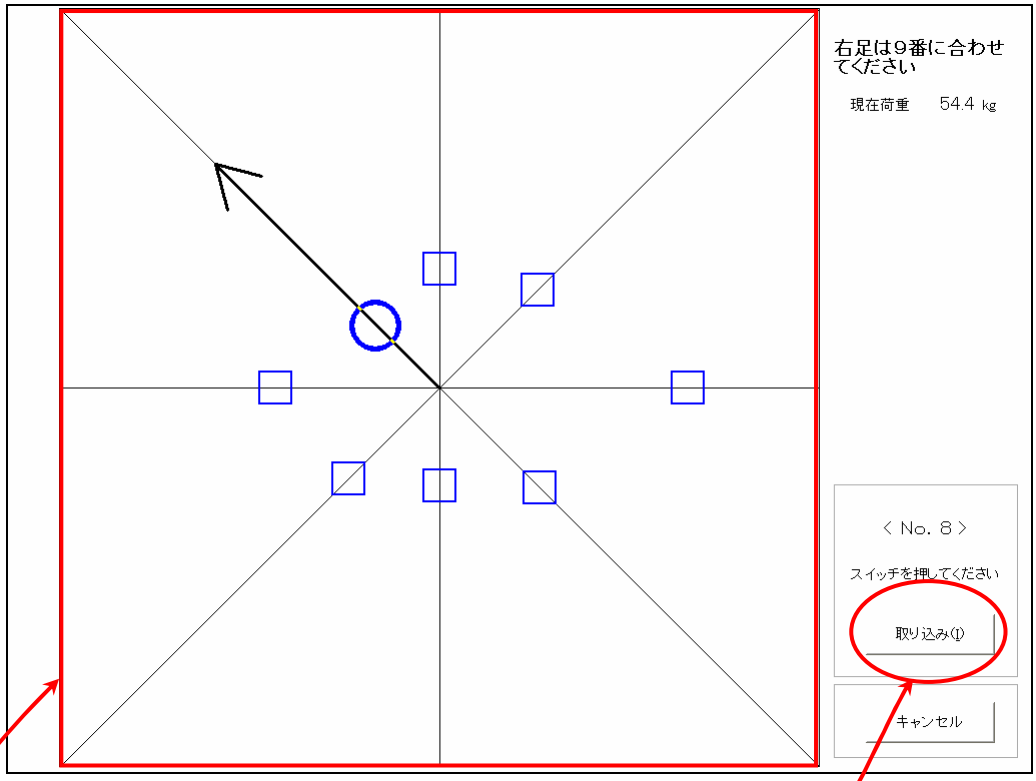
■ **最大重心移動位置の入力：**[位置の入力] ボタンをクリックすると「最大重心位置入力」ウィンドウが表示されます。



被検者の動作

- 足の位置を変えずに画面に表示される矢印の方向に重心（〇印）を移動し、最大と思うところで手元スイッチを押してもらいます。
- 同じ要領で、８方向の最大値を入力してもらいます。

例：７方向入力済みの状態



- **被検者が手元スイッチを押せない場合**
  手元スイッチを押す代わりに［取り込み(I)］ボタンをクリックすることにより重心位置を入力できます。

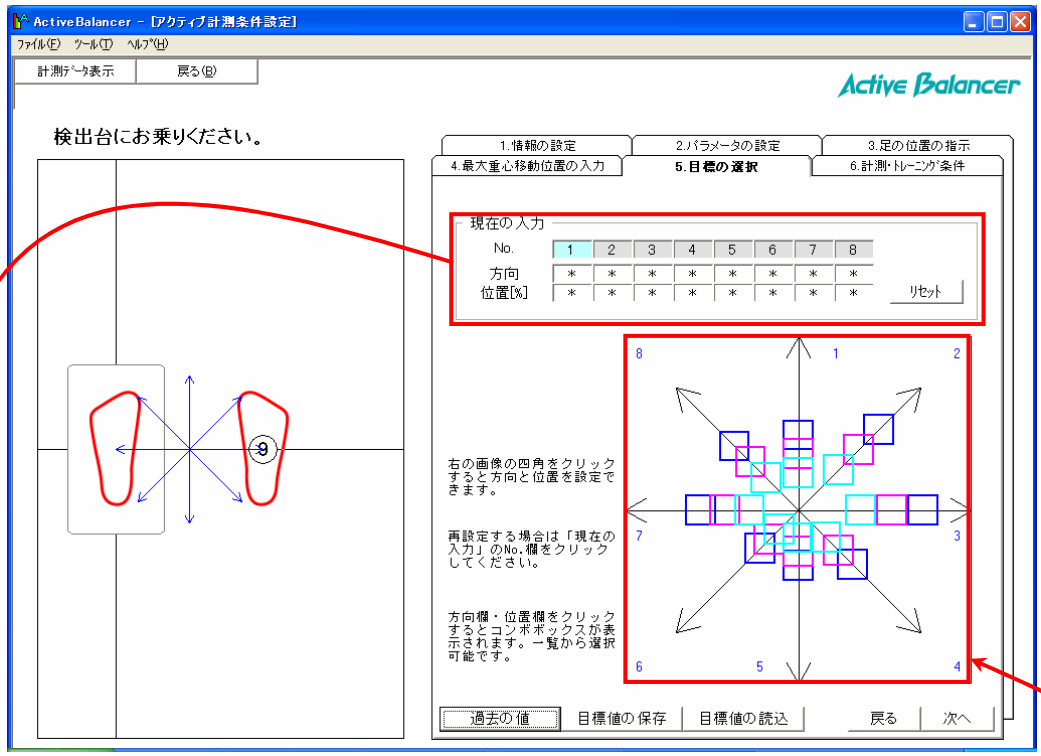
- **被検者が特定の方向に重心を移動できない場合**
  代わりにマウスを使用して位置を指定できます。
  重心表示部にマウスを移動するとマウスカーソルが十字（＋）に変わります。矢印上の指定したい位置で［Shift］押下しながらマウスクリックしてください。

８方向の入力がなされると「アクティブ計測条件設定」ウィンドウに自動的に戻ります。８方向入力完了前に［**キャンセル**］ボタンをクリックすると入力を破棄して「アクティブ計測条件設定」ウィンドウに戻ります。

■ 過去に入力した重心最大移動位置をコピーして使用する

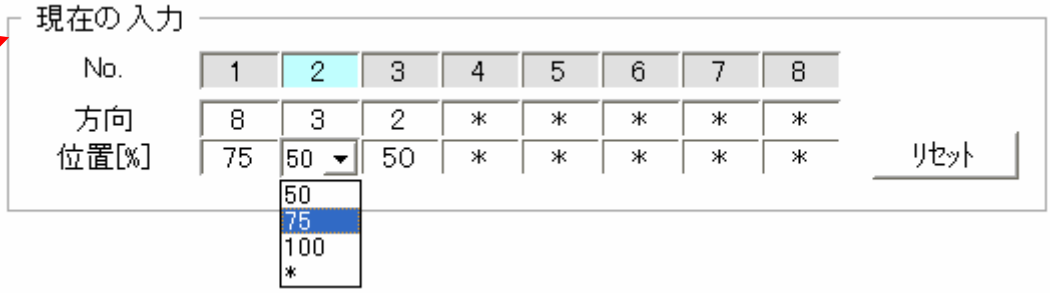
【６－２－２　過去の最大重心移動位置データを条件設定に使用する】を参照してください。

（6）目標を選択して［**次へ**］ボタンをクリックします。



■ 目標の選択

- 各方向に３個の目標（□枠）が表示されます。これをクリックすると、方向欄に方向、位置[%]欄に目標の位置割合が表示されます。表示している目標の位置割合は入力された最大値に対して外側から内側に向かって１００%、７５%、５０%になります。
- 目標は、最大８ヶ所入力できます。計測を行う順に選択してください。
- 入力値を変更する場合は、№欄をクリックしてから（№欄が水色になります）再選択してください。
- 目標（□枠）が接近していて選択しづらい場合には方向欄、位置[%]欄をクリックしてください。リストから選択することができます。
- ［**リセット**］ボタンをクリックすると入力値がクリアされます。



■ 過去に選択した目標値と同じにする

【６－２－３　過去の条件から目標値をコピーする

（アクティブ計測／トレーニング）】を参照してください。

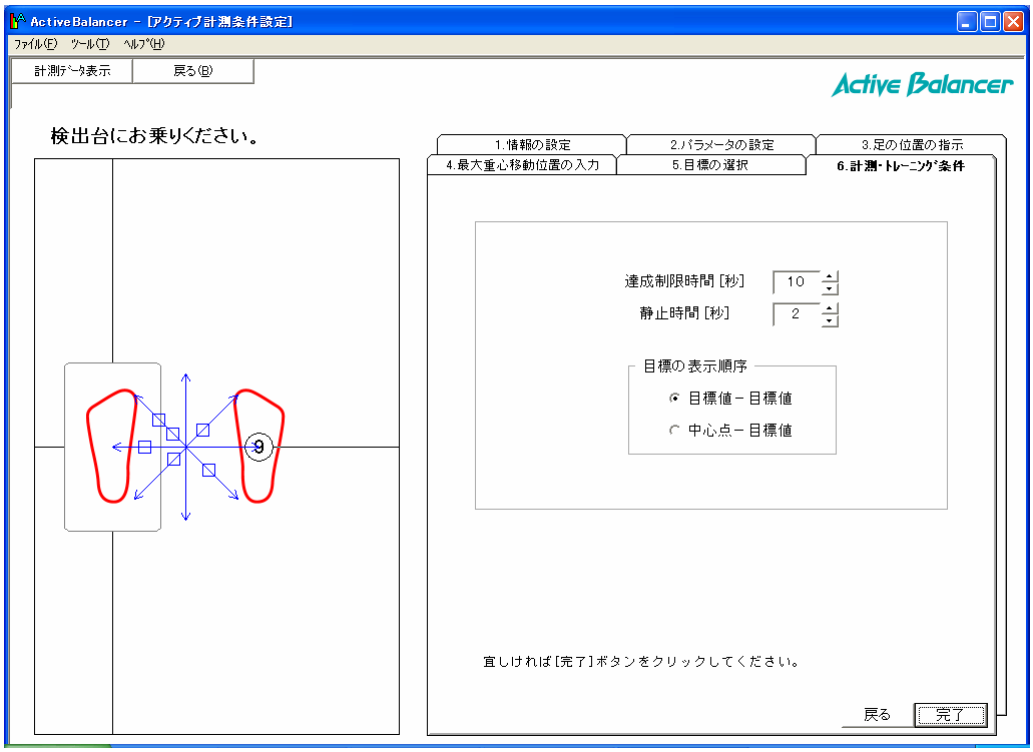
■ 目標値パターンを保存しておく

【６－２－４　目標値パターンを保存する（アクティブ計測／トレーニング)】を参照してください。

■ 保存してある目標値パターンを使用する

【６－２－５　保存した目標値パターンを使用する／削除する（アクティブ計測／トレーニング)】を参照してください。

（7）計測条件を設定して［**完了**］ボタンをクリックします。



達成制限時間　　個々の目標を表示する最大の時間です。１～２０秒の範囲で設定します（静止時間より大きい値のみ入力可)。
この時間が経過するか、あるいは目標範囲に重心が入っている時間の累計が静止時間に達した場合（＝達成）には次の目標を表示します。

静止時間　　０～５[秒]の範囲で設定します（達成制限時間より小さい値のみ入力可)。０秒の場合は目標範囲に重心が入った時点で静止時間経過とみなします。

目標の表示順序　「目標値－目標値」：目標を順次表示します。
「中心点－目標値」：中心点－目標を順次表示します。

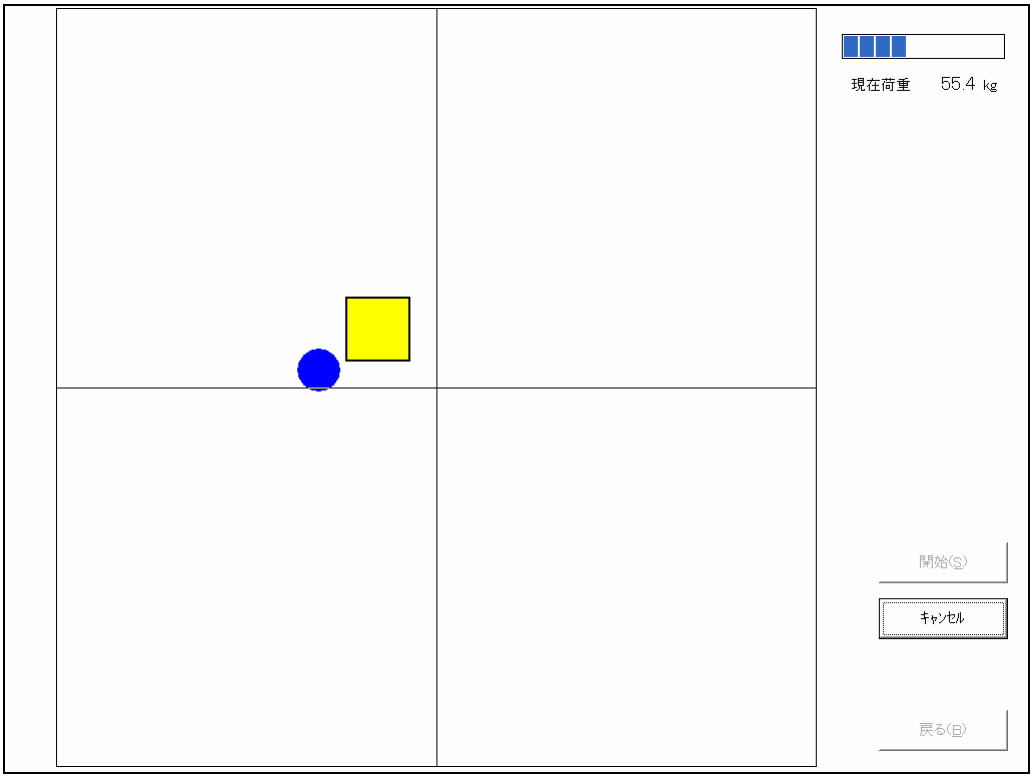
（8）被検者の重心位置が表示されます。

- ［**開始(S)**］ボタンをクリックして計測を開始します。
- 重心が目標範囲内に入っている場合には目標の色が黄色から水色に変わります。
- 目標を表示し終わると自動的に終了し、計測データは自動的に保存されます。
- 計測途中で［**キャンセル**］ボタンをクリックすると計測を中止することができます。

被検者の動作

- 計測開始前に重心を中心位置（縦横線の交点）に移動してもらいます。
- 計測を開始すると目標が□で表示されますので、自分の重心（○印）を移動して、□の中に入れて次の目標が表示されるまで静止してもらいます。
- 次の目標が表示されたら、また自分の重心を移動して□の中に入れてもらいます。
- 計測が終了したら検出台から降りてもらいます。

例：重心が目標範囲外の場合



(9) ［戻る(B)］ボタンをクリックすると「アクティブ計測条件設定」ウィンドウに戻ります。［開始(S)］ボタンをクリックすると続けて同じ条件で計測を行うことができます。

６－２－１－４　アクティブトレーニング操作手順

アクティブトレーニングの手順を説明します。基本的操作は、**６－２－１－３ アクティブ計測操作手順**（P.60）と同じです。操作方法が異なるところを説明します。被検者には手順（４）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＡを使用してください。

（1）トレーニング情報の入力

【P.60（1）】を参照してください。

（2）パラメータの設定

【P.61（2）】を参照してください。

（3）足の位置の指定

【P.62（3）】を参照してください。

（4）被検者に検出台に乗ってもらいます。画面には足の位置が表示されますので、画面と同じ位置に立ってもらいます（アクティブ計測と同様です）。

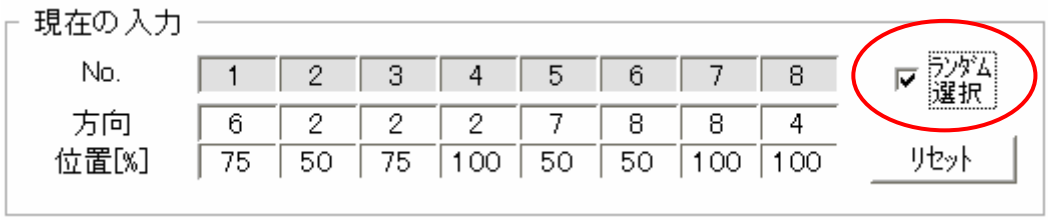
（5）最大重心移動位置の入力

【P.63（5）】を参照してください。

（6）目標値の選択

「ランダム選択」の項目以外はアクティブ計測と同様です。

【P.66（6）】を参照してください。

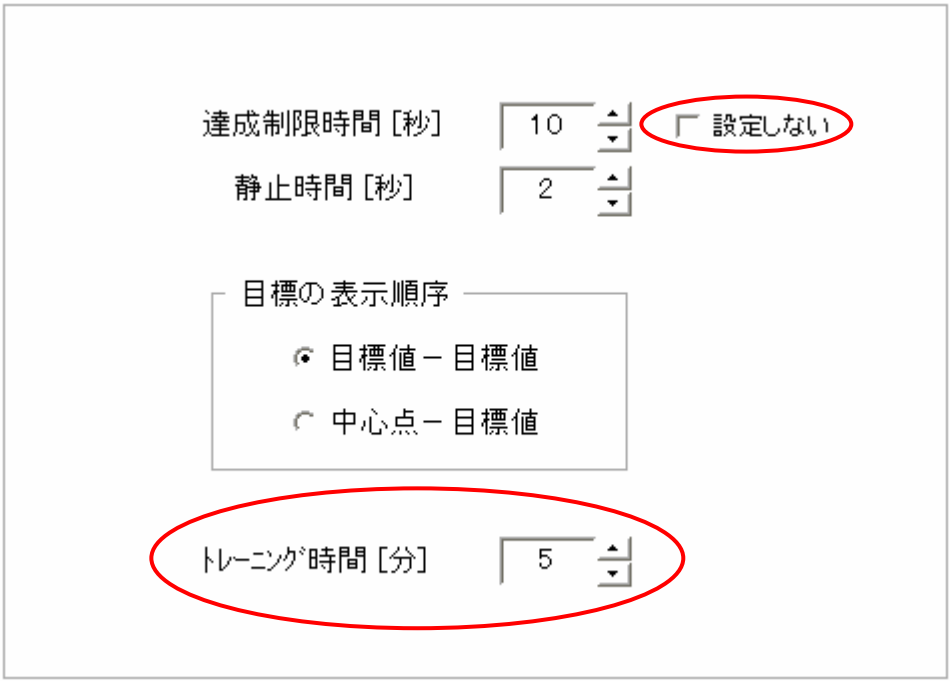


ランダム選択	ON（チェックした状態）にすると選択された目標を順番に関係なくランダムに表示します。

（7）トレーニング条件を設定

「トレーニング時間」「（達成制限時間を）設定しない」の項目以外はアクティブ計測と同様です。

【P.67（7）】を参照してください。



トレーニング時間　　１～６０[分]の範囲で設定します。

（達成制限時間を）設定しない　　ON（チェックした状態）にすると達成制限時間の設定は無効になり「達成制限時間＝無制限」になります。
この場合、目標達成した場合にのみ次の目標を表示します。

（8）被検者の重心位置が表示されます。

【P.68（8）】を参照してください。

- ［**開始(S)**］ボタンをクリックすると設定した目標（最大８個）がトレーニング時間内で繰り返し表示されます。

被検者の動作

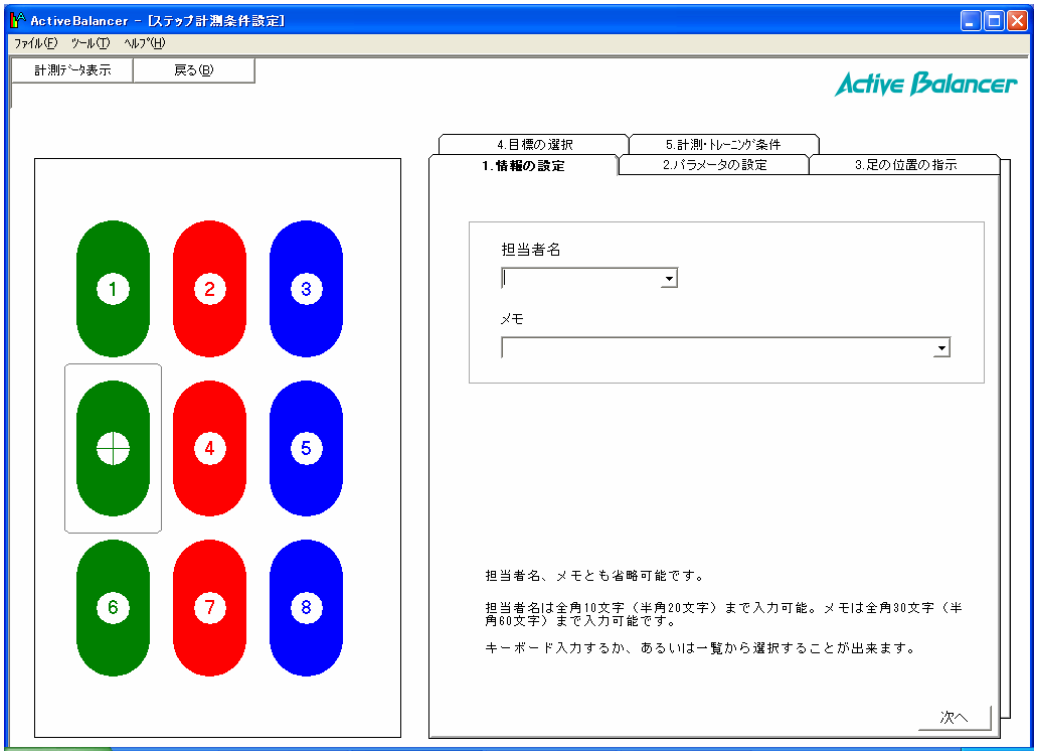
- 「アクティブ計測」と同様の重心移動を行ってもらいます。
- トレーニングが終了したら検出台から降りてもらいます。

（9）［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「アクティブトレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件でトレーニングを行うことができます。

６－２－１－５　ステップ計測操作手順

ステップ計測の手順を説明します。被検者には手順（６）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＢを使用してください。

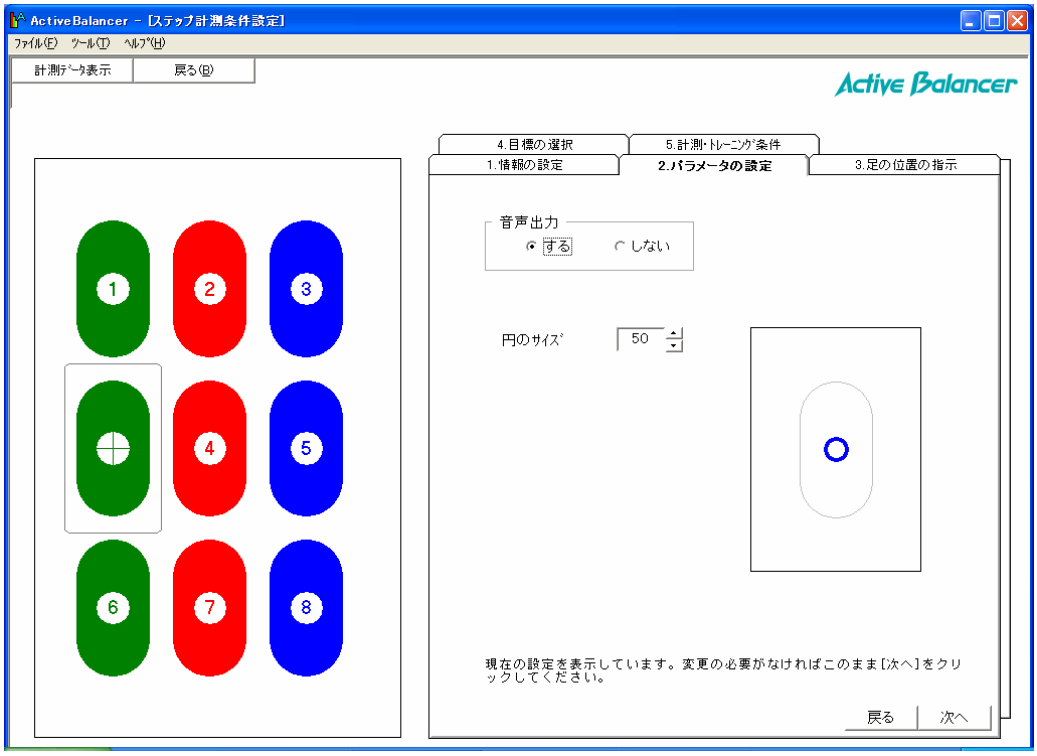
（1）計測情報を入力して（省略可能）、[次へ] ボタンをクリックします（タブをクリックしても切り替えできません）。



担当者名　　直接入力するか、あるいは担当者名入力補助ファイルに担当者名を記述してある場合はリストから選択することもできます。全角１０文字以内。

メモ　　直接入力するか、あるいはメモ入力補助ファイルに記述してある場合はリストから選択することもできます。
全角３０文字以内。

（2）現在のパラメータ（保存値）が表示されます。必要があれば変更して［**次へ**］ボタンをクリックします。

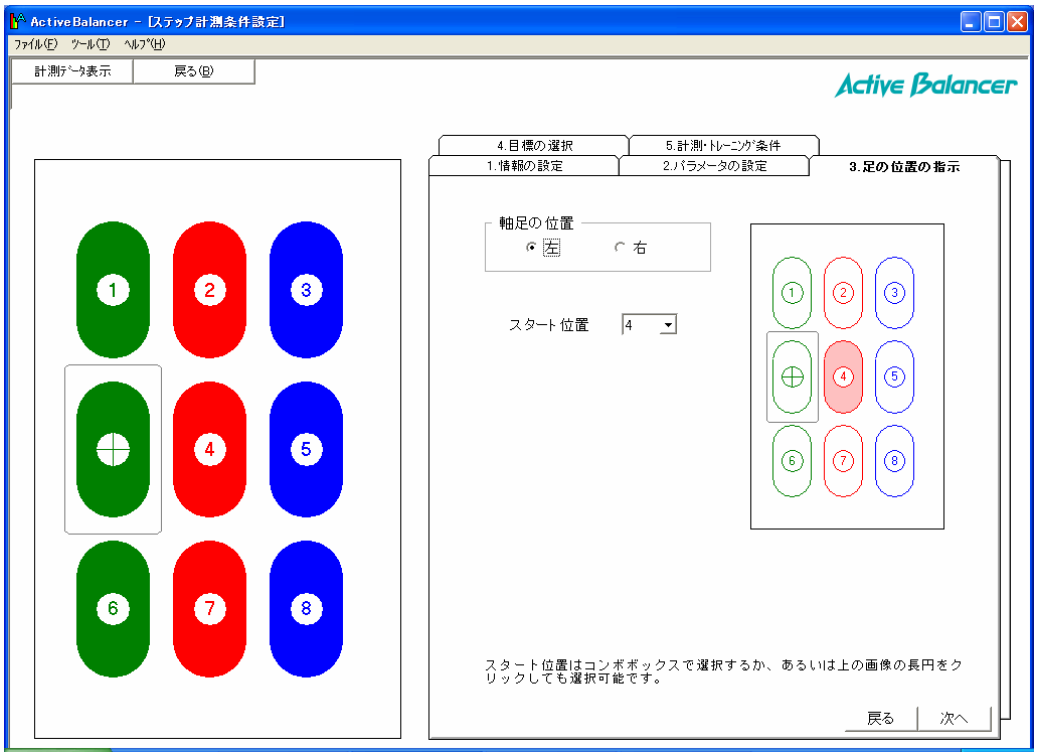


音声出力　　「する」・・・・・・・ 計測開始時、終了時および非軸足位置が目標範囲内に入った時に音声出力します。
「しない」・・・・ 音声出力しません。

円のサイズ　　重心位置を示す円の検出台上でのサイズ（直径）を２０～１００[mm]の範囲で指定します。

参考 目標範囲内に入ったか否かの判定は円の中心、即ち非軸足の足圧中心位置が目標範囲および設定荷重範囲にある／ないで判断します。従って円のサイズを大きくしても入りやすさは変わりません。

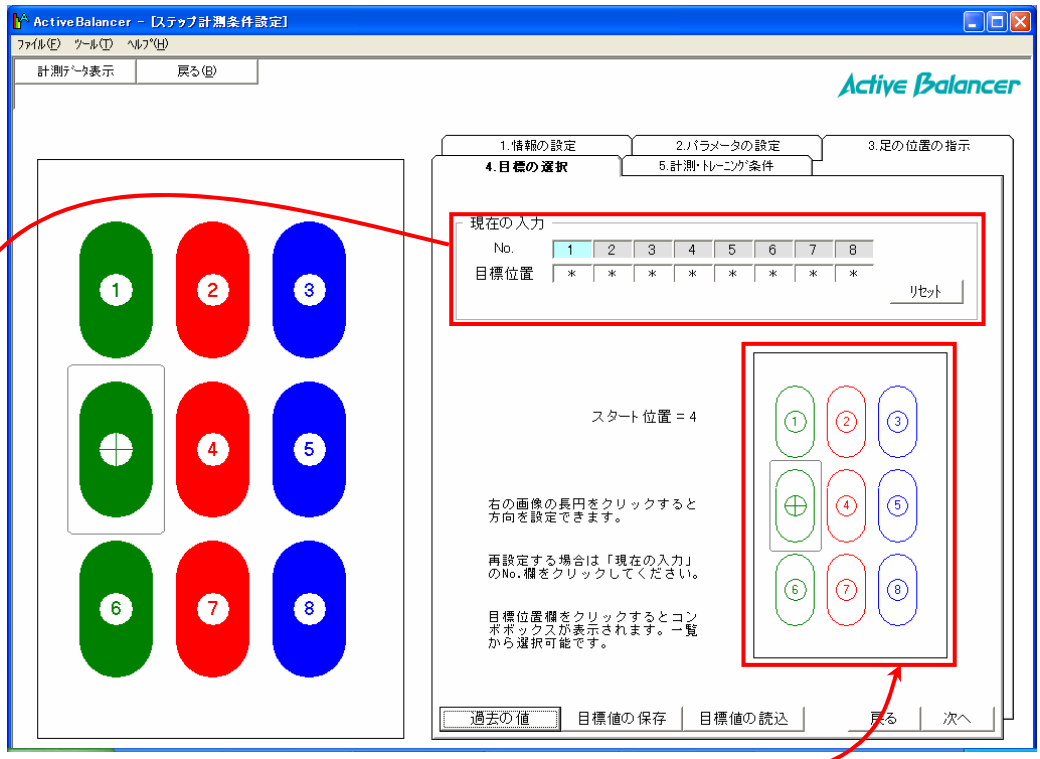
（3）足の位置を指定して［**次へ**］ボタンをクリックします。



軸足の位置　　小さいプレート（上絵中の小さい長方形）に置く足を軸足とし「左」、「右」から選択します。

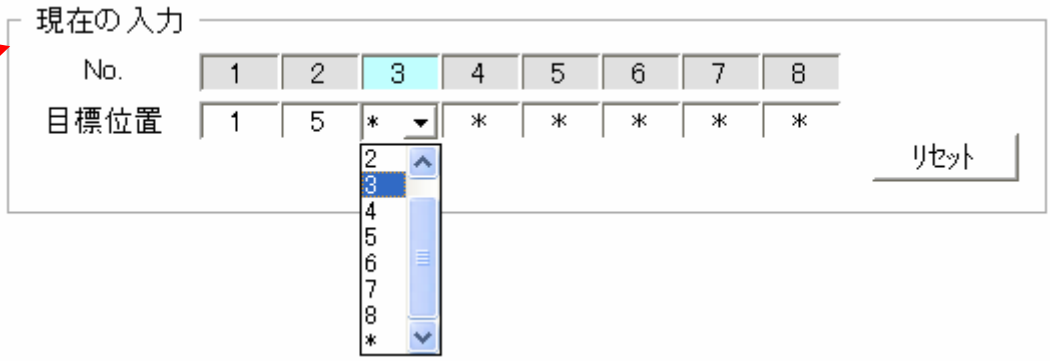
スタート位置　　計測開始時の非軸足（ステップする足）位置（No.1～No.8）を選択します。リストから選択するか、あるいは絵中の①～⑧の長円をクリックしてください。

（4）目標の選択をして［**次へ**］ボタンをクリックしてください。



■ 目標の選択

- 絵中の長円①～⑧クリックすると、目標位置欄に番号が表示されます。
- 目標は、最大８ヶ所入力できます。計測を行う順に選択してください。
- 入力値を変更する場合は、№欄をクリックしてから（№欄が水色になります）再選択してください。
- 目標位置欄をクリックして、リストから選択することもできます。
- ［**リセット**］ボタンをクリックすると入力値がクリアされます。



■ 過去に選択した目標値と同じにする

【６－２－６　過去の条件から目標値をコピーする（ステップ計測／トレーニング)】を参照してください。

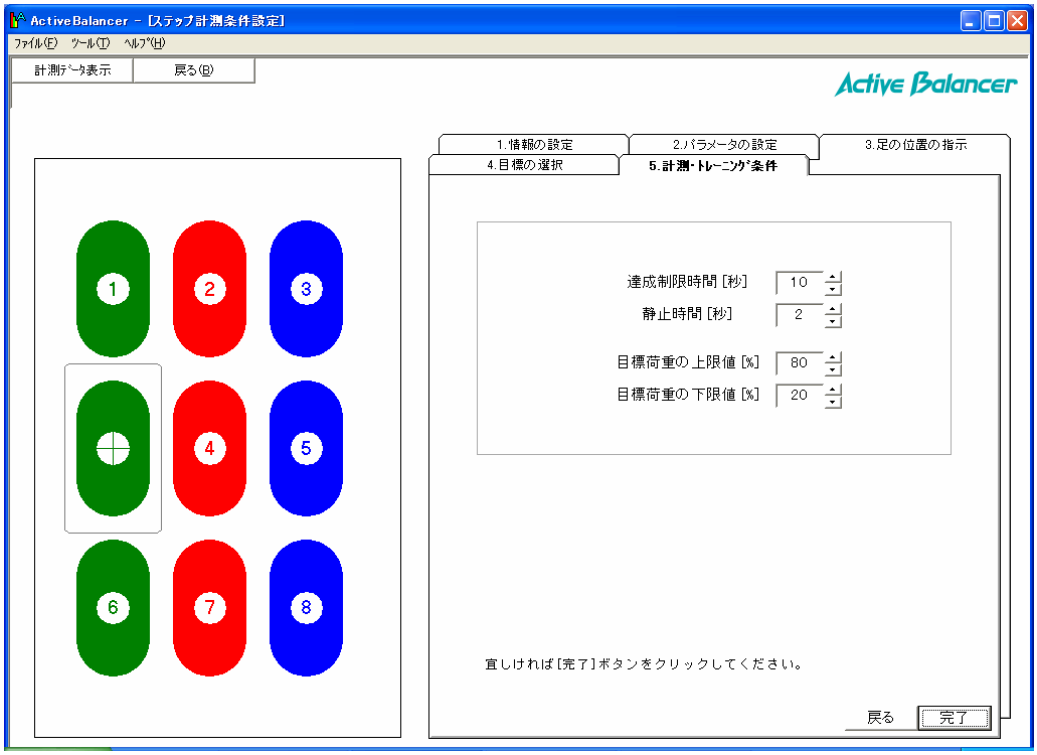
■ 目標値パターンを保存しておく

【６－２－７　目標値パターンを保存する（ステップ計測／トレーニング)】を参照してください。

■ 保存してある目標値パターンを使用する

【６－２－８　保存した目標値パターンを使用する／削除する（ステップ計測／トレーニング)】を参照してください。

（5）計測条件を設定して［完了］ボタンをクリックします。



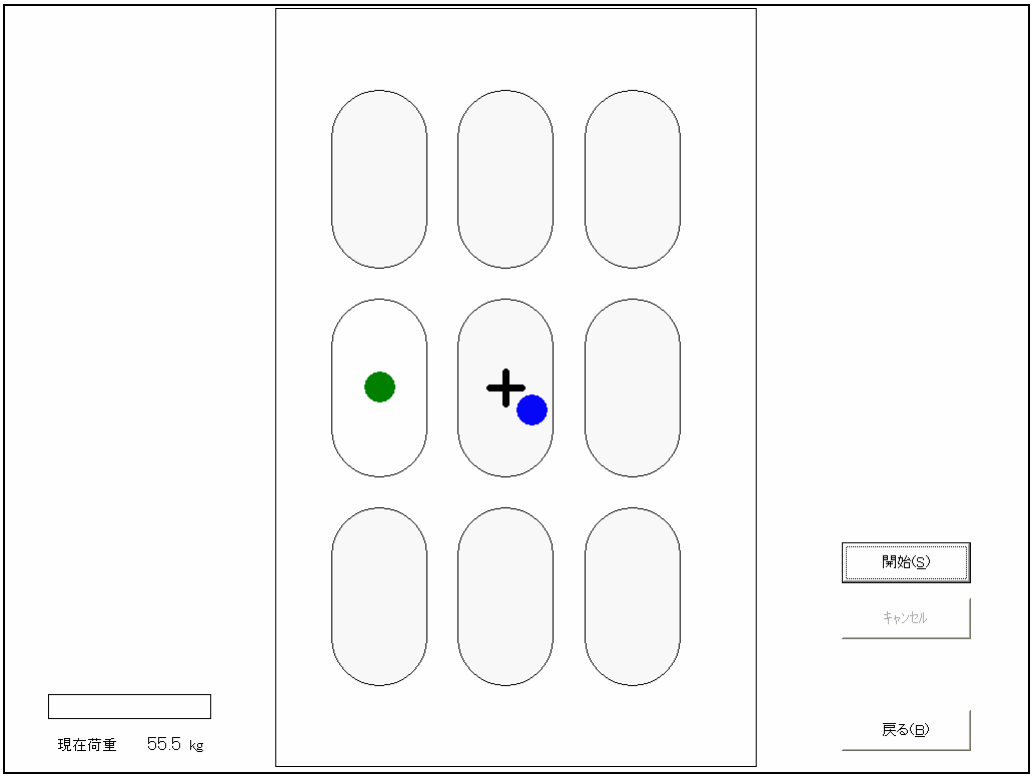
達成制限時間　　個々の目標を表示する最大の時間です。１～２０秒の範囲で設定します（静止時間より大きい値のみ入力可)。
この時間が経過するか、あるいは目標範囲に目標荷重上下限内の荷重がかかっている時間の累計が静止時間に達した場合（＝達成）には次の目標を表示します。

静止時間　　０～５[秒]の範囲で設定します(達成制限時間より小さい値のみ入力可)。０秒の場合は目標範囲に目標荷重上下限内の荷重がかかった時点で静止時間経過とみなします。

目標荷重の上限値　　２～１００[%]の範囲で設定します（下限値より大きい値のみ入力可）。

目標荷重の下限値　　１～９９[%]の範囲で設定します（上限値より小さい値のみ入力可）。

（6）被検者に検出台に乗ってもらいます。



（7）被検者の左右の足圧中心位置が円で表示されます。

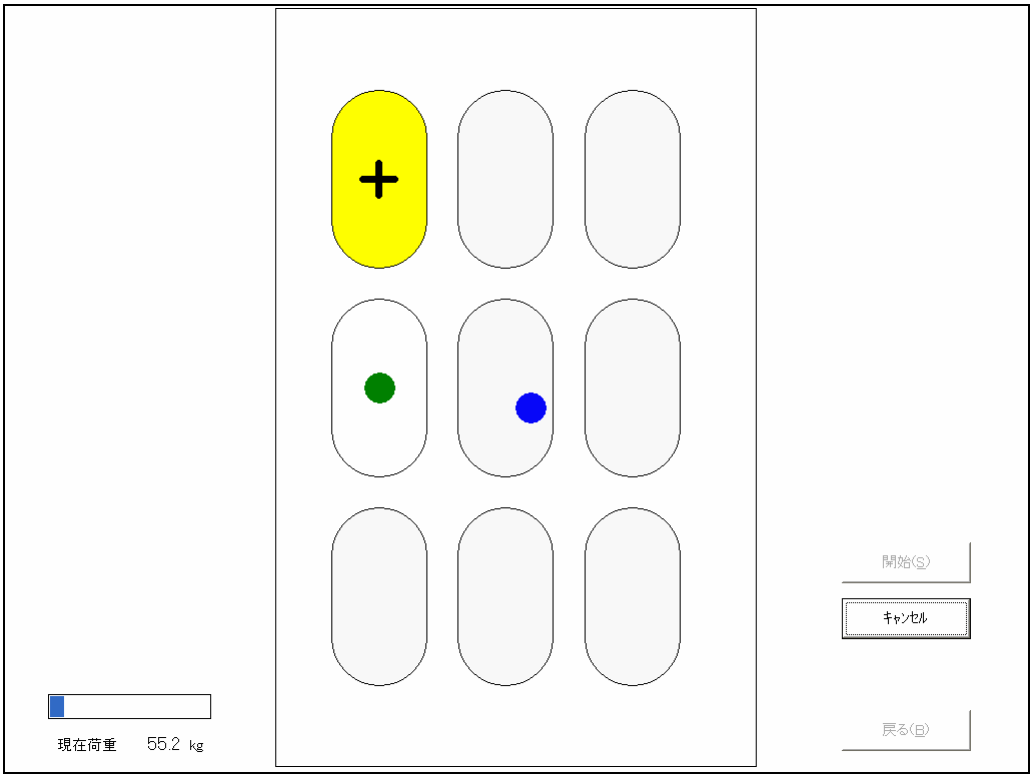
- スタート位置には十字（＋）マークが表示されます。
- ［**開始(S)**］ボタンをクリックして計測を開始します。
- 目標となる長円は黄色で表示され、且つ中央に＋マークが表示されます。
- 非軸足の足圧中心位置が目標範囲内に入っていて且つ目標荷重範囲内である場合には目標の色が黄色から水色に変わり、且つマークが＋から■に変わります。
- 目標を表示し終わると自動的に終了し、計測データは自動的に保存されます。
- 計測途中で［**キャンセル**］ボタンをクリックすると計測を中止することができます。

被検者の動作

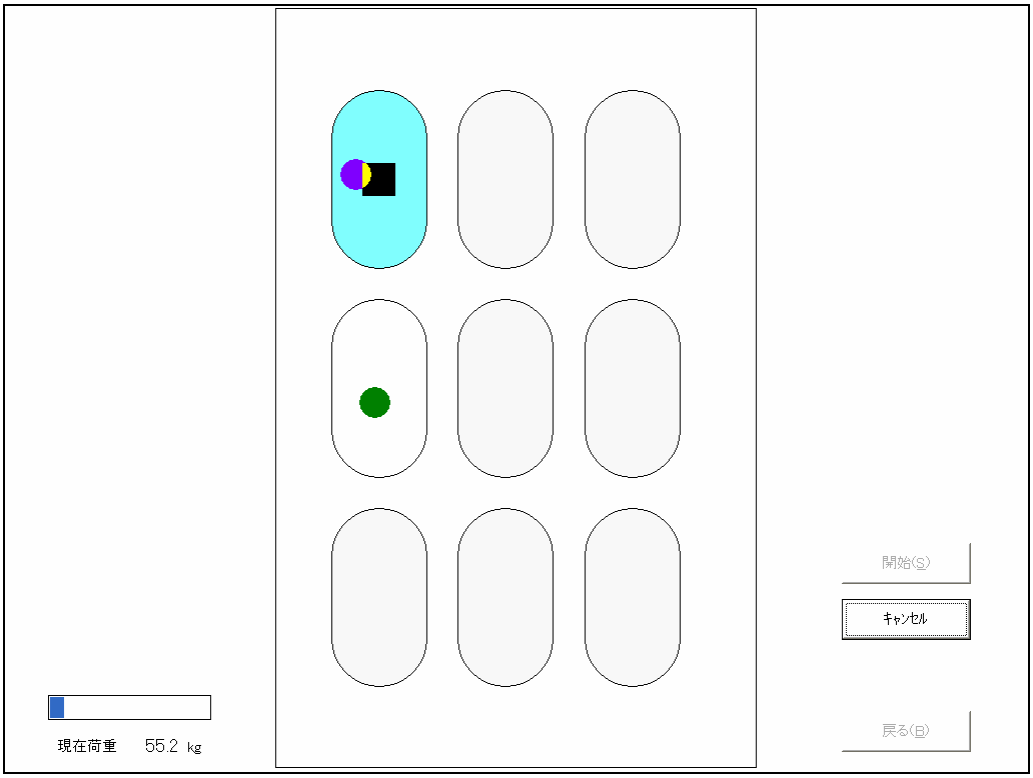
- 計測開始前に軸足を白抜きの長円に、非軸足をスタート位置（＋マークの長円）に置いてもらいます。
- 画面には、左右の足圧中心位置が〇印で表示されますので、＋マークの移動に合わせて非軸足を移動させ、非軸足にかける荷重割合が設定した範囲内になるように荷重をかけてもらいます。
- 次の目標が表示されたら、同様に非軸足を移動してもらいます。
- 計測が終了したら検出台から降りてもらいます。

（8）［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「アクティブ計測条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件で計測を行うことができます。

例：目標表示された状態



例：目標荷重がかかっている状態



６－２－１－６　ステップトレーニング操作手順

ステップトレーニングの手順を説明します。基本的操作は、**６－２－１－５ ステップ計測操作手順**（P.73）と同じです。操作方法が異なるところを説明します。被検者には手順（６）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＢを使用してください。

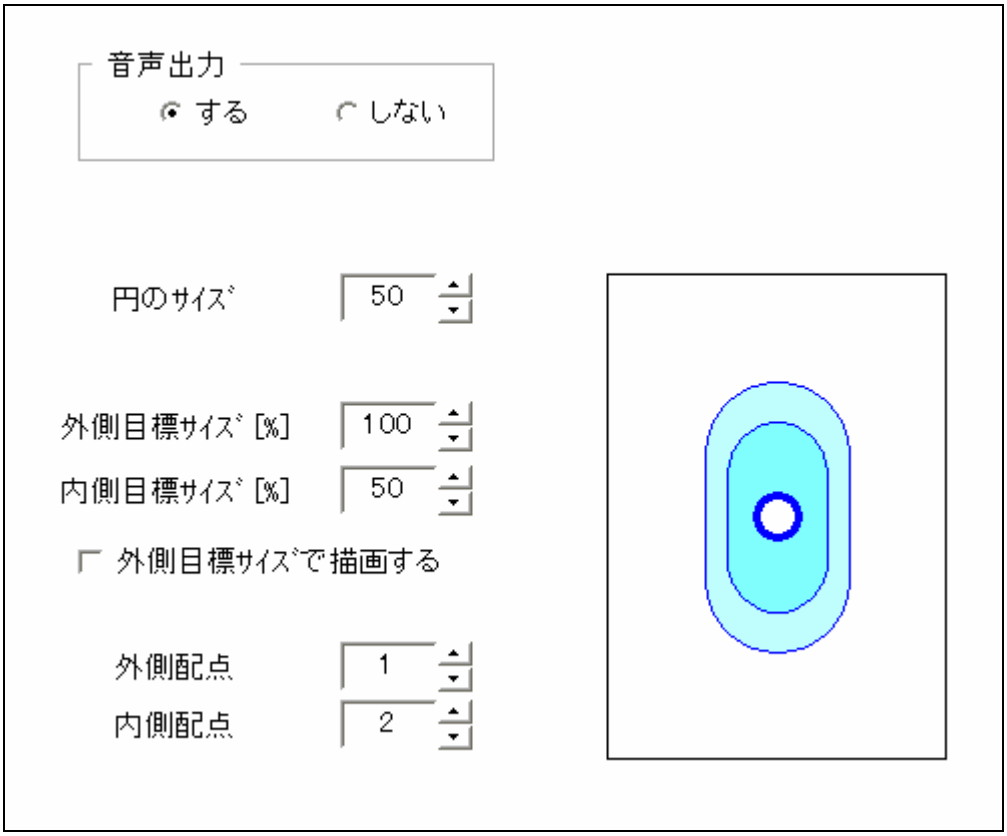
（1）トレーニング情報の入力

【P.73（1)】を参照してください。

（2）パラメータの設定

「音声出力」「円のサイズ」の項目はステップ計測と同様です。

【P.74（2)】を参照してください。



外側目標サイズ　　マットの１つの長円の大きさを１００％とした場合の面積比を２～１３５[%]の範囲で指定します(内側目標サイズより大きい値のみ入力可)。

内側目標サイズ　　外側目標サイズと同様に１～１３４[%]の範囲で指定します（外側目標サイズより小さい値のみ入力可)。

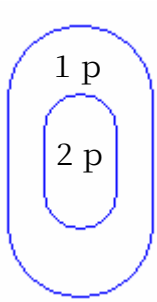
外側目標サイズで描画する　　ON（チェックした状態）にすると「ステップトレーニング」ウィンドウで表示する目標を外側目標サイズで設定した面積比で描画します。

外側配点　　外側目標領域達成時の配点（比率）を１～１００の範囲で指定します（内側配点より大きい値は設定できません）。重心位置が各目標内で目標荷重範囲内の荷重をかけている時間累計が静止時間に達した時（＝達成）に得点できるものとします。

内側配点　　内側目標領域に到達した時の配点（比率）を１～１００の範囲で指定します(外側配点より小さい値は設定できません)。外側配点の条件を満足し、且つ重心位置が内側目標内で目標荷重範囲内の荷重をかけている状態が一度でもあれば得点できるものとします。内側得点を獲得した場合、外側得点は無効になります。

参考 得点計算例（目標２箇所)、外側配点：１　内側配点：２

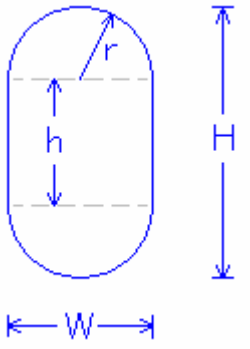
目標 No.	7	8
指示回数（表示回数）	6	5
外側達成回数	4	3
内側到達回数	1	0



満点は２２ポイント　：（６＋５）×２ｐ、
獲得点数は８ポイント：１×２ｐ＋（（４－１）＋３）×１ｐ
なので目標達成度は３６［点］　：８÷２２×１００
となります。

参考 マットの長円サイズは以下の通りです。

Ｈ：２８０[mm]
Ｗ：１５０[mm]
ｈ：１３０[mm]
ｒ：７５[mm]



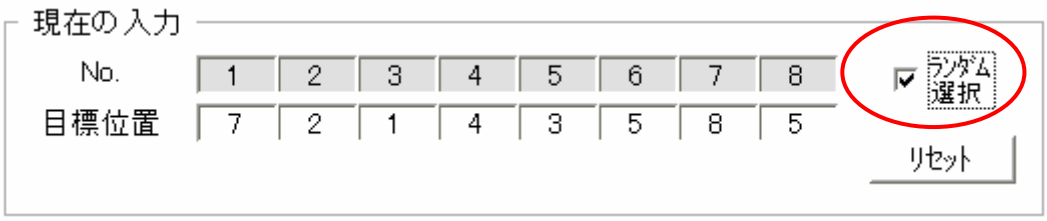
(3) 足の位置の指定

【P.75（3)】を参照してください。

(4) 目標値の選択

「ランダム選択」の項目以外はステップ計測と同様です。

【P.76（4)】を参照してください。

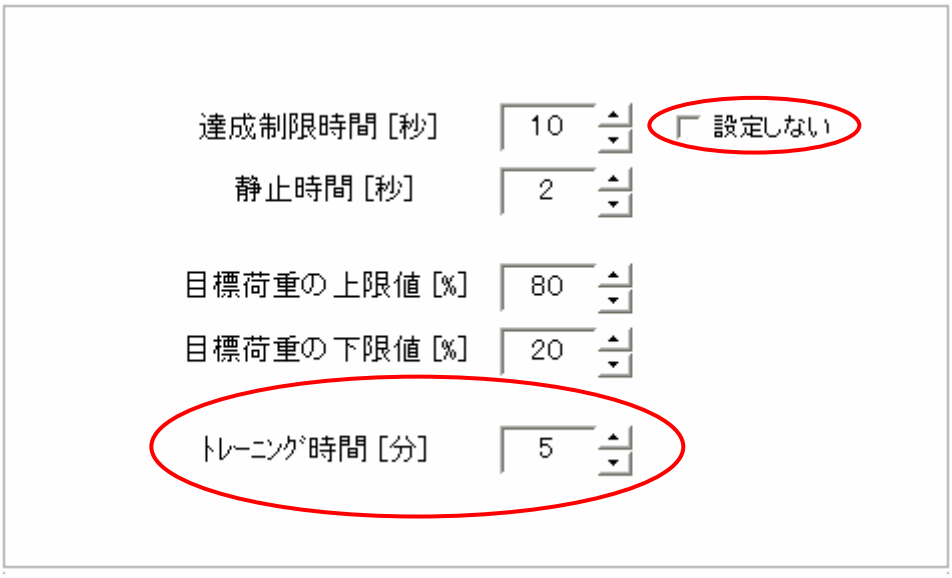


ランダム選択　　ON（チェックした状態）にすると選択された目標を順番に関係なくランダムに表示します。

(5) トレーニング条件を設定

「トレーニング時間」「（達成制限時間を）設定しない」の項目以外はステップ計測と同様です。

【P.77（5)】を参照してください。



トレーニング時間　　１～６０[分]の範囲で設定します。

（達成制限時間を）設定しない　　ON（チェックした状態）にすると達成制限時間の設定は無効になり「達成制限時間＝無制限」になります。
この場合、目標達成した場合にのみ次の目標を表示します。

（6）被検者に検出台に乗ってもらいます。

（7）被検者の左右の足圧中心位置が円で表示されます（ステップ計測と同様です）。

【P.79（7）】を参照してください。

- ［**開始(S)**］ボタンをクリックすると設定した目標（最大８個）がトレーニング時間内で繰り返し対象となります。

被検者の動作

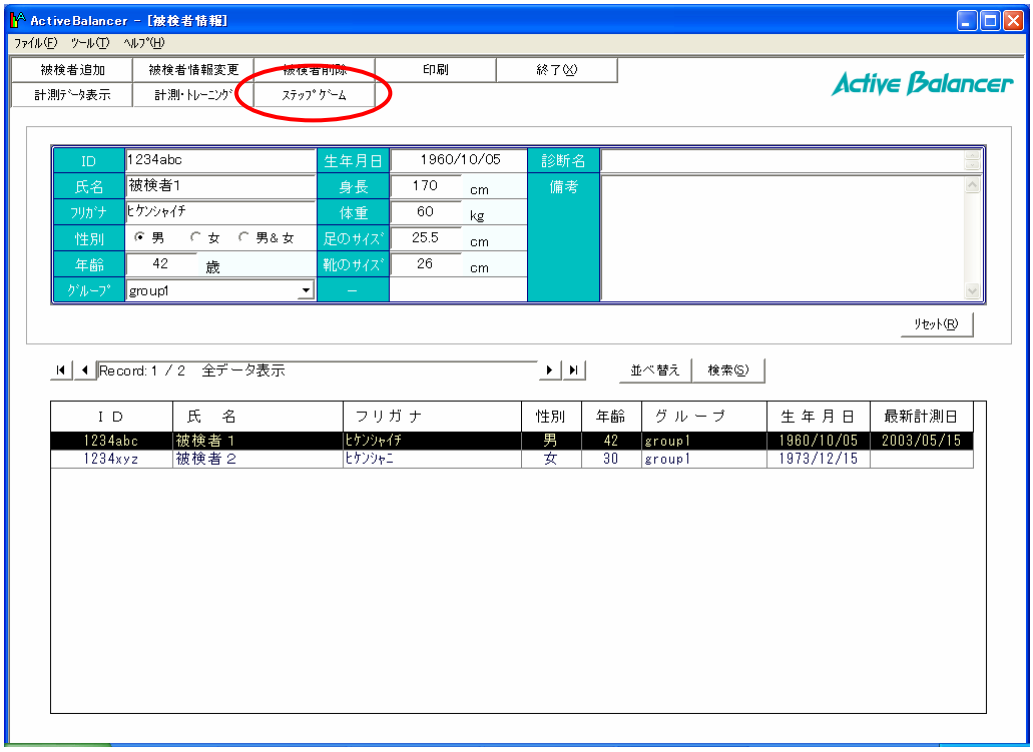
- 「ステップ計測」と同様に非軸足移動を行ってもらいます。
- トレーニングが終了したら検出台から降りてもらいます。

（8）［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「ステップトレーニング条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件でトレーニングを行うことができます。

６－２－１－７　ステップゲーム操作手順

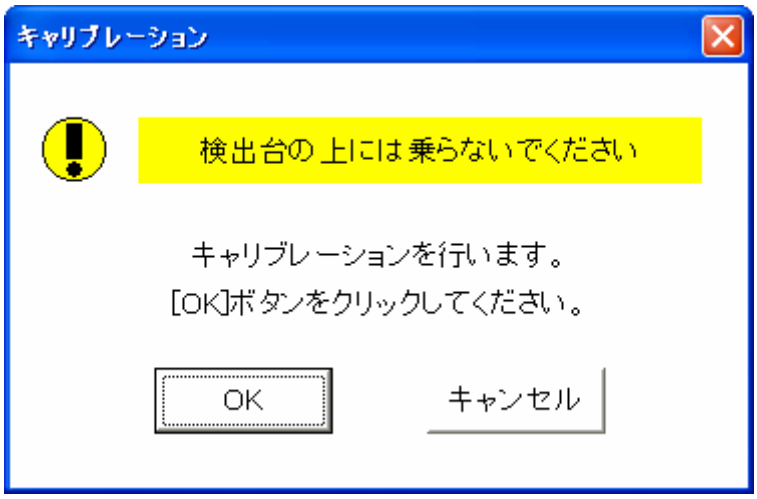
ステップゲームの手順を説明します。被検者には手順（７）時に検出台に乗ってもらいます。マットはマットＢを使用してください。

（1）「被検者情報」ウィンドウで［**ステップゲーム**］ボタンをクリックします。



参考　データは保存されませんので被検者を選択する必要はありません（任意で可）。空の DB ファイルでも可能です。

(2) 「キャリブレーション」ウィンドウが表示されます。検出台上にマット以外のものが載っていないことを確認して［OK］ボタンをクリックしてください。キャリブレーション中は検出台に振動が加わらないように注意してください。



(3) 「ステップゲーム設定」ウィンドウが表示されます。

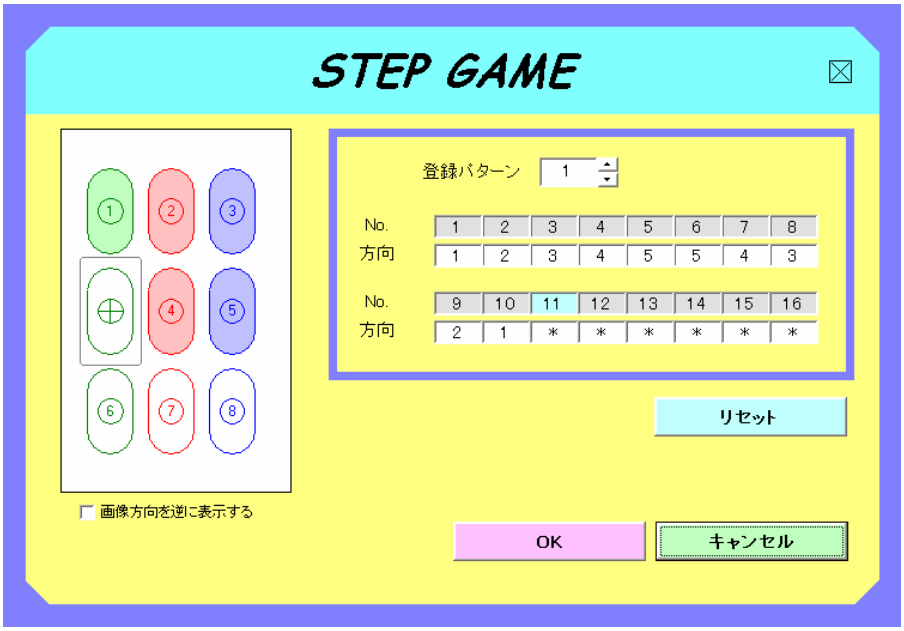
(4) **［難易度を設定します］**ボタンをクリックすると下のようなウィンドウが表示されます。難易度の設定を変更して**［OK］**ボタンをクリックしてください。難易度は設定値が保存されていますので、変更または確認の必要のない場合は(５)に進んでください。

難易度は、Ａ(易)、Ｂ(中)、Ｃ(難)の３種類登録できます。予め上図の値が設定されていますが、設定値を変更することができます。設定項目の意味はステップ計測・ステップトレーニングと同じです。但し、目標荷重は下限のみを設定します。

達成制限時間	１～６００秒の範囲で設定します（静止時間より大きい値のみ入力可)。
静止時間	０～６０[秒]の範囲で設定します（達成制限時間より小さい値のみ入力可)。
目標荷重	１０～１００[%] の範囲で設定します。
目標サイズ	１～１３５[%] の範囲で設定します。
音声出力	「する」「しない」から選択します。

［既定値にする］ボタン　クリックすると上図の値に戻ります

(5) ［**パターンを設定します**］ボタンをクリックすると下のようなウィンドウが表示されます。パターンの設定を変更して［**OK**］ボタンをクリックしてください。パターンは設定値が保存されていますので、変更または確認の必要のない場合は(６)に進んでください。



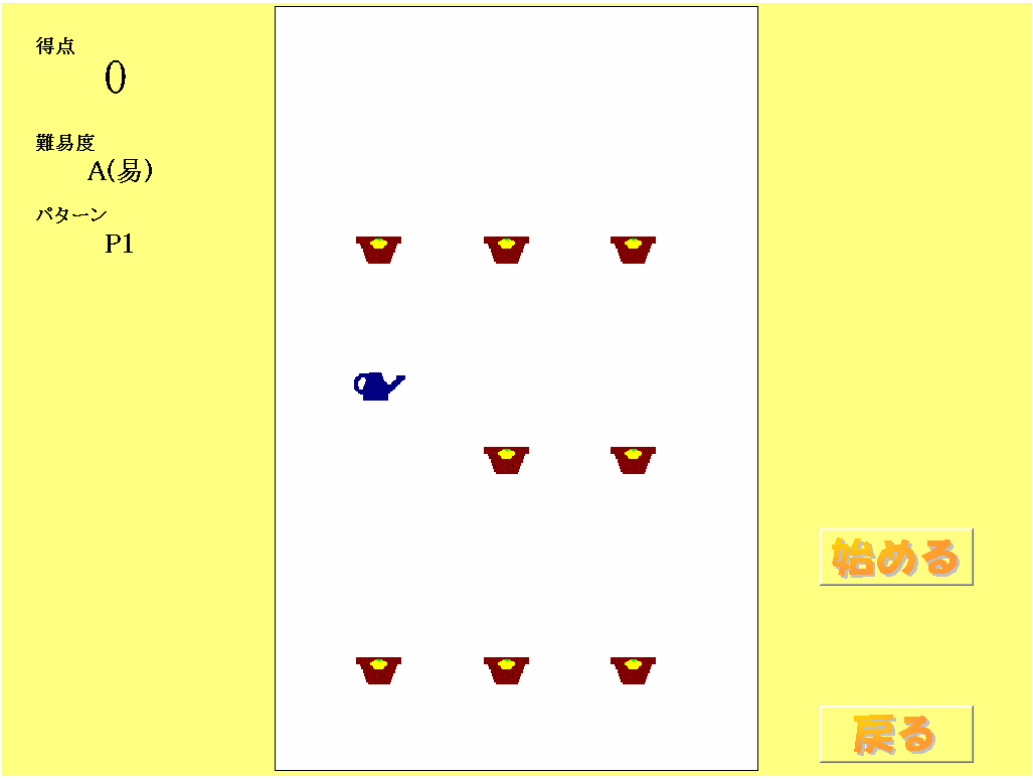
パターンは１～１０まで１０種類登録可能で、設定値を変更することもできます。［▲］［▼］ボタンで「登録パターン」の番号（１～１０）を変更して設定値を表示させます。設定項目の意味・設定手順はステップ計測・ステップトレーニングと同じです。但し、目標位置の選択は最大１６箇所、１目標あたり２回まで選択できます。

［**リセット**］ボタン　　クリックすると表示しているパターンの設定をクリアします。

（6）条件を選択して、[**ゲームを行います**] ボタンをクリックします。

難易度	「A（易）」、「B（中）」、「C（難）」から選択します。
パターン	Ｐ１～Ｐ１０から選択します。
軸足	「左」、「右」から選択します。
表示	「花」、「鳥」から選択します。

（7）下のウィンドウが表示されます（「花」の場合）。被検者に検出台に乗ってもらいます。



（8）被検者の非軸足の足圧中心位置が表示されます。

- スタート位置は任意です。
- 操作手順はステップ計測・ステップトレーニングと同様です。
  ［**始める**］ボタンクリックで開始します。
- 得点は１００点満点で、目標を達成する毎に加点されます。

（9）非軸足の位置を示す絵は、以下のように変わります。

ゲームの種類	目標外	未達成目標内	１回達成済目標内
ステップゲーム（花）	じょうろ（非散水）	じょうろ（散水）	じょうろ（散水）
ステップゲーム（鳥）	親鳥（立位）	親鳥（抱卵）	親鳥（給餌）

目標は以下のように変わります。

ゲームの種類	目標位置	未達成	１回達成	２回達成
ステップゲーム（花）	No.1	植木鉢	つぼみ	花（フリージア）
	No.2			花（マツバボタン）
	No.3			花（ひまわり）
	No.4			花（パンジー）
	No.5			花（ガーベラ）
	No.6			花（においすみれ）
	No.7			花（コスモス）
	No.8			花（チューリップ）
ステップゲーム（鳥）	No.1	たまご	ひな	成鳥（たんちょう）
	No.2			成鳥（なみカナリア）
	No.3			成鳥（つばめ）
	No.4			成鳥（ごしきせいがいインコ）
	No.5			成鳥（こうらいきじ）
	No.6			成鳥（あかつくしがも）
	No.7			成鳥（かわせみ）
	No.8			成鳥（かたじろわし）

被検者の動作

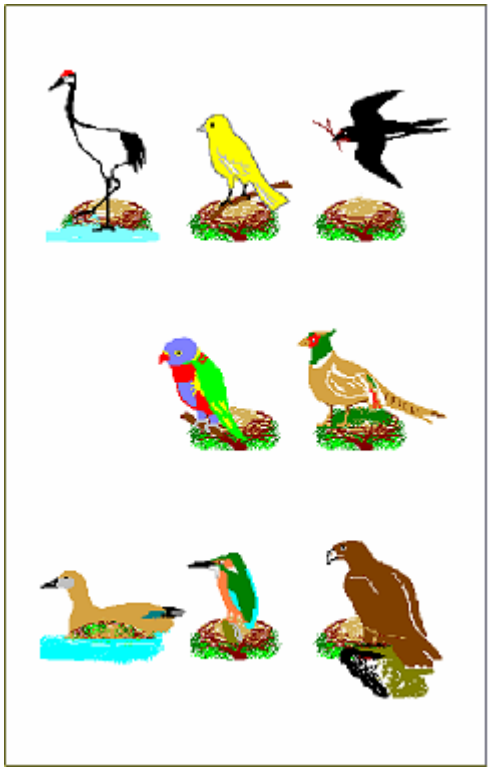
- 点滅している目標位置に非軸足をステップしてもらいます。目標範囲内で目標荷重に達すると、非軸足の絵の表示が変わります。
- 目標達成制限時間が経過するか、あるいは目標達成すると目標の絵の表示が変わり、次の目標が点滅します。
- 順次、点滅している目標にステップしてもらいます。
- ゲームが終了したら検出台から降りてもらいます。

（10） ［**戻る(B)**］ボタンをクリックすると「ステップゲーム条件設定」ウィンドウに戻ります。［**開始(S)**］ボタンをクリックすると続けて同じ条件でゲームを行うことができます。

例：ステップゲーム２回達成目標

花

鳥

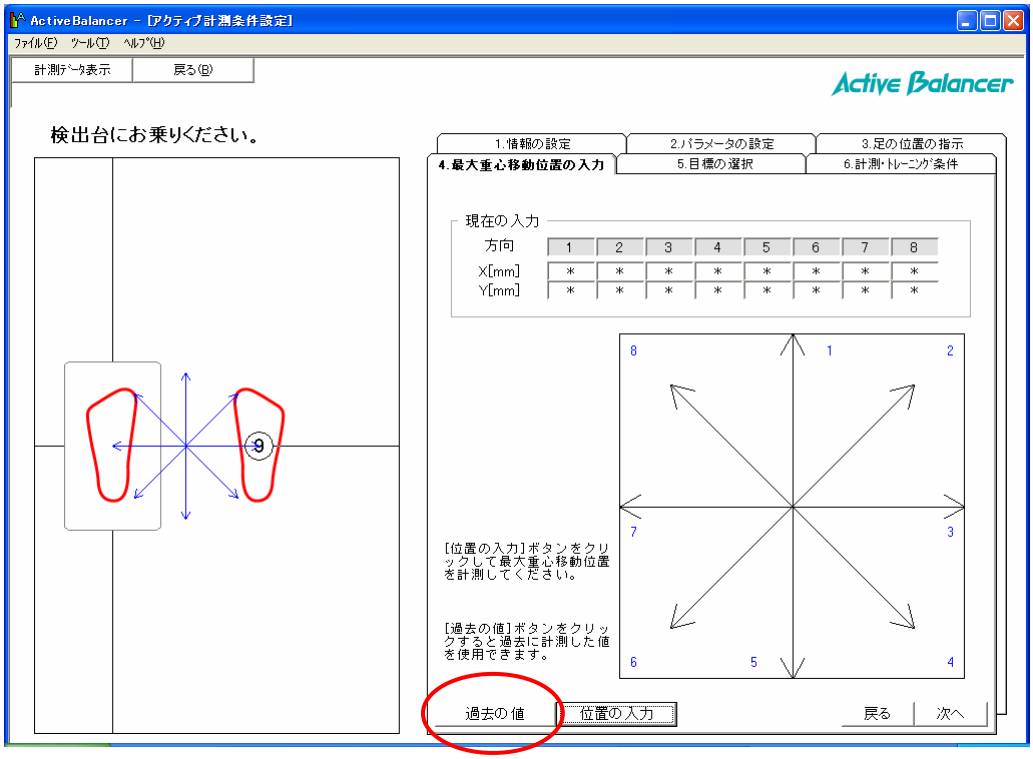


６－２－２　過去の最大重心移動位置データを条件設定に使用する

（アクティブ計測／トレーニング）

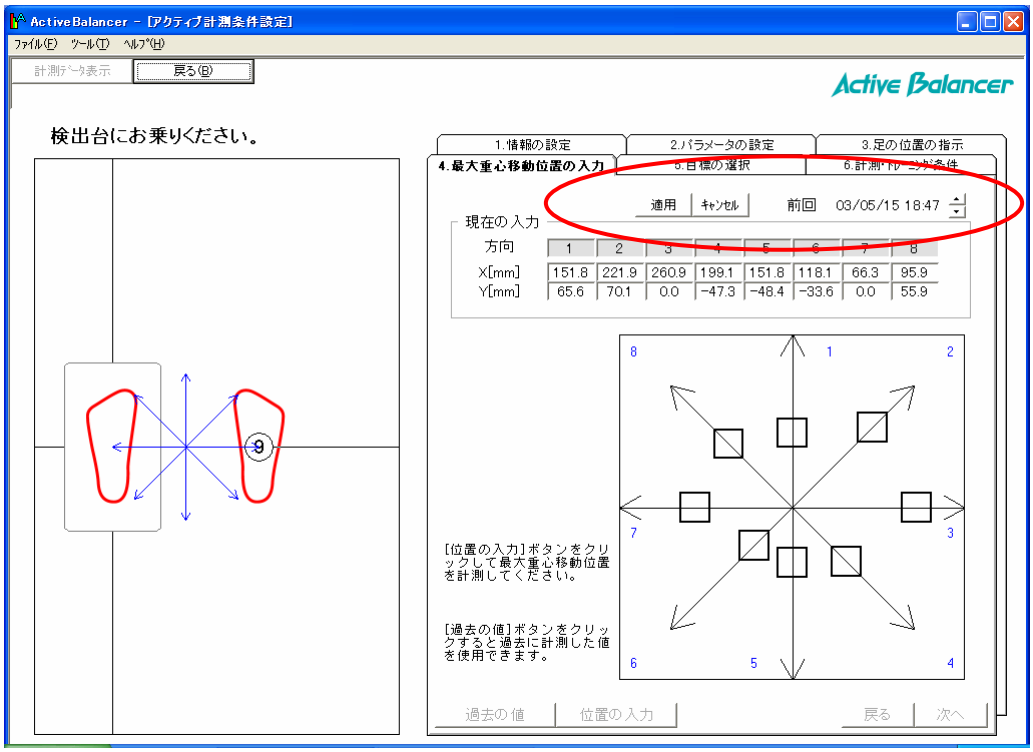
アクティブ計測／トレーニングで、最大重心移動位置を計測の度に入力する必要がない場合（例えば、連日使用するため最大値に変化が無いと思われるような場合）には過去の入力データをコピーして使用することができます。

(1) 「アクティブ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「アクティブトレーニング条件設定」ウィンドウの「４．最大重心移動位置の入力」タブで［**過去の値**］ボタンをクリックします。



(2) 「現在の入力」フレームの上に過去データ情報と操作ボタンが表示されます。コピー可能な最大重心移動位置データは以下の全てに該当する直近３データです。

- 現在開いているデータベースファイルに保存されている同一被検者のアクティブ計測およびアクティブトレーニングの過去データ
- 軸足位置および非軸足位置が同じデータ
- 実際に最大重心移動位置を計測したデータ（本機能を使用してコピーしたデータは対象外です）



［▲］［▼］ボタンで選択すると連動して「現在の入力」フレーム内の数値および下の絵が該当データの内容に変わります。

［**適用**］ボタンクリック ・・・・・・・ 表示中の最大重心移動位置データがコピーされます。

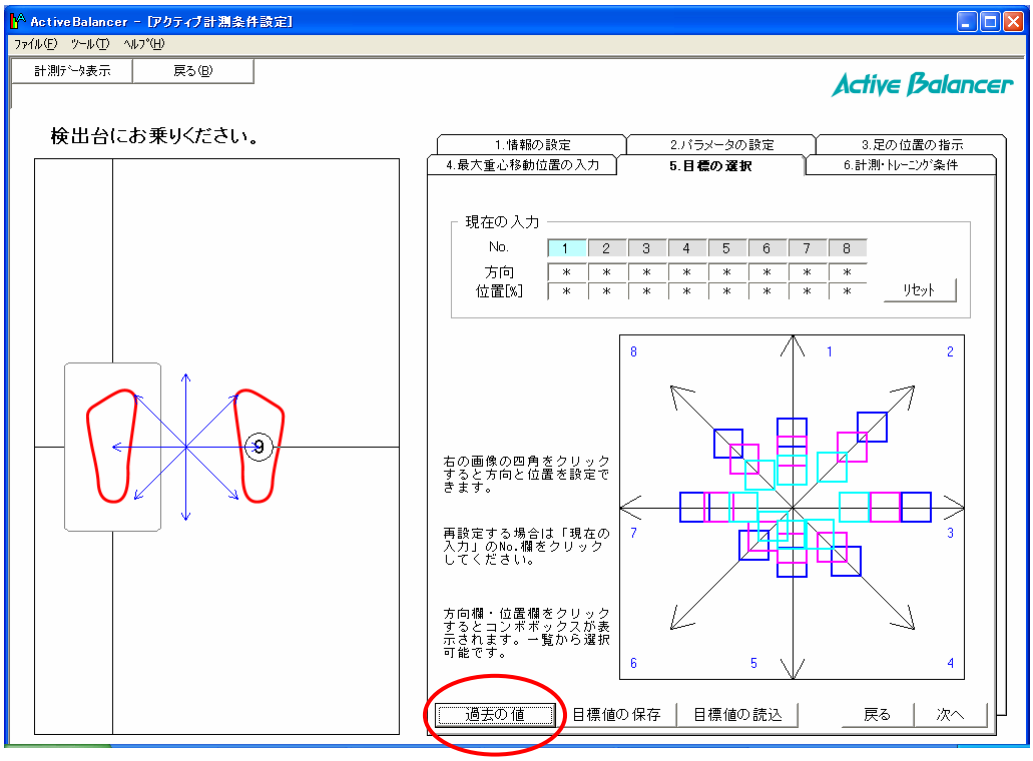
［**キャンセル**］ボタンクリック・・ ［**過去の値**］ボタンクリック以前の状態に戻ります。

６－２－３　過去の条件から目標値をコピーする

（アクティブ計測／トレーニング）

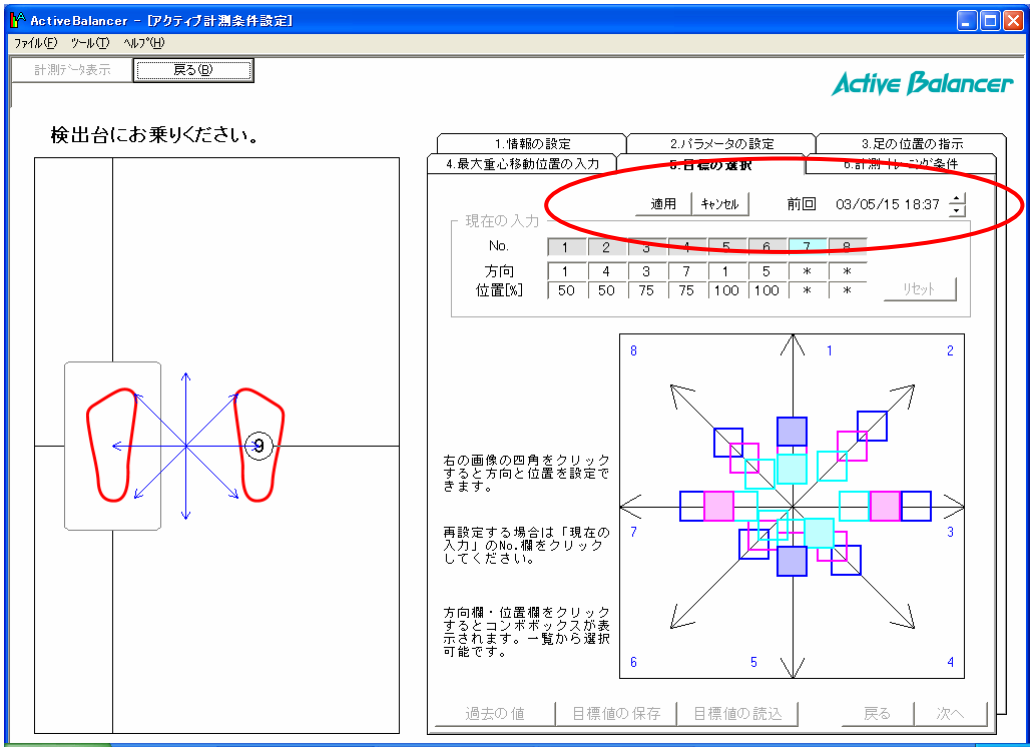
アクティブ計測／トレーニングで、目標値（方向と位置[%]）をデータベースに格納されている過去の条件からコピーして使用することができます。

(1) 「アクティブ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「アクティブトレーニング条件設定」ウィンドウの「５．目標の選択」タブで［**過去の値**］ボタンをクリックします。



(2) 「現在の入力」フレームの上に過去データ情報と操作ボタンが表示されます。コピー可能な目標値データは以下の全てに該当する直近１０データです。

- 現在開いているデータベースファイルに保存されている同一被検者の同一モード（アクティブ計測であればアクティブ計測のみ、アクティブトレーニングであればアクティブトレーニングのみ）の過去データ
- 軸足位置および非軸足位置が同じデータ



［▲］［▼］ボタンで選択すると連動して「現在の入力」フレーム内の数値および下の絵が該当データの内容に変わります。

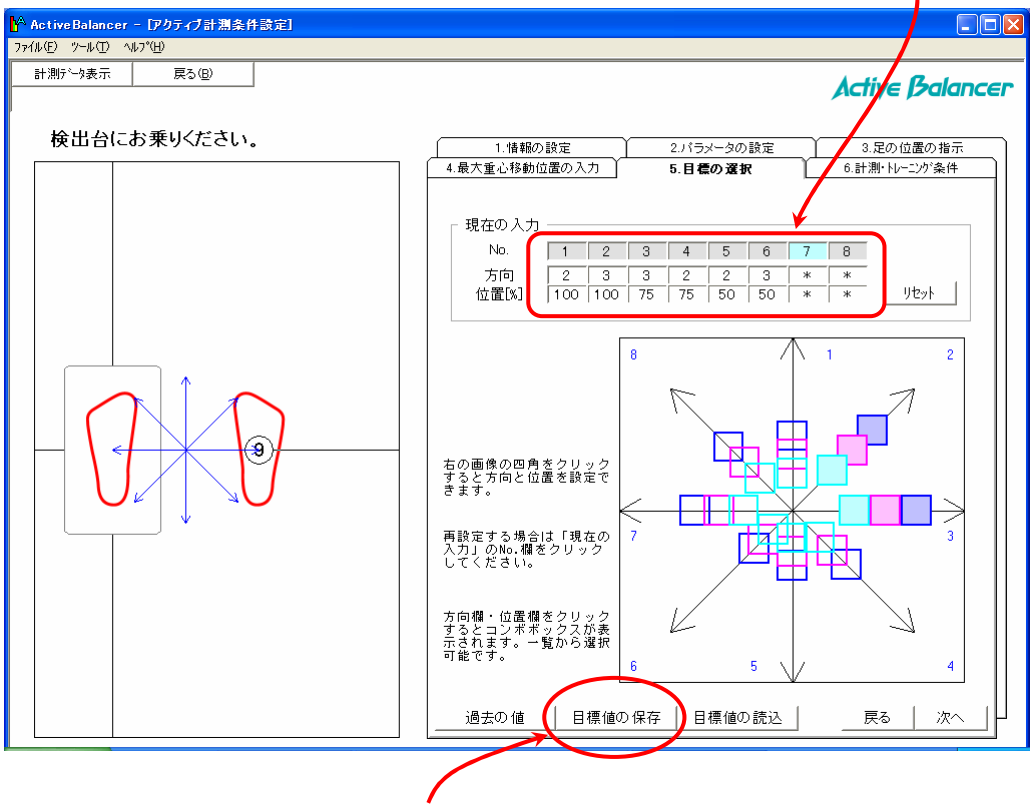
［**適用**］ボタンクリック ・・・・・・・ 表示中の目標値パターンがコピーされます。

［**キャンセル**］ボタンクリック・・ ［**過去の値**］ボタンクリック以前の状態に戻ります。

６－２－４　目標値パターンを保存する（アクティブ計測／トレーニング）

アクティブ計測／トレーニングで、目標値パターン（方向と位置[%]）に適当な名前を付けて保存しておくことができます。保存したパターンデータは後で参照／コピーして使用することができます（*）。

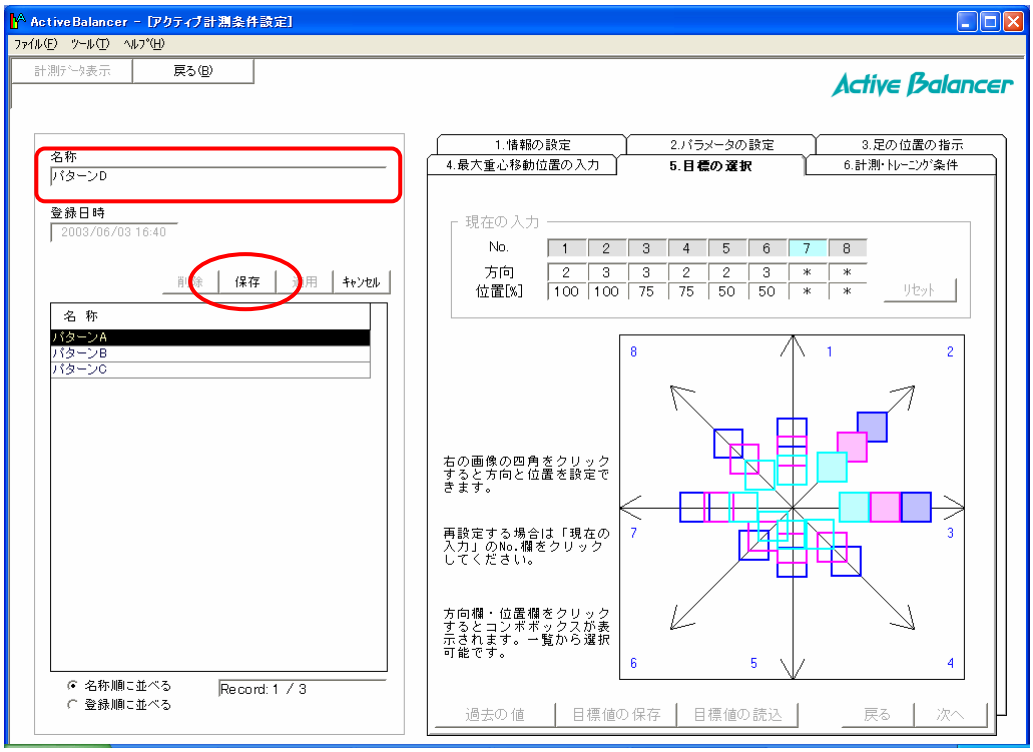
(1) 「アクティブ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「アクティブトレーニング条件設定」ウィンドウの「５．目標の選択」タブで目標を選択して保存したいパターンを作成します。
※「被検者情報」ウィンドウで選択する被検者は任意です。



(2) パターンを作成したら［**目標値の保存**］ボタンをクリックします。

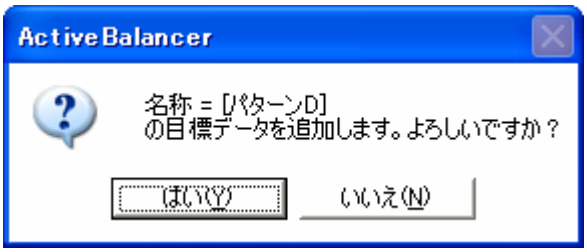
* データは他の（データ格納用）データベースファイルを開いている際でも参照／コピー可能です。

(3) タブの左側に「設定」フレームが表示されます。



名称を全角２０文字以内で入力します。半角のダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。

［**保存**］ボタンクリック ・・・・・・・ 以下のメッセージボックスが表示されます。［**はい(Y)**］ボタンクリックすると目標パターンが保存されます。



［**キャンセル**］ボタンクリック・・ 「設定」フレームは閉じられます。

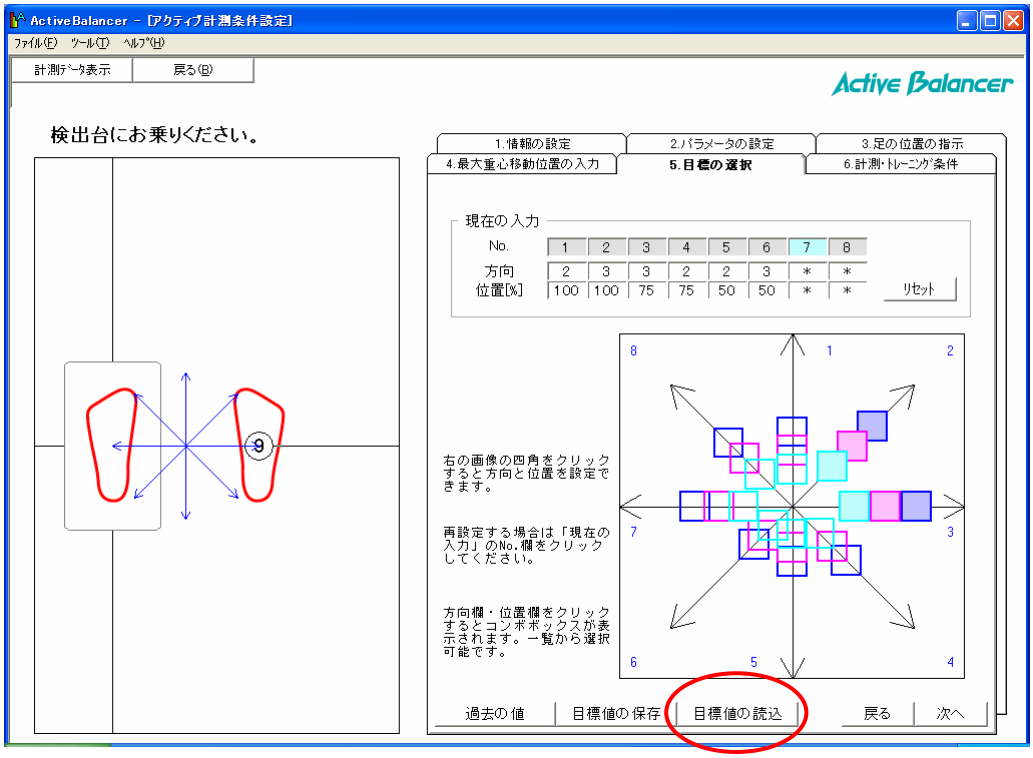
参考 登録済みの名称は使用できません。登録済みの名称で登録しようとするとできない旨のメッセージが表示されます。

６－２－５　保存した目標値パターンを使用する／削除する

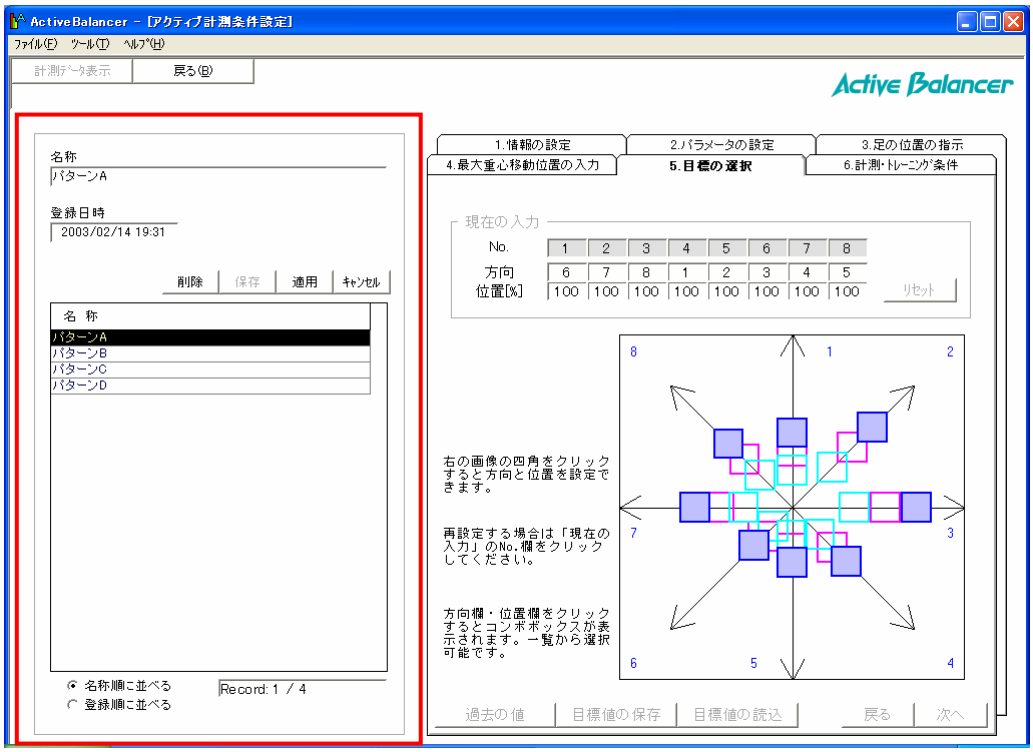
（アクティブ計測／トレーニング）

アクティブ計測／トレーニングで、保存してある目標値パターン（方向と位置[%]）を参照／コピーして使用することができます。保存した目標値パターンを削除することもできます。

(1) 「アクティブ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「アクティブトレーニング条件設定」ウィンドウの「５．目標の選択」タブで［**目標値の読込**］ボタンをクリックします。



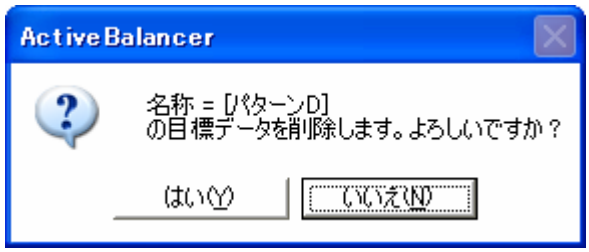
（2）タブの左側に「設定」フレームが表示されます。



一覧から対象を選択して以下のコマンドボタンで操作します。

［**適用**］ボタンクリック ・・・・・・・ 表示中の目標値パターンがコピーされます。「設定」フレームは閉じられます。

［**削除**］ボタンクリック ・・・・・・・ 以下のメッセージボックスが表示されます。［**はい(Y)**］ボタンクリックすると目標パターンが削除されます。



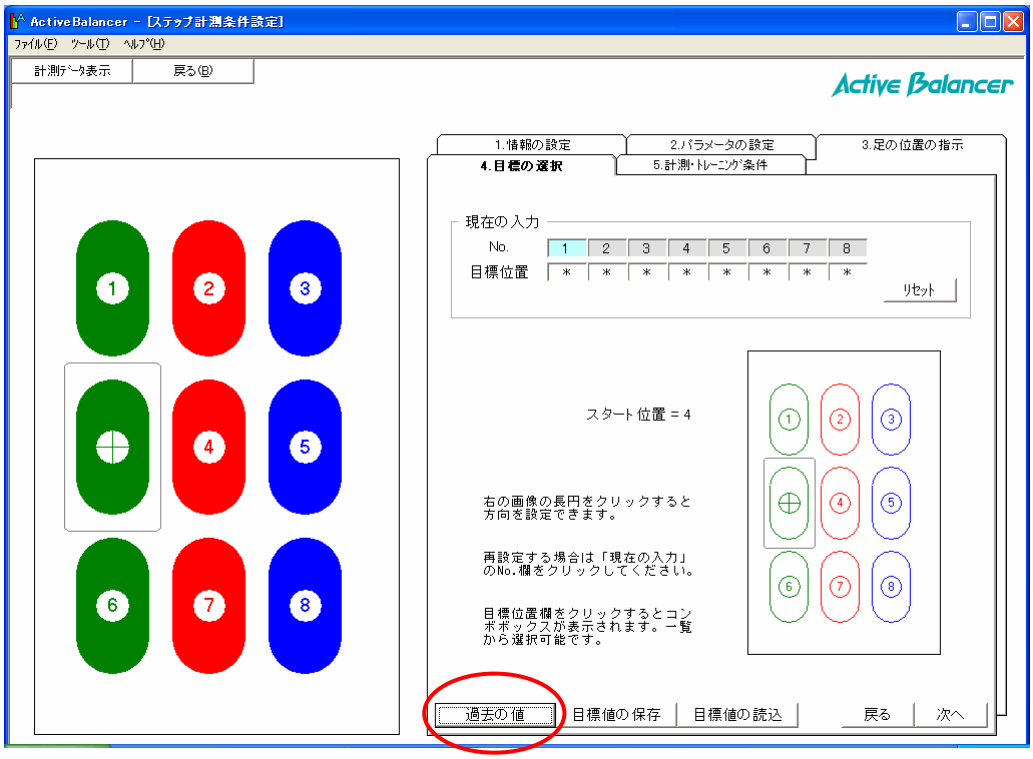
［**キャンセル**］ボタンクリック・・ 「設定」フレームは閉じられます。

６－２－６　過去の条件から目標値をコピーする

（ステップ計測／トレーニング）

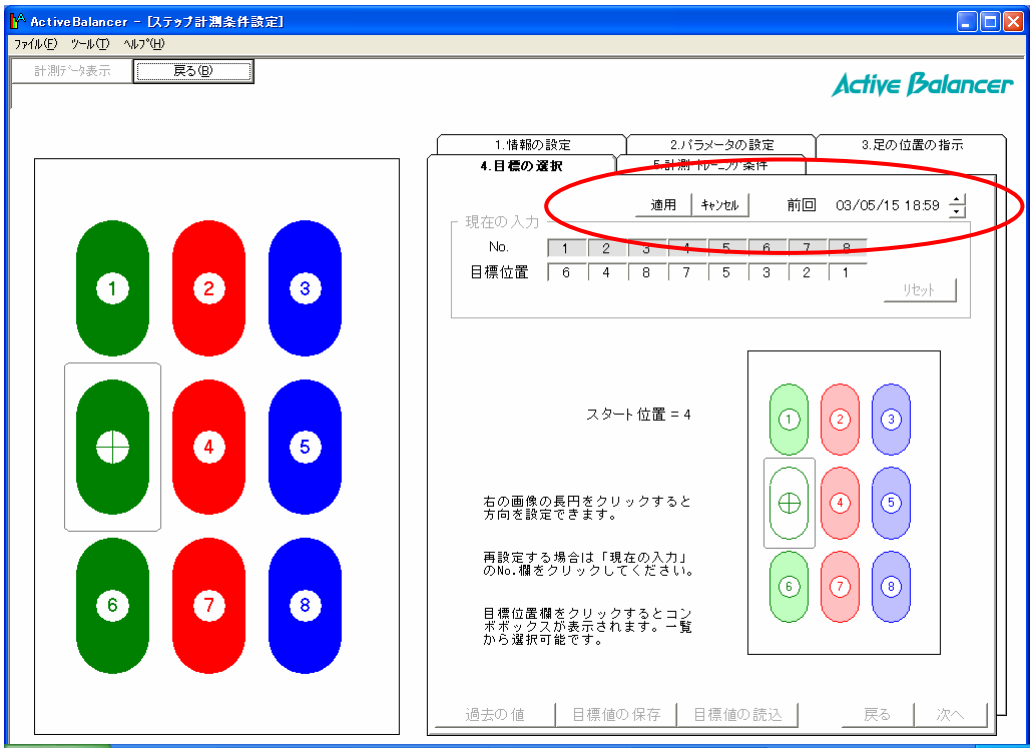
ステップ計測／トレーニングで、目標値（位置）をデータベースに格納されている過去の条件からコピーして使用することができます。

(1)　「ステップ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「ステップトレーニング条件設定」ウィンドウの「４．目標の選択」タブで［**過去の値**］ボタンをクリックします。



(2) 「現在の入力」フレームの上に過去データ情報と操作ボタンが表示されます。コピー可能な目標値データは以下の全てに該当する直近１０データです。

- 現在開いているデータベースファイルに保存されている同一被検者の同一モード（ステップ計測であればステップ計測のみ、ステップトレーニングであればステップトレーニングのみ）の過去データ
- 軸足位置およびスタート位置が同じデータ



［▲］［▼］ボタンで選択すると連動して「現在の入力」フレーム内の数値および下の絵が該当データの内容に変わります。

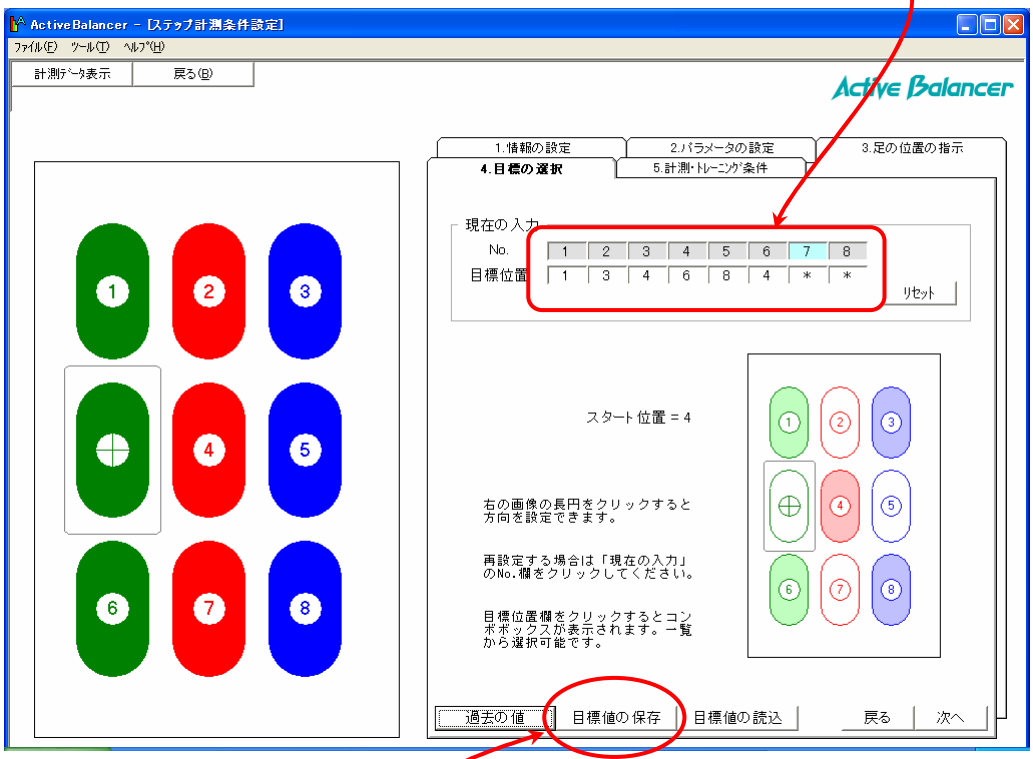
［**適用**］ボタンクリック ・・・・・・・ 表示中の目標値パターンがコピーされます。

［**キャンセル**］ボタンクリック・・ ［**過去の値**］ボタンクリック以前の状態に戻ります。

６－２－７　目標値パターンを保存する（ステップ計測／トレーニング）

ステップ計測／トレーニングで、目標値パターン（位置）に適当な名前を付けて保存しておくことができます。保存したパターンデータは後で参照／コピーして使用することができます（*）。

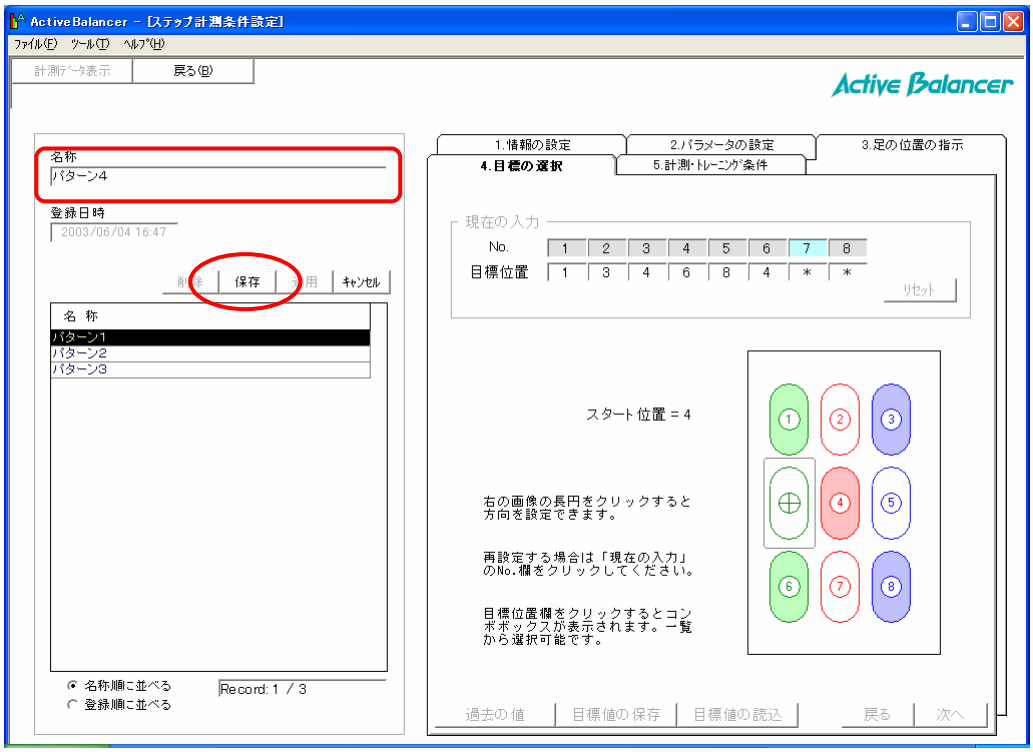
(1) 「ステップ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「ステップトレーニング条件設定」ウィンドウの「４．目標の選択」タブで目標を選択して保存したいパターンを作成します。
※「被検者情報」ウィンドウで選択する被検者は任意です。



(2) パターンを作成したら［**目標値の保存**］ボタンをクリックします。

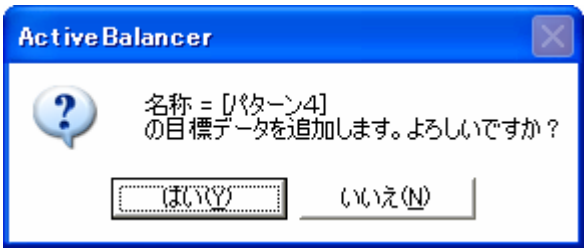
* データは他の（データ格納用）データベースファイルを開いている際でも参照／コピー可能です。

(3) タブの左側に「設定」フレームが表示されます。



名称を全角２０文字以内で入力します。半角のダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、カンマ(,)、アスタリスク(*)、パーセント(%)は使用できません。

［**保存**］ボタンクリック ・・・・・・・ 以下のメッセージボックスが表示されます。［**はい(Y)**］ボタンクリックすると目標パターンが保存されます。



［**キャンセル**］ボタンクリック・・ 「設定」フレームは閉じられます。

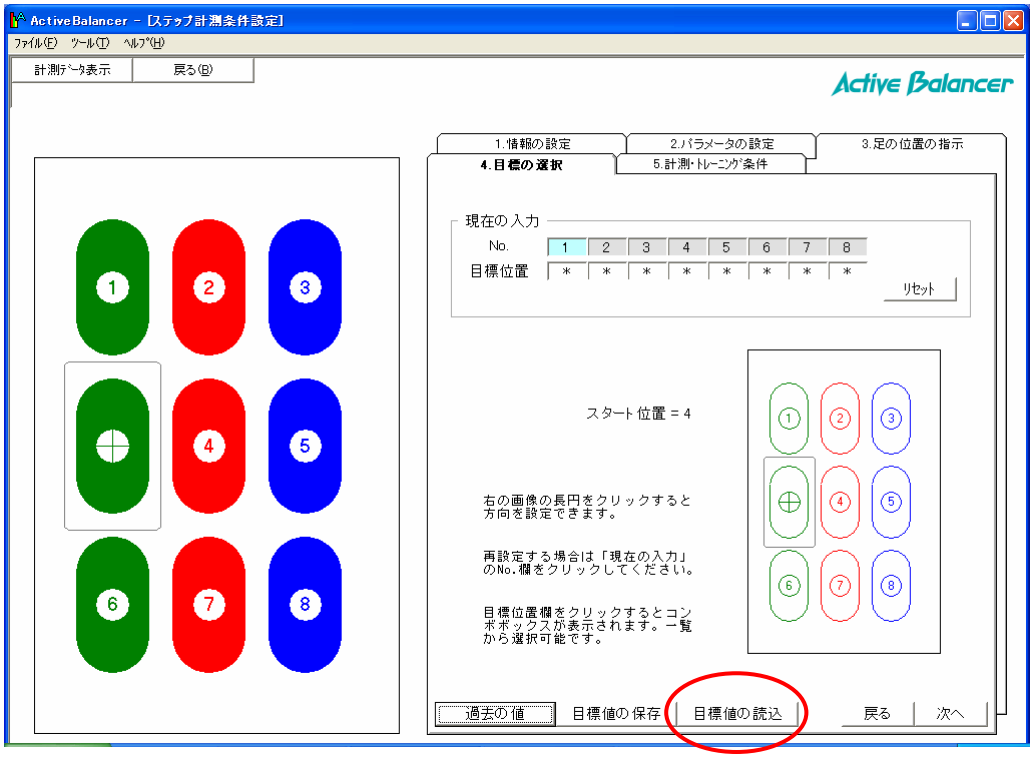
参考 登録済みの名称は使用できません。登録済みの名称で登録しようとするとできない旨のメッセージが表示されます。

６－２－８　保存した目標値パターンを使用する／削除する

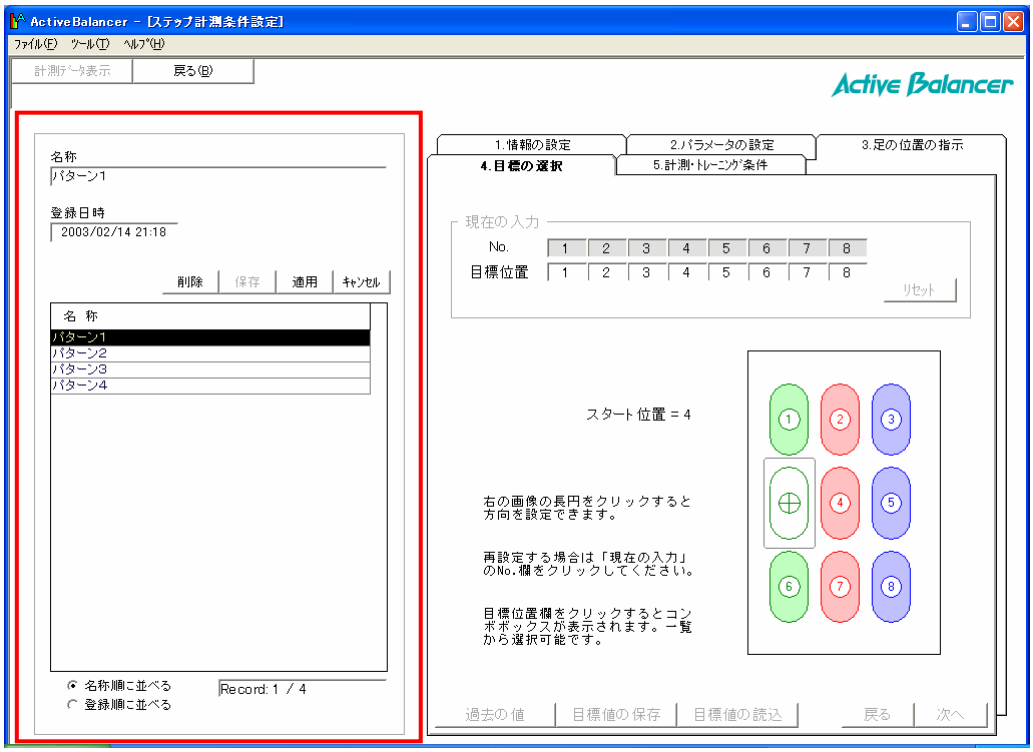
（ステップ計測／トレーニング）

ステップ計測／トレーニングで、保存してある目標値パターン（位置）を参照／コピーして使用することができます。保存した目標値パターンを削除することもできます。

(1) 「ステップ計測条件設定」ウィンドウ、あるいは「ステップトレーニング条件設定」ウィンドウの「４．目標の選択」タブで［**目標値の読込**］ボタンをクリックします。



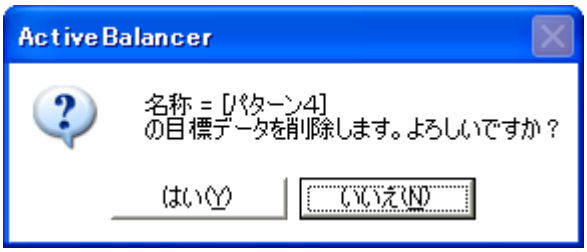
（2）タブの左側に「設定」フレームが表示されます。



一覧から対象を選択して以下のコマンドボタンで操作します。

［**適用**］ボタンクリック ・・・・・・・ 表示中の目標値パターンがコピーされます。「設定」フレームは閉じられます。

［**削除**］ボタンクリック ・・・・・・・ 以下のメッセージボックスが表示されます。［**はい(Y)**］ボタンクリックすると目標パターンが削除されます。



［**キャンセル**］ボタンクリック・・ 「設定」フレームは閉じられます。

６－２－９　開始／終了／警告時の音声を変更する

音声ファイル設定を変更して出力する音声を変更することができます。指定できる音声ファイルは WAVE 形式ファイル（*.wav）のみです。

(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［計測時音声］の設定を変更します。

［**参照**］ボタンクリック ・・・・・・・ ファイル選択ダイアログが表示されます。ファイル選択して［**開く(O)**］ボタンクリックしてください。

ボタンクリック ・・・・・・・・ 選択中の音声ファイルが再生されます。音声を確認する場合に使用します。

［**初期値にする**］ボタンクリック ・・・・・・・・・・ 出荷時の状態に戻します。

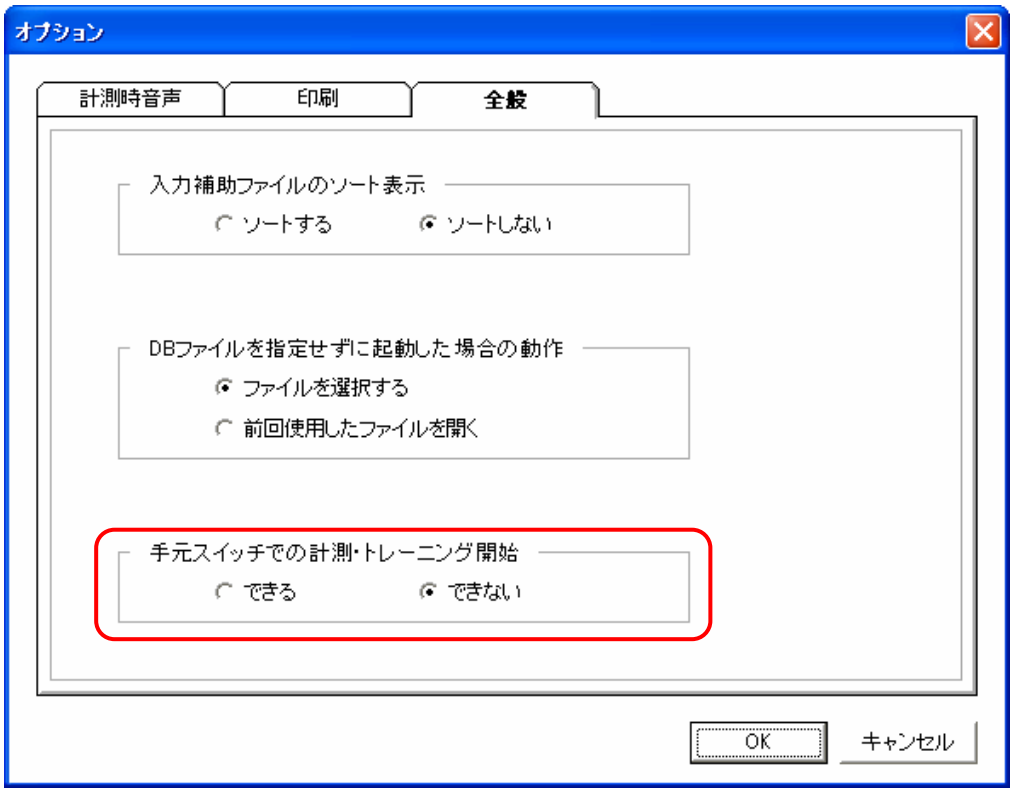
(2) ［**OK**］ボタンをクリックして設定を有効にします。

参考 計測時、音声ファイル再生中に次の再生要因が発生すると先頭から再生し直します。開始音、警告音の WAVE 形式ファイルは１～２秒程度の長さのものが適しています。

６－２－１０　手元スイッチで開始する

計測等を開始する操作をパソコン操作（[開始(S)]／[始める]ボタンクリック）ではなく手元スイッチを押すことによって行うことができます。被検者が検出台に乗ったまま自身で開始できます。

(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［手元スイッチでの計測・トレーニング開始］の設定を変更します。



できる ・・・・・・・・・・ 手元スイッチ／パソコン操作共に開始可能
できない ・・・・・・・・ パソコン操作のみで開始可能

(2) [OK]ボタンをクリックして設定を有効にします。

６－３　計測・トレーニングデータ表示関連

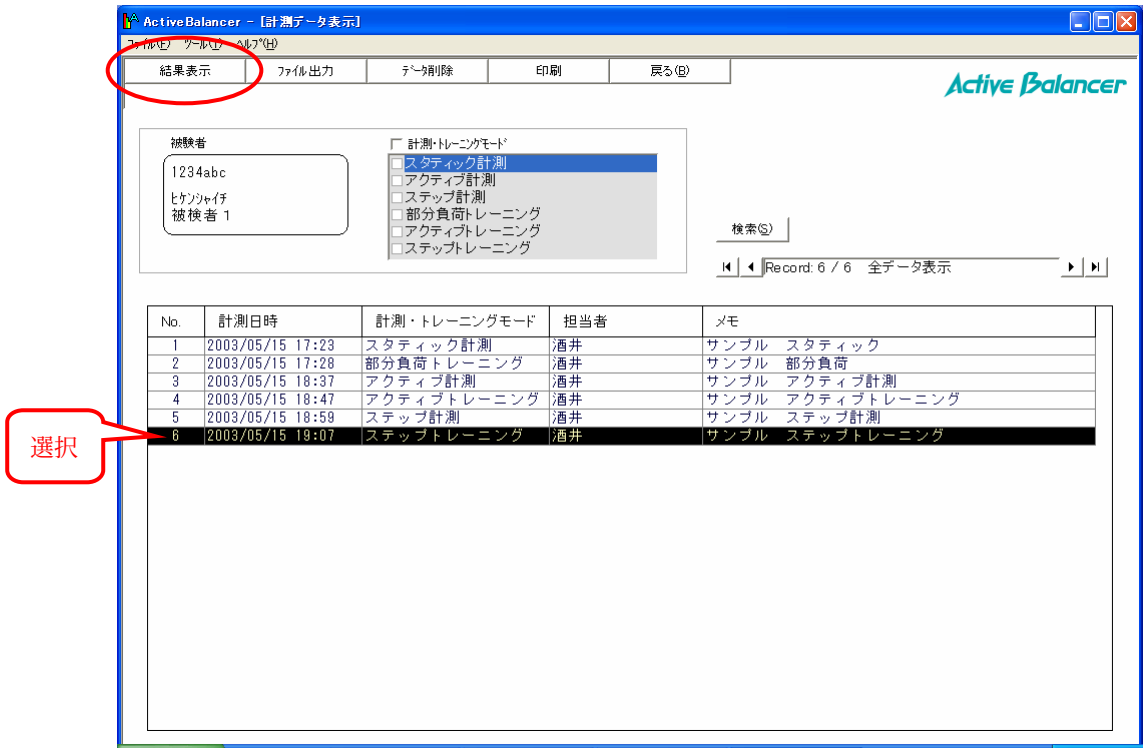
６－３－１　計測・トレーニング結果を表示・印刷する

計測・トレーニング結果の表示方法と、「結果表示」ウィンドウの基本操作方法を説明します。

（1）「計測データ表示」ウィンドウを表示させます。「計測データ表示」ウィンドウは以下の何れかの操作で表示されます。

- 「被検者情報」ウィンドウで［**計測データ表示**］ボタンクリックする
- 「各計測・トレーニング条件設定」ウィンドウで［**計測データ表示**］ボタンクリックする

（2）表示するデータ行を選択して［**結果表示**］ボタンをクリックします（データ行をダブルクリックしても同様に動作します）。



参考　No.は計測順を示す番号です。データ保存時に１～32767を自動採番します。変更することはできません。

（3）以下のようなウィンドウが表示されます。表示内容は計測・トレーニング種別により異なります。**モード毎の説明は次節以降を参照してください。**

① 被検者情報（ID,氏名）です。

② 計測情報です。トレーニングの場合の時間は設定時間、計測の場合の時間は開始から終了までの実時間です。

③ 設定した条件です。

④ 計測結果／トレーニング結果を数値で表示します。

⑤ 「表示対象」フレーム：表示対象を選択します。上の②～④は「条件と結果情報」を選択した場合に表示されます。その他を選択した場合は②～④の位置に対象のグラフ等が表示されます。モードにより以下のボタンがあります。ボタンをクリックするとグラフ操作のウィンドウが表示されます。

- **［(開眼／閉眼）重心図操作］**ボタン
- **［グラフ操作］**ボタン

⑥ 印刷対象を選択します（複数選択可）。対象を選択すると**［印刷］**ボタンが使用可能になります。チェックボックスの意味は「被検者情報」ウィンドウでの印刷時と同じです。**［印刷］ボタンをクリックすると「印刷プレビュー」ウィンドウが表示されます**（プレビュー表示するの場合のみ）。**【6－1－5　被検者一覧を印刷する】**を参照してください。

⑦ 表示対象に棒グラフがある場合に表示します。グラフの塗りつぶし形式を選択します（設定は各モード共通です）。棒グラフ印刷時の形式もこの設定と同じになります。

６－３－１－１　スタティック計測結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。計測結果には重心動揺の軌跡長、面積等の解析結果およびロンベルグ率を表示します。

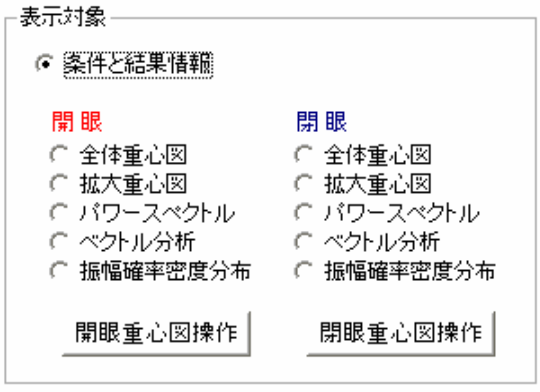
ﾓｰﾄﾞ	スタティック計測	計測No.	1
日時	2003年5月15日 17時23分	計測時間 [秒]	60
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　スタティック		

立位姿勢	両足(自然立位)	視覚目標	表示する
立位方向	正方向	視覚目標ｻｲｽﾞ(直径) [mm]	50
計測データ	開眼／閉眼		

項目	開眼	閉眼	ロンベルグ率
総軌跡長 [mm]	830.609	982.485	1.183
単位軌跡長 [mm]	13.843	16.375	1.183
単位面積軌跡長 [mm]	4.844	2.243	0.463
外周面積 [mm²]	171.468	438.009	2.554
矩形面積 [mm²]	396.100	1240.000	3.131
実効値面積 [mm²]	84.055	161.744	1.924
動揺平均中心変位 X , Y [mm]	−3.43 , −1.68	−2.32 , 0.86	
動揺中心変位 X , Y [mm]	−3.00 , −1.75	−1.90 , 1.40	

以下の情報をグラフ表示します。

- 全体重心図
- 拡大重心図
- パワースペクトル
- ベクトル分析
- 振幅確率密度分布



関連　【６－３－２　表示グラフの説明】

- **総軌跡長**
  計測時間内での重心位置の移動距離の総和です。
- **単位軌跡長**
  単位時間あたりの重心位置の移動距離です。
- **単位面積軌跡長**
  単位面積あたりの重心位置の移動距離です。
- **外周面積**
  重心位置の最外郭点を結んだ領域の面積です。
- **矩形面積**
  Ｘ軸／Ｙ軸の各々の最大／最小位置で囲まれる長方形の面積です。
- **実効値面積**
  動揺平均中心変位と各重心位置との距離の実効値を半径とした円の面積です。
- **動揺平均中心変位**
  全重心位置の平均値です。
- **動揺中心変位**
  Ｘ軸／Ｙ軸の各々の最大／最小位置の中心です。

６－３－１－２　部分負荷トレーニング結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。トレーニング結果には荷重の平均／最大／最小値、目標内／外データ割合を表示します。

ﾓｰﾄﾞ	部分負荷トレーニング	計測No.	2
日時	2003年5月15日 17時28分	計測時間 [分]	1
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　部分負荷		

軸足／非軸足位置	左 ／ No.9
ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ時体重 [kg]	54.0
軸足目標荷重 [kg]	21.6 ± 5.4
非軸足目標荷重 [kg]	32.4 ± 5.4
軸足目標荷重割合 [%]	40.0 ± 10.0
非軸足目標荷重割合 [%]	60.0 ± 10.0

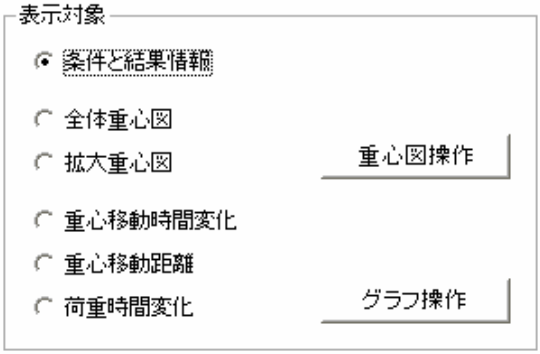
	X	Y
軸足の位置 [mm]	0.0	0.0
非軸足の位置 [mm]	303.5	0.0

	軸足	非軸足
平均荷重値 [kg]	21.9	31.8
最大荷重値 [kg]	31.9	43.3
最小荷重値 [kg]	10.4	22.0
平均荷重割合 [%]	40.6	58.9
最大荷重割合 [%]	59.1	80.1
最小荷重割合 [%]	19.2	40.7

	軸足	非軸足
目標内ﾃﾞｰﾀ割合 [%]	89.9	89.8
目標超過ﾃﾞｰﾀ割合 [%]	6.1	3.8
目標未達ﾃﾞｰﾀ割合 [%]	4.0	6.5

以下の情報をグラフ表示します。

- 全体重心図
- 拡大重心図
- 重心移動時間変化
- 重心移動距離
- 荷重時間変化



関連 【６－３－２　表示グラフの説明】

- **平均・最大・最小　荷重値／荷重割合**
  軸足、非軸足毎の荷重値／荷重割合の平均値、最大値、および最小値です。
- **目標内／超過／未達　データ割合**
  目標荷重範囲に対して順に範囲内のデータ割合、上限を上回ったデータ割合、下限を下回ったデータ割合です。各々小数以下１桁に丸めていますので合計値は必ずしも１００[%]にはなりません。

６－３－１－３　アクティブ計測結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。計測結果には目標位置、目標到達までの時間／距離等を表示します。

ﾓｰﾄﾞ	アクティブ計測	計測No.	3
日時	2003年5月15日 18時37分	計測時間 [分：秒]	00:27.55
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　アクティブ計測		

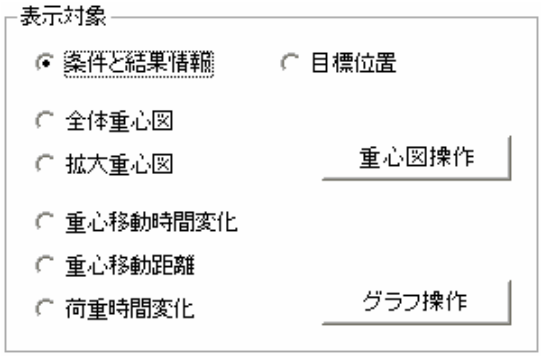
軸足／非軸足位置	左 ／ No.9
目標の大きさ:一辺 [mm]	30
重心表示の大きさ:直径 [mm]	20
達成制限時間 [秒]	10
静止時間 [秒]	2
目標の指示	目標値－目標値

	X	Y
軸足の位置 [mm]	0.0	0.0
非軸足の位置 [mm]	303.5	0.0
両足の中心位置 [mm]	151.8	0.0

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
目標方向	1	4	3	7	1	5		
目標中心位置X [mm]	151.8	175.4	233.6	87.7	151.8	151.8		
目標中心位置Y [mm]	32.8	−23.6	0.0	0.0	65.6	−48.4		
目標到達時間 [秒]	2.3	1.6	1.6	3.1	2.3	3.0		
目標到達移動距離 [mm]	83.2	62.8	89.9	162.2	143.0	149.0		
目標内移動距離 [mm]	42.7	47.9	76.3	81.0	84.1	65.2		

以下の情報をグラフ表示します。

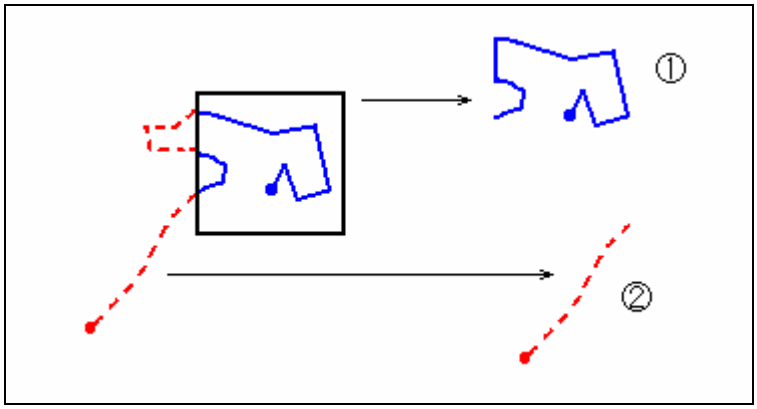
- 目標位置
- 全体重心図
- 拡大重心図
- 重心移動時間変化
- 重心移動距離
- 荷重時間変化



関連 【６－３－２　表示グラフの説明】

- **目標方向**
  方向１～８です。
- **目標中心位置 X,Y**
  目標の座標値（X,Y）です。
- **目標到達時間**
  目標が表示されてから目標範囲に重心が入るまでの時間です（下例の②の軌跡の時間）。目標範囲に重心が一度も入らずに達成制限時間経過した場合、目標到達時間＝達成制限時間となります。
- **目標到達移動距離**
  目標が表示されてから目標範囲に重心が入るまでの移動距離です（下例の②の軌跡の距離）。目標範囲に重心が一度も入らなかった場合は達成制限時間内の総移動距離になります。
- **目標内移動距離**
  目標達成時の目標範囲内での重心の移動距離です。途中で目標外に出た場合は出る直前と再び入った直後の位置を直線で結びます（下例の①の軌跡の距離）。目標非達成（目標内に静止時間留まっていない）の場合は計算対象外です。

例：目標表示から目標達成までの軌跡



６－３－１－４　アクティブトレーニング結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。トレーニング結果には目標位置、指示／達成回数、目標到達までの時間／距離等を表示します。

ﾓｰﾄﾞ	アクティブトレーニング	計測No.	4
日時	2003年5月15日 18時47分	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ時間 [分]	3
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　アクティブトレーニング		

軸足／非軸足位置	左 ／ No.9		X	Y
目標の大きさ:一辺 [mm]	30	軸足の位置 [mm]	0.0	0.0
重心表示の大きさ:直径 [mm]	20	非軸足の位置 [mm]	303.5	0.0
達成制限時間 [秒]	6	両足の中心位置 [mm]	151.8	0.0
静止時間 [秒]	1			
目標の指示	目標値－目標値			
目標の指示順序	ランダム			

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
目標方向	8	4	6	2	3	7	1	3
目標中心位置X [mm]	95.9	199.1	118.1	204.4	206.3	87.7	151.8	260.9
目標中心位置Y [mm]	55.9	-47.3	-33.6	52.6	0.0	0.0	32.8	0.0
指示回数	7	5	3	5	5	5	4	4
達成回数	3	3	3	4	5	4	3	2
目標到達平均時間 [秒]	4.7	4.7	2.5	3.6	2.1	3.6	3.7	4.3
目標到達移動平均距離 [mm]	171.0	174.8	106.3	151.7	67.1	123.0	115.4	157.3
目標内移動平均距離 [mm]	24.5	22.9	35.4	27.6	26.8	19.9	18.0	26.2

以下の情報をグラフ表示します。

- 目標達成度
- 目標位置

関連 **【６－３－２　表示グラフの説明】**

- **目標方向**
  方向１～８です。
- **目標中心位置 X,Y**
  目標の座標値（X,Y）です。
- **指示回数**
  目標を表示した回数です。時間切れ（トレーニング時間終了時点に目標達成していない場合）の目標表示は含めません。
- **達成回数**
  上記指示回数内で目標達成した回数です。
- **目標到達平均時間**
  目標到達時間（アクティブ計測の項参照）の総和を指示回数で割った値です。但し、時間切れになった目標は対象外です。
- **目標到達移動平均距離**
  目標到達移動距離（アクティブ計測の項参照）の総和を指示回数で割った値です。但し、時間切れになった目標は対象外です。
- **目標内移動平均距離**
  目標内移動距離（アクティブ計測の項参照）の総和を達成回数で割った値です。

６－３－１－５　ステップ計測結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。計測結果には目標位置、目標到達時間／離脱時間等を表示します。

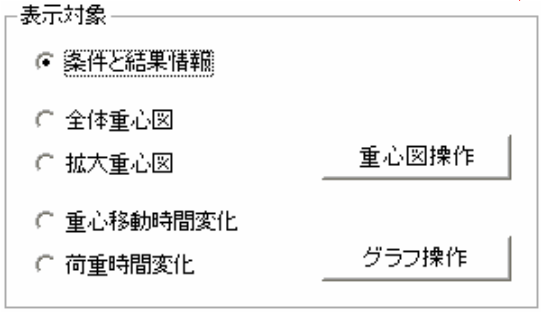
ﾓｰﾄﾞ	ステップ計測	計測No.	5
日時	2003年5月15日 18時59分	計測時間 [分：秒]	00:30.85
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　ステップ計測		

軸足／ｽﾀｰﾄ位置	左 ／ No.4	達成制限時間 [秒]	10
重心表示の大きさ:直径 [mm]	50	静止時間 [秒]	2
目標荷重の上限 [%]	80	目標ｻｲｽﾞ X , Y [mm]	150.0 , 280.0
目標荷重の下限 [%]	20		

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
目標位置No.	6	4	8	7	5	3	2	1
目標中心位置X [mm]	0.0	200.0	400.0	200.0	400.0	400.0	200.0	0.0
目標中心位置Y [mm]	-330.0	0.0	-330.0	-330.0	0.0	330.0	330.0	330.0
達成回数	1	1	1	1	1	1	1	1
目標到達時間 [秒]	2.2	2.4	1.6	1.8	1.8	1.8	1.6	1.7
目標離脱時間 [秒]	1.3	0.9	0.6	0.6	1.0	0.8	0.9	-

以下の情報をグラフ表示します。

- 全体重心図
- 拡大重心図
- 重心移動時間変化
- 荷重時間変化



関連 【６－３－２　表示グラフの説明】

- **目標位置 No.**
  目標位置１～８です。
- **目標中心位置 X,Y**
  目標の座標値（X,Y）です。
- **達成回数**
  目標達成した回数です。１あるいは０。
- **目標到達時間**
  目標が表示されてから目標内且つ設定荷重範囲状態になるまでの時間です。この状態に一度もならずに達成制限時間経過した場合、目標到達時間＝達成制限時間となります。
  ※「アクティブ計測の場合の到達」に対して荷重範囲であることの条件が加わります。
- **目標離脱時間**
  目標達成（目標内且つ設定荷重範囲状態を静止時間経過する）した状態で、次の目標が表示されてから目標外に出るかあるいは設定荷重範囲外になる（＝離脱）までの時間です。離脱しない状態が継続したままで同じ位置の目標が対象になった場合、それまでの時間が離脱時間になります。
  非達成目標および最終表示目標は計算対象外です。加えて、最終達成目標から離脱しないまま終了した場合も計算対象外です。

６－３－１－６　ステップトレーニング結果の表示項目

「表示対象」フレームで「条件と結果情報」を選択すると以下の形式で表示します。トレーニング結果には目標位置、目標到達時間／離脱時間等を表示します。

ﾓｰﾄﾞ	ステップトレーニング	計測No.	6
日時	2003年5月15日 19時7分	ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ時間 [分]	3
担当者	酒井	ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ周波数 [Hz]	20
ﾒﾓ	サンプル　ステップトレーニング		

軸足／ｽﾀｰﾄ位置	左 ／ No.4	外側目標割合 [%]	100
重心表示の大きさ:直径 [mm]	50	内側目標割合 [%]	50
目標荷重の上限 [%]	80	外側目標の配点	1
目標荷重の下限 [%]	20	内側目標の配点	3
達成制限時間 [秒]	5	外側目標ｻｲｽﾞ X , Y [mm]	150.0 , 280.0
静止時間 [秒]	2	内側目標ｻｲｽﾞ X , Y [mm]	106.1 , 198.0
目標の指示順序	設定順		

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
目標位置No.	1	2	4	7	6	4	1	
目標中心位置X [mm]	0.0	200.0	200.0	200.0	0.0	200.0	0.0	
目標中心位置Y [mm]	330.0	330.0	0.0	-330.0	-330.0	0.0	330.0	
指示回数	6	6	6	6	5	5	5	
外側達成回数	5	3	1	1	2	1	0	
内側到達回数	5	3	1	1	1	1	0	
目標到達平均時間 [秒]	0.5	3.2	4.4	4.4	3.1	3.2	3.8	
目標離脱平均時間 [秒]	0.9	1.2	2.6	1.0	0.7	1.2	－	

以下の情報をグラフ表示します。

- 移動平均時間
- 目標達成度

関連 【６－３－２　表示グラフの説明】

- **目標位置 No.**
  目標位置１～８です。
- **目標中心位置 X,Y**
  目標の座標値（X,Y）です。
- **指示回数**
  目標を表示した回数です。時間切れ（トレーニング時間終了時点に目標達成していない場合）の目標表示は含めません。
- **外側達成回数**
  外側目標を達成した回数です。
- **内側到達回数**
  外側目標達成した回で更に内側目標範囲に一度でも到達した回数です。
- **目標到達平均時間**
  目標到達時間（ステップ計測の項参照）の総和を指示回数で割った値です。但し、時間切れになった目標は対象外です。
- **目標離脱平均時間**
  目標離脱時間（ステップ計測の項参照）の総和を外側達成回数で割った値です。

６－３－２　表示グラフの説明

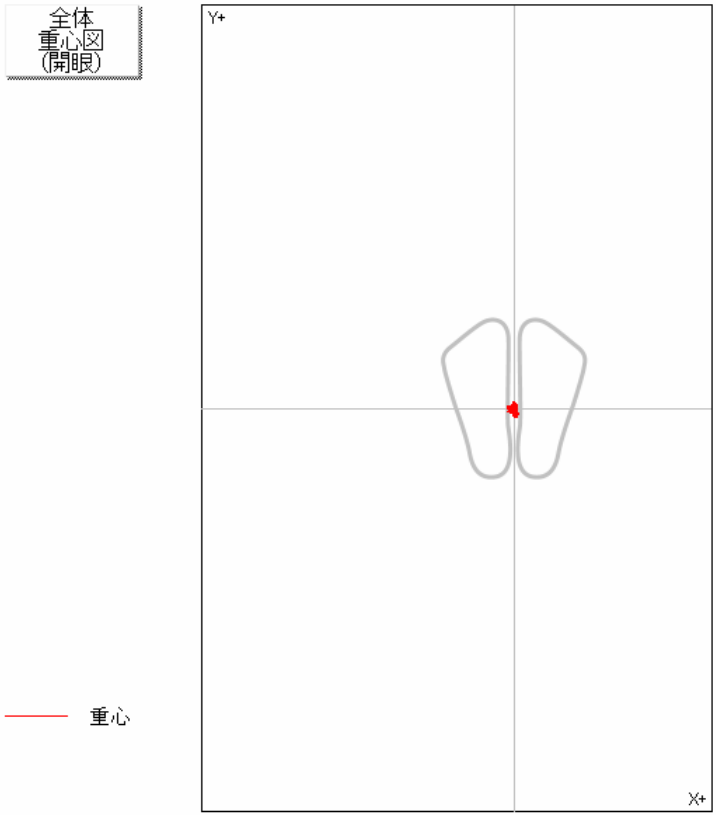
計測／トレーニングの各モードで表示するグラフは以下の通りです。

モード / グラフ	計測 スタティック	トレーニング 部分負荷	計測 アクティブ	トレーニング アクティブ	計測 ステップ	トレーニング ステップ
全体重心図	○	○	○		○	
拡大重心図	○	○	○		○	
パワースペクトル	○					
位置ベクトル	○					
速度ベクトル	○					
振幅確率密度分布	○					
重心移動時間変化		○	○		○	
重心移動距離		○	○			
荷重時間変化		○	○		○	
目標位置			○	○		
目標達成度				○		○
移動平均時間						○

６－３－２－１　全体重心図

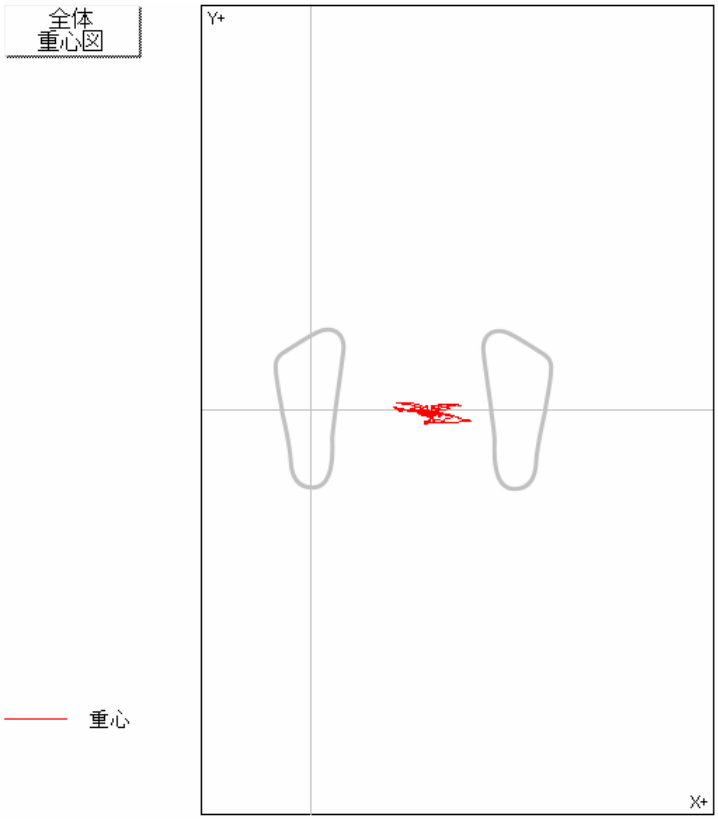
検出台全体イメージと重心軌跡を表示します。

- スタティック計測



例）
立位姿勢＝両足
（自然立位）
立位方向＝正方向

- 部分負荷トレーニング

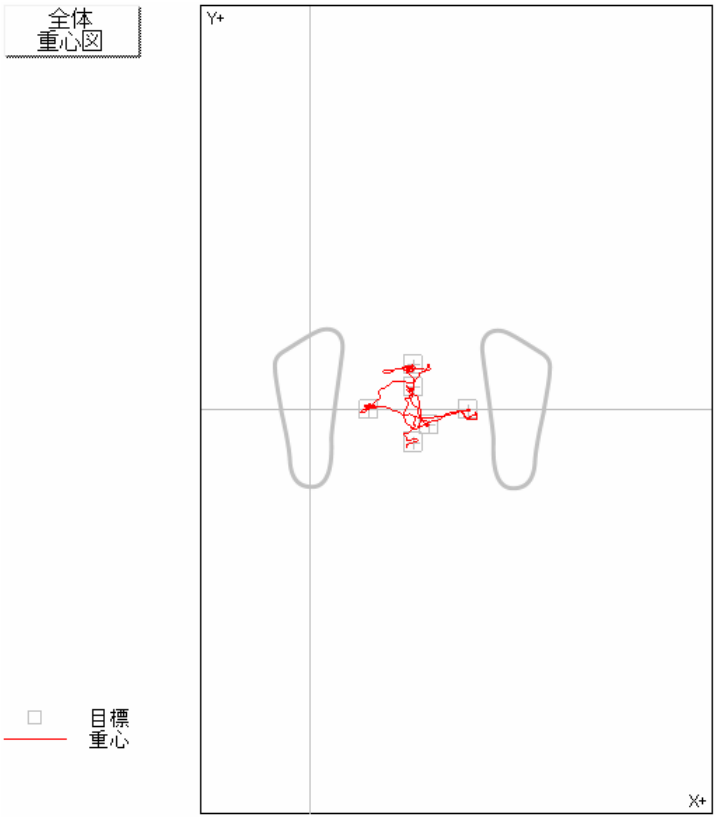


例）
軸足位置＝左
非軸足位置＝No.9

● アクティブ計測

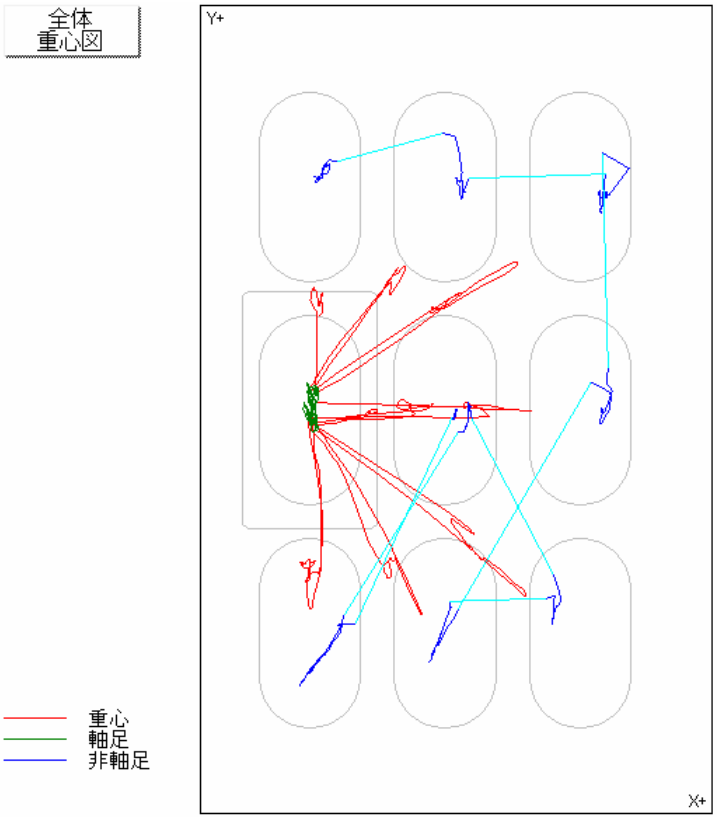
例）
軸足位置＝左
非軸足位置＝No.9

目標位置が□で表示されます。



● ステップ計測

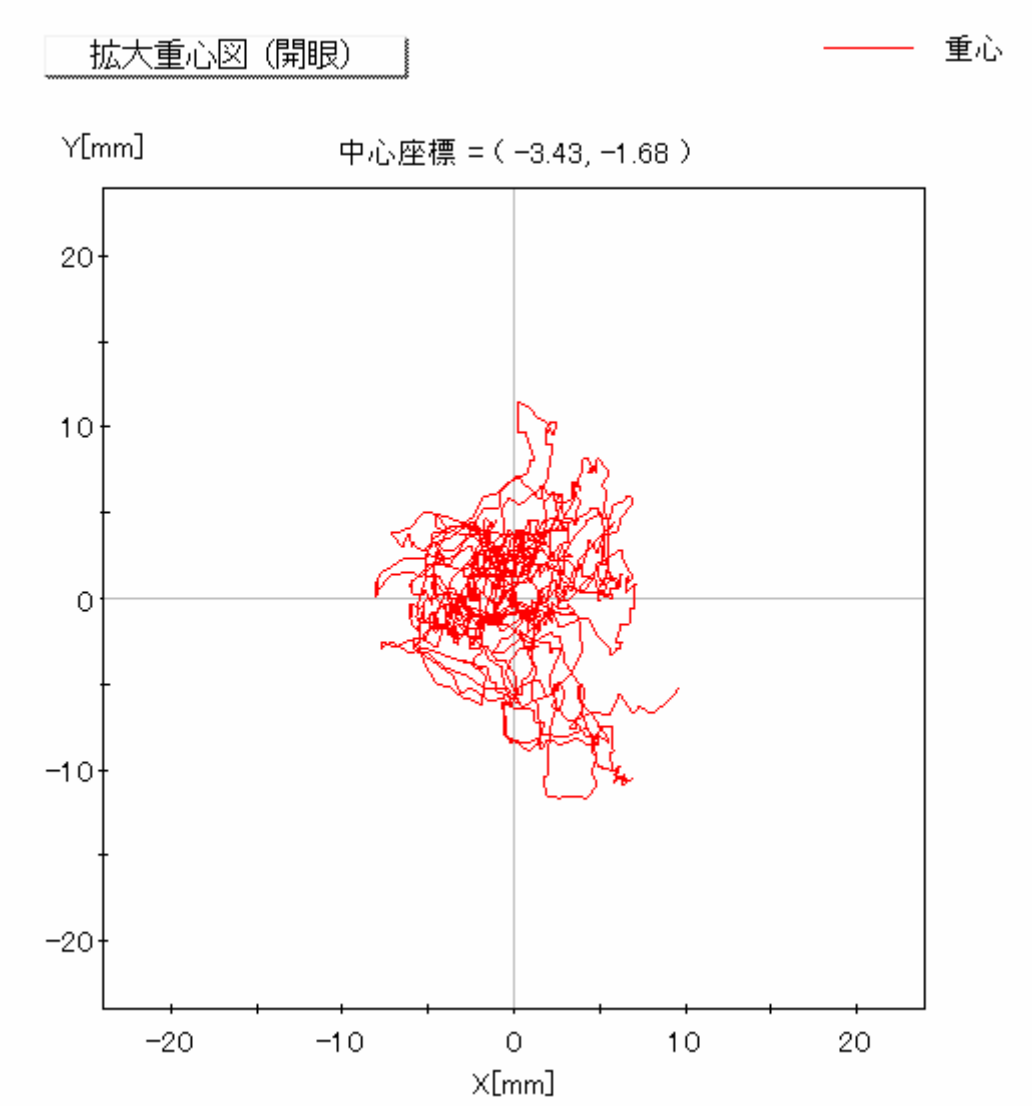
例）
軸足位置＝左
目標位置＝全て



参考 荷重を検出していない状態では前後の荷重検出点を薄い色（重心→桃、軸足→黄緑、非軸足→水色）の直線で結んで表示します。例えば非軸足ステップ中では非軸足軌跡は水色で表示されます。

６－３－２－２　拡大重心図

重心軌跡を動揺平均中心変位を中心として表示します。

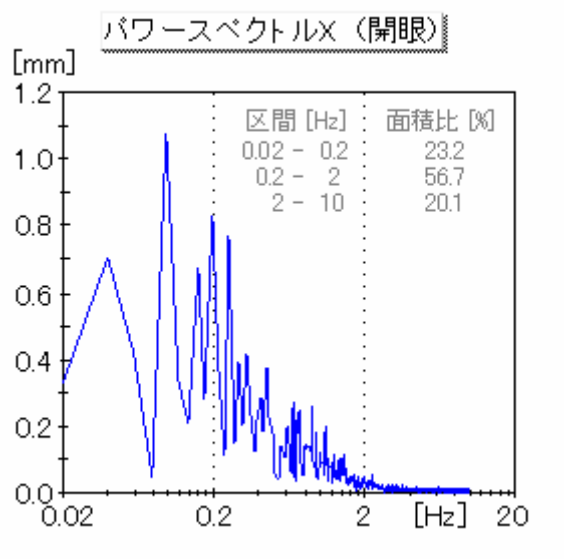


- スタティック計測
  表示スケール（縦横サイズ）は開眼と閉眼で同一になります。

- アクティブ計測
  目標位置が□で表示されます。

６－３－２－３　パワースペクトル

下のようなパワースペクトルグラフをＸ、Ｙ、Ｚの３種類表示します。



パワースペクトルＸ ・・・・・・ 重心位置のＸ軸（左右）方向の揺れに含まれる周波数成分をグラフ化しています。

パワースペクトルＹ ・・・・・・ 重心位置のＹ軸（前後）方向の揺れに含まれる周波数成分をグラフ化しています。

パワースペクトルＺ ・・・・・・ 重心位置の動径方向の揺れに含まれる周波数成分をグラフ化しています。

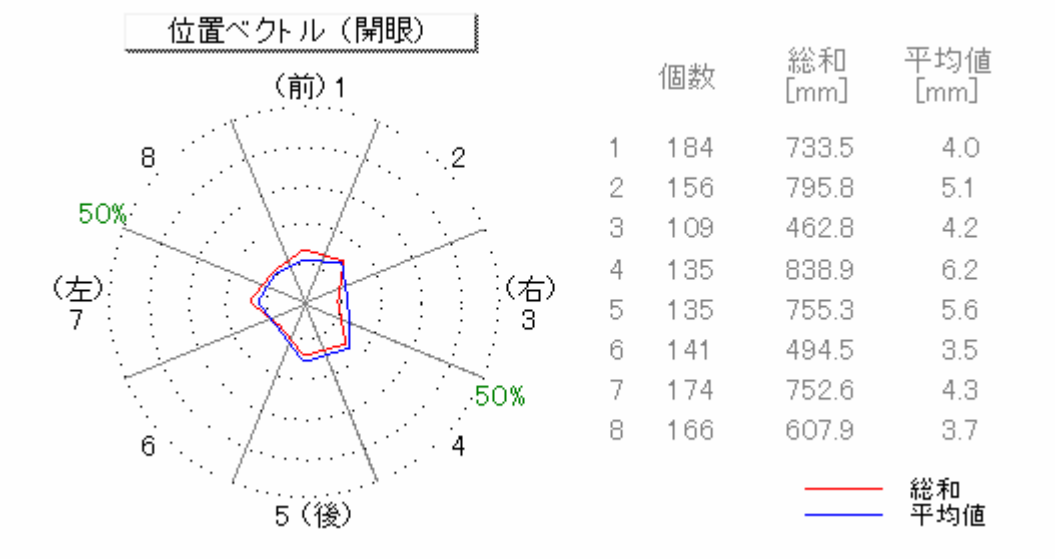
※重心位置の動径とは動揺平均中心変位からの距離を表します。

$$Z = \sqrt{X^2 + Y^2}$$

面積比 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 各々の数値を小数以下１桁に丸めている為、合計は必ずしも 100[%]にはなりません。

６－３－２－４　位置ベクトル

各領域の位置ベクトルの総和および平均値の割合を示すグラフです。



	個数	総和 [mm]	平均値 [mm]
1	184	733.5	4.0
2	156	795.8	5.1
3	109	462.8	4.2
4	135	838.9	6.2
5	135	755.3	5.6
6	141	494.5	3.5
7	174	752.6	4.3
8	166	607.9	3.7

総和
平均値

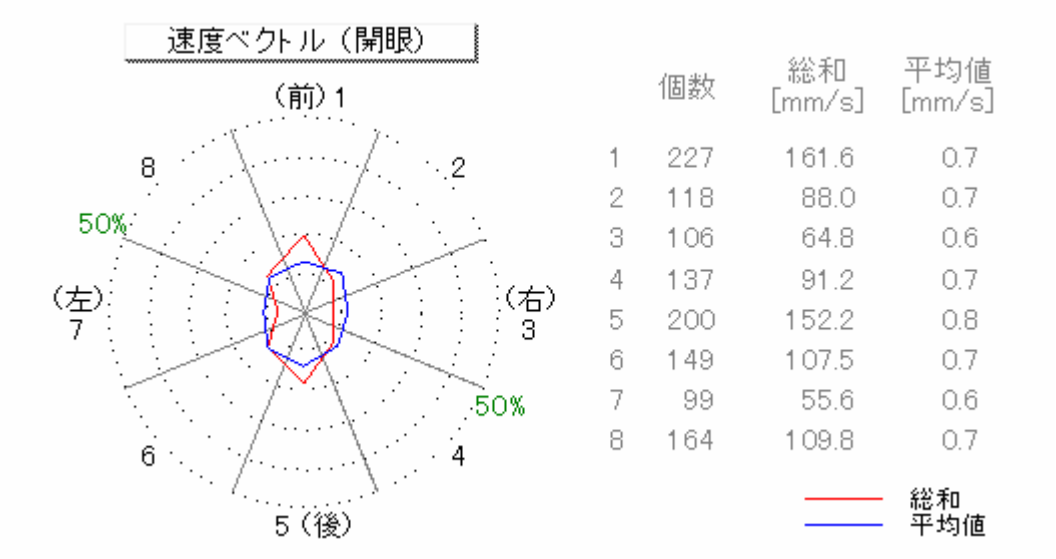
領域１～８ …… 動揺平均中心変位を原点としてＸ軸およびＹ軸から±22.5°の領域に分け、上のように右回りに８分割した領域です。

個数 …… 各領域に含まれるデータ数です。

総和と平均値 …… 各データ点と原点との距離の総和およびその平均値です。

６－３－２－５　速度ベクトル

各領域の速度ベクトルの総和および平均値の割合を示すグラフです。



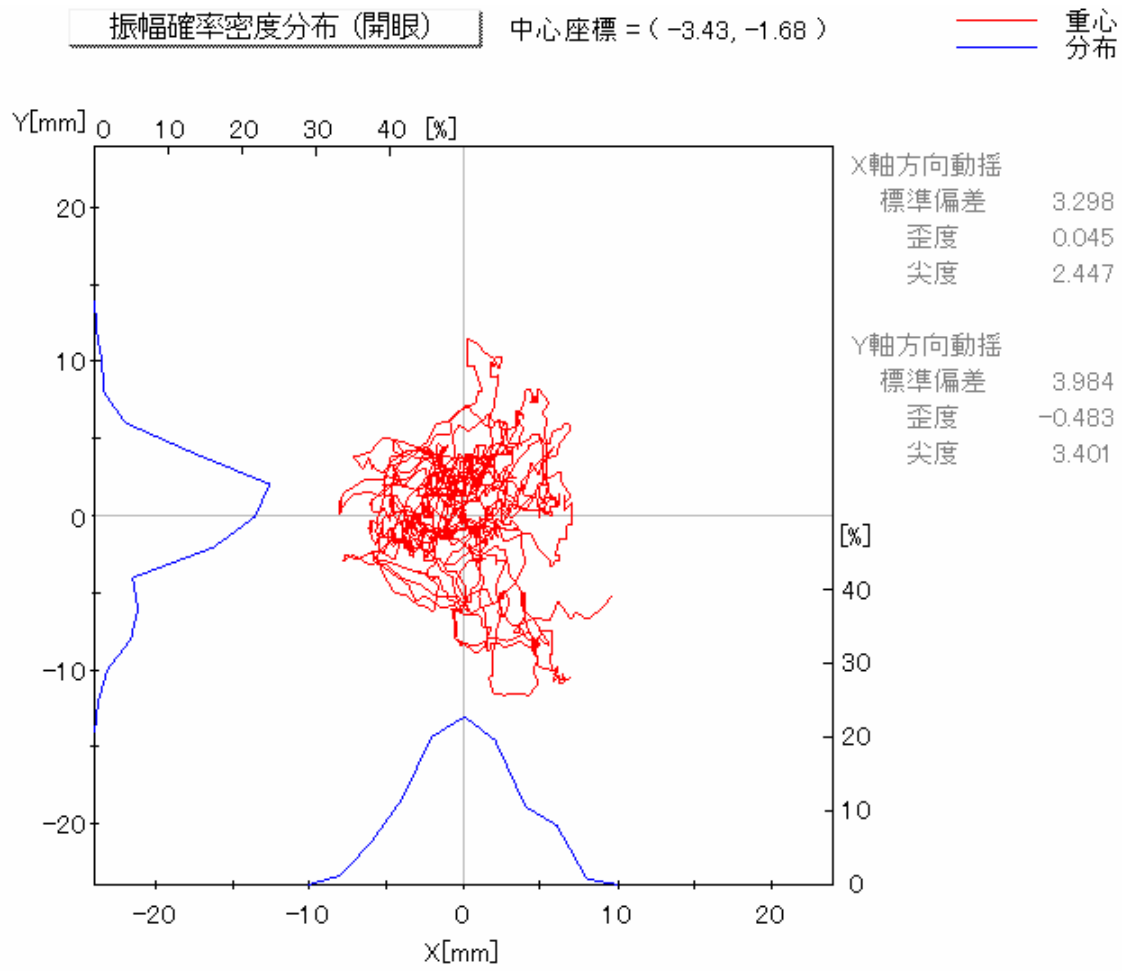
	個数	総和 [mm/s]	平均値 [mm/s]
1	227	161.6	0.7
2	118	88.0	0.7
3	106	64.8	0.6
4	137	91.2	0.7
5	200	152.2	0.8
6	149	107.5	0.7
7	99	55.6	0.6
8	164	109.8	0.7

総和
平均値

領域１～８ ･･･････････････ 位置ベクトルと同様に８分割した領域です。
個数 ･･･････････････････････ 各領域に含まれるデータ数です。
総和と平均値 ･･･････････････ 連続するサンプリング２点間のベクトルの総和およびその平均値です。

６－３－２－６　振幅確率密度分布

重心データの X 軸・Y 軸における振幅確率密度分布（級間隔２[mm]）を表示します。標準偏差・歪度・尖度等を評価し、動揺の特徴をとらえます。

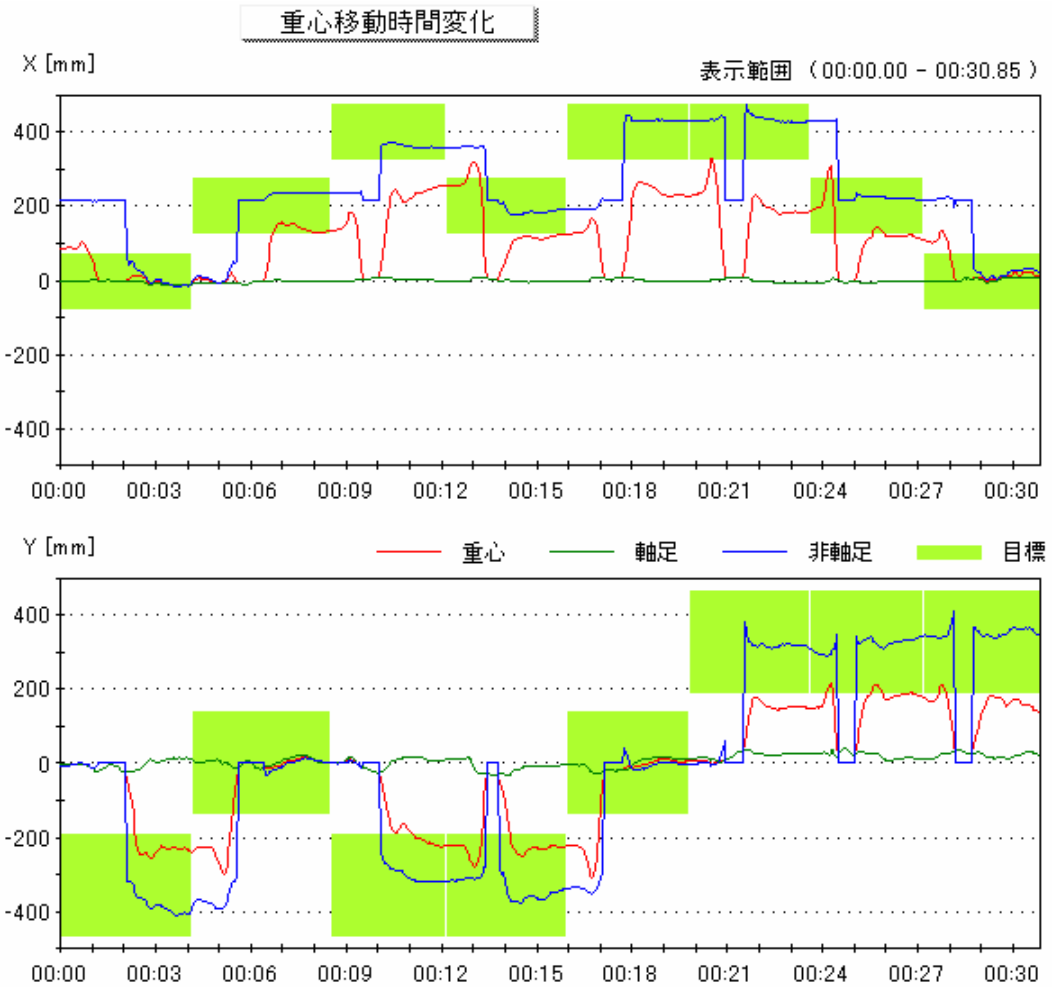


標準偏差 ・・・・・・・ 動揺平均中心変位からの散らばり程度を示します。
歪度 ・・・・・・・・・・・ 非対象度の測定に用いています。
負符号：X 軸で右傾分布、Y 軸で前傾分布を示します。
尖度 ・・・・・・・・・・・ 平均値まわりの尖りの程度の測定に用いています。
尖度＞３：鋭鋒分布
＝３：正規分布
＜３：鈍峰分布

表示スケール（縦横サイズ）は開眼と閉眼で同一になります。

６－３－２－７　重心移動時間変化

重心データのＸ軸・Ｙ軸における位置を表示します。モードにより対象目標の範囲（時間、座標；黄緑色の帯）を追加表示します。



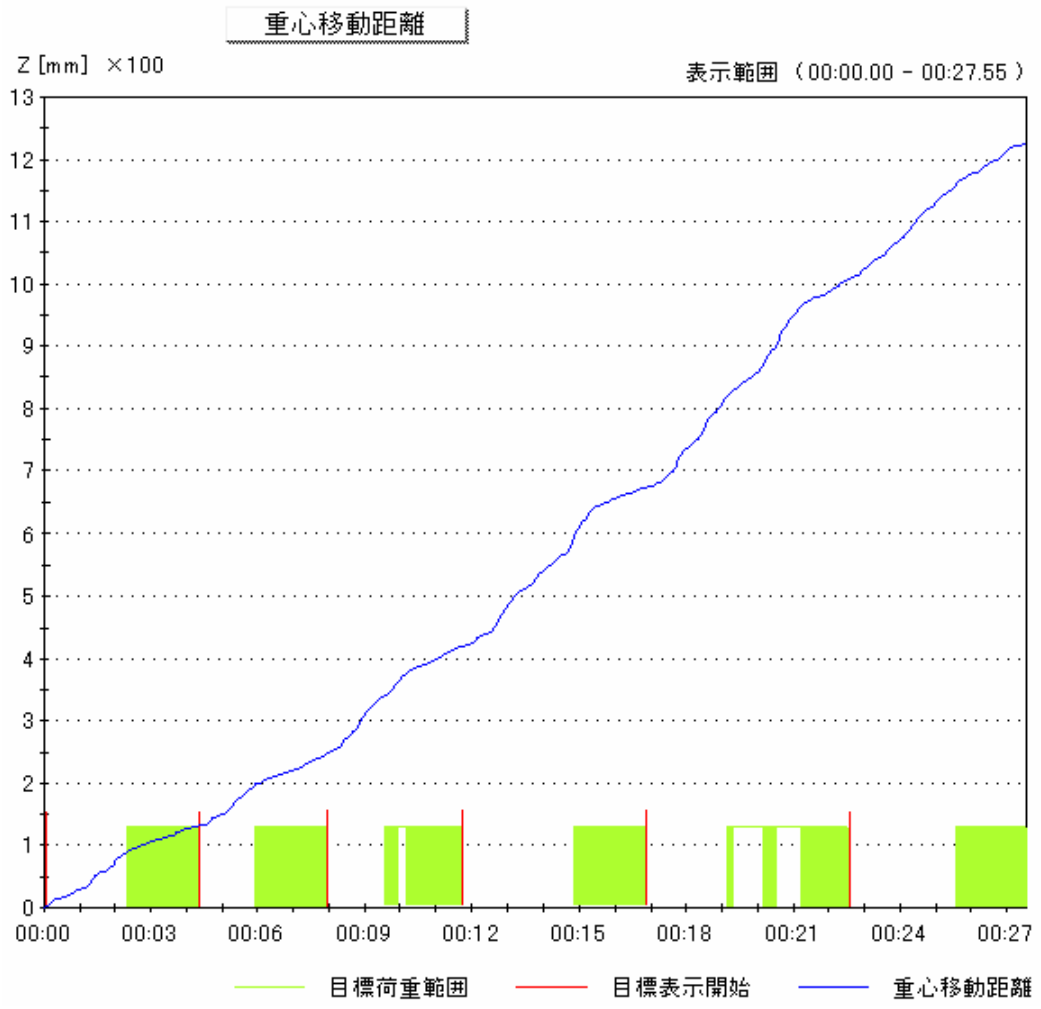
- 部分負荷トレーニング
  表示対象は重心のみです。

- アクティブ計測
  表示対象は重心および目標のみです。

- ステップ計測
  表示対象は重心、軸足、非軸足および目標です（上図）。

６－３－２－８　重心移動距離

重心の移動距離を表示します。モードにより対象目標表示開始の時間位置（赤ライン）と目標内で荷重範囲にある時間位置（黄緑ライン）を追加表示します。

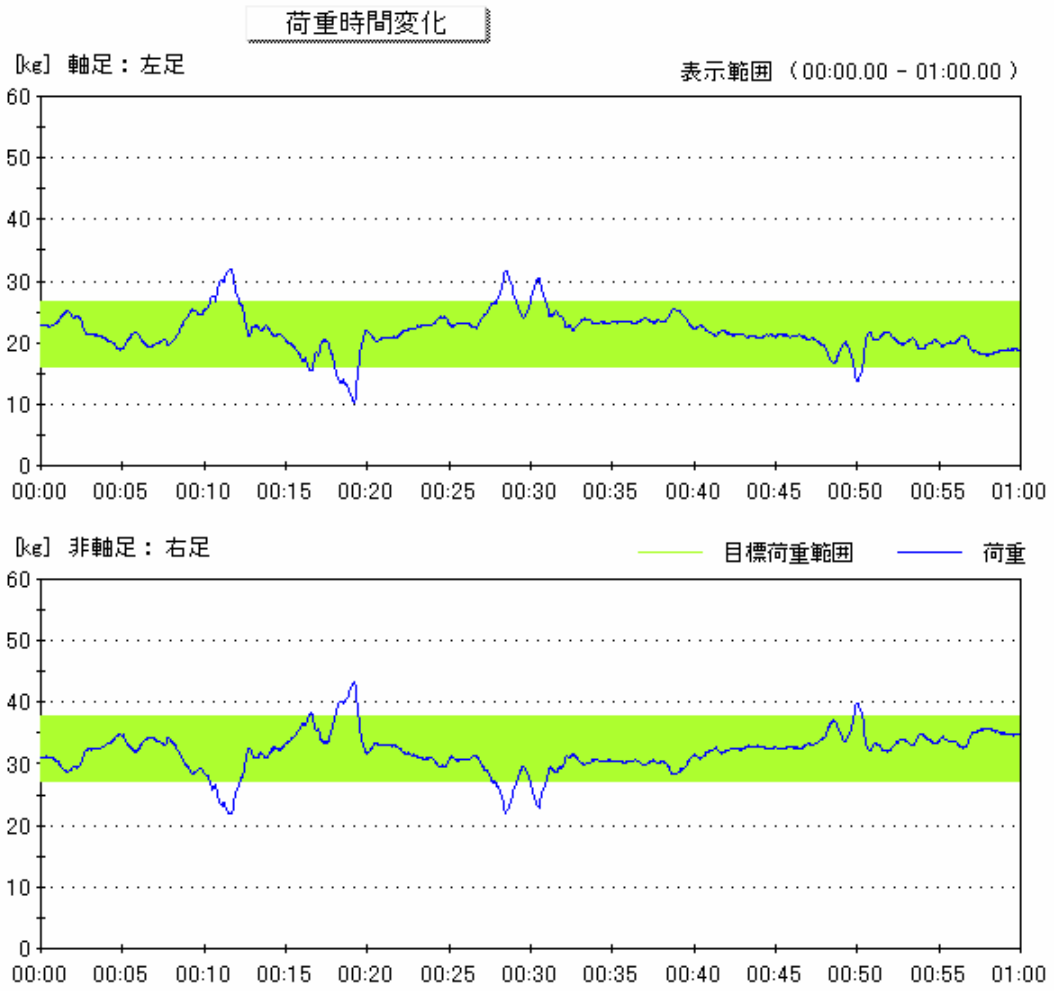


- 部分負荷トレーニング
  表示対象は重心移動距離のみです。

- アクティブ計測
  表示対象は重心移動距離、および目標です（上図）。

６－３－２－９　荷重時間変化

軸足および非軸足の荷重値を表示します。モードにより対象追加表示の内容が異なります。

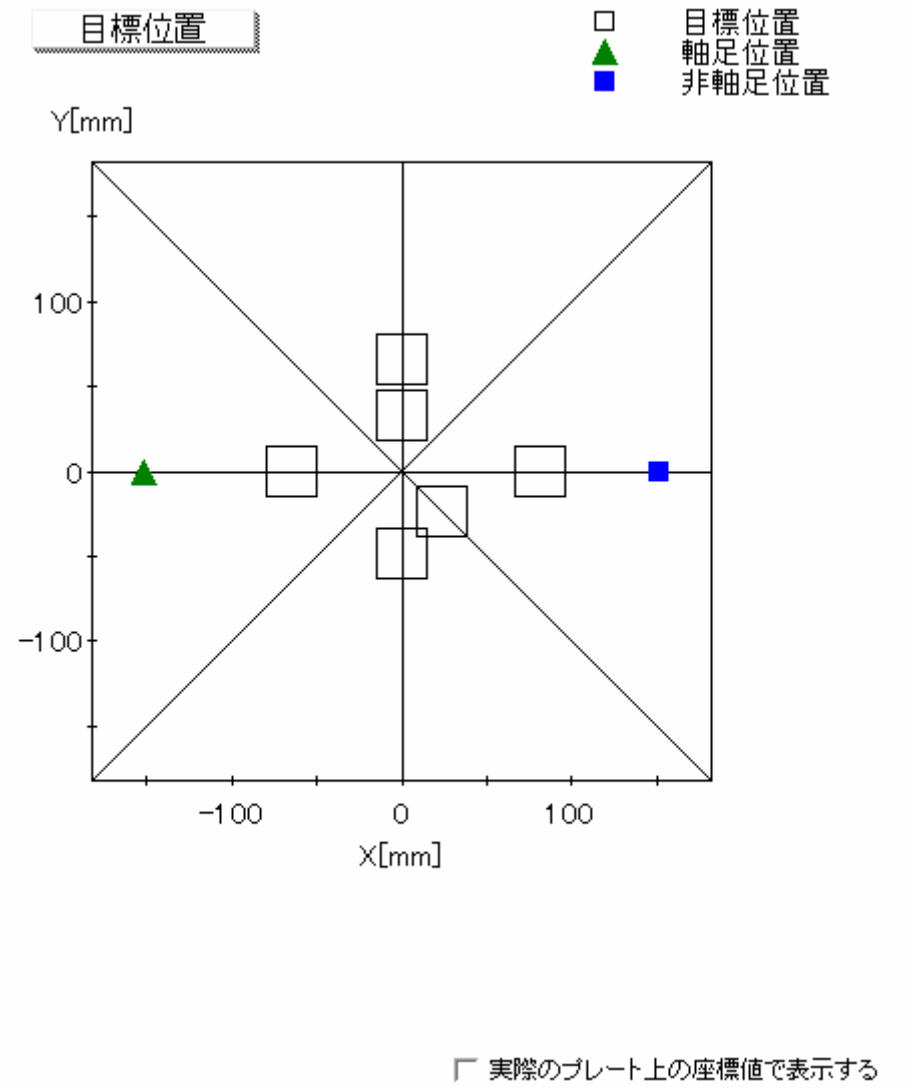


- 部分負荷トレーニング
  荷重値に加えて、設定荷重範囲を黄緑の帯で示します（上図）。

- アクティブ計測、ステップ計測
  荷重値に加えて、対象目標表示開始の時間位置（赤ライン）と目標内で荷重範囲にある時間位置（黄緑ライン）を表示します。

６－３－２－１０　目標位置

軸足、非軸足および目標の位置を、両足中心位置を中心として表示します。

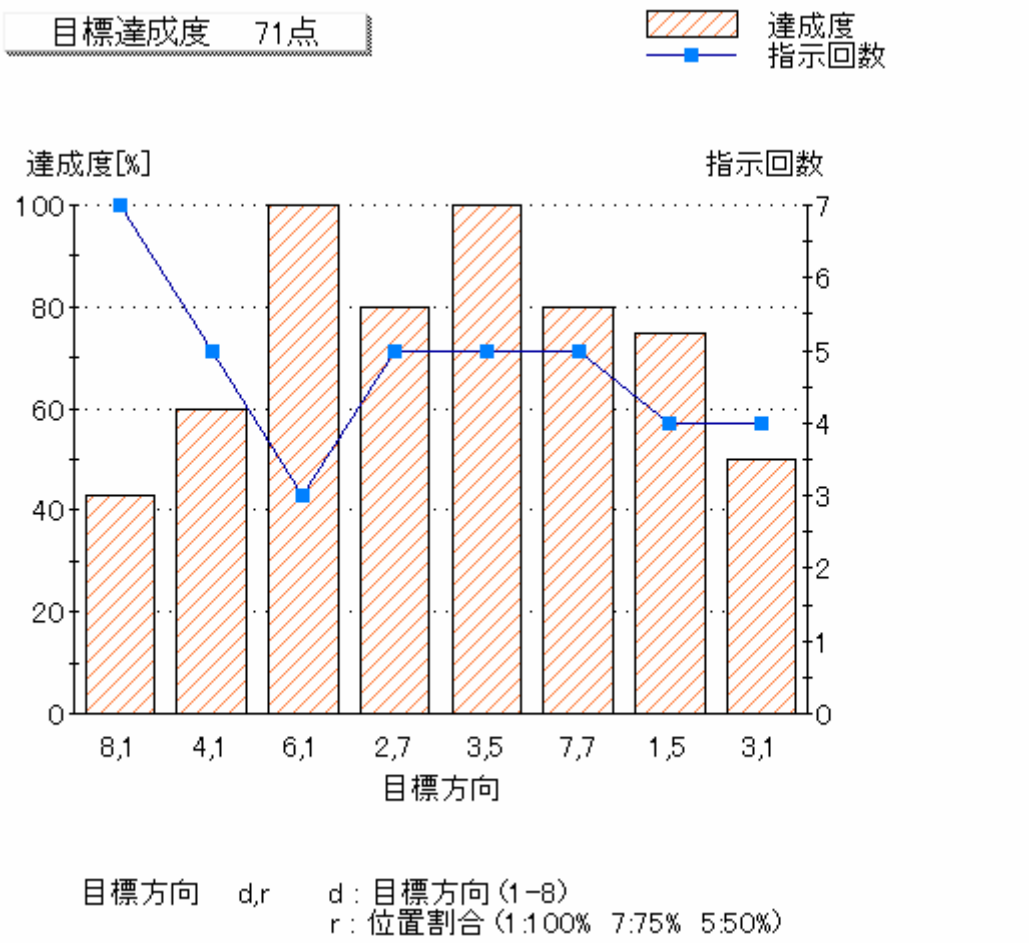


「実際のプレート上の座標値で表示する」チェックボックス

ON ・・・・・・・ 検出台上の座標値で表示します。
※「条件と結果情報」で表示される目標座標と一致します。
OFF ・・・・・・ 両足の中心位置を座標原点として表示します。

６－３－２－１１　目標達成度

目標毎の指示回数、達成度（成功率)、および全体の達成度（100 点満点）を表示します。

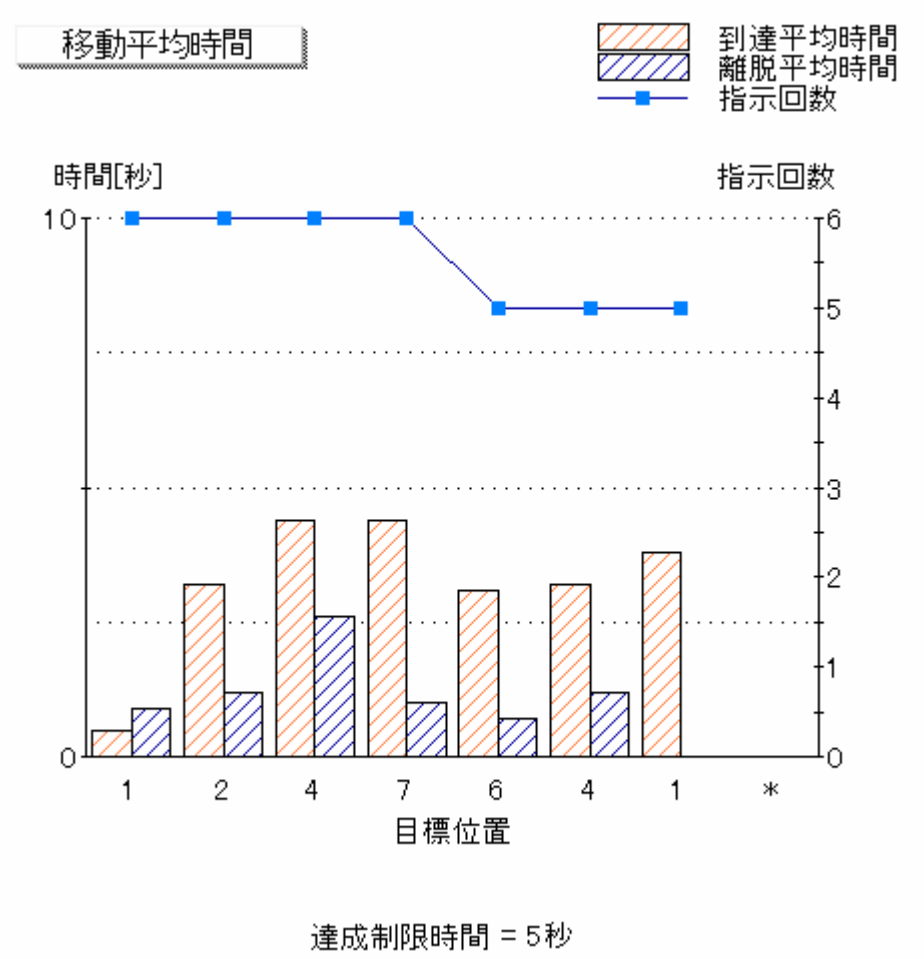


- アクティブトレーニング
  横軸には目標方向と割合を表示します（上図)。

- ステップトレーニング
  横軸には目標位置のみ表示します。

６－３－２－１２　移動平均時間

目標毎の指示回数、到達平均時間、および離脱平均時間を表示します。

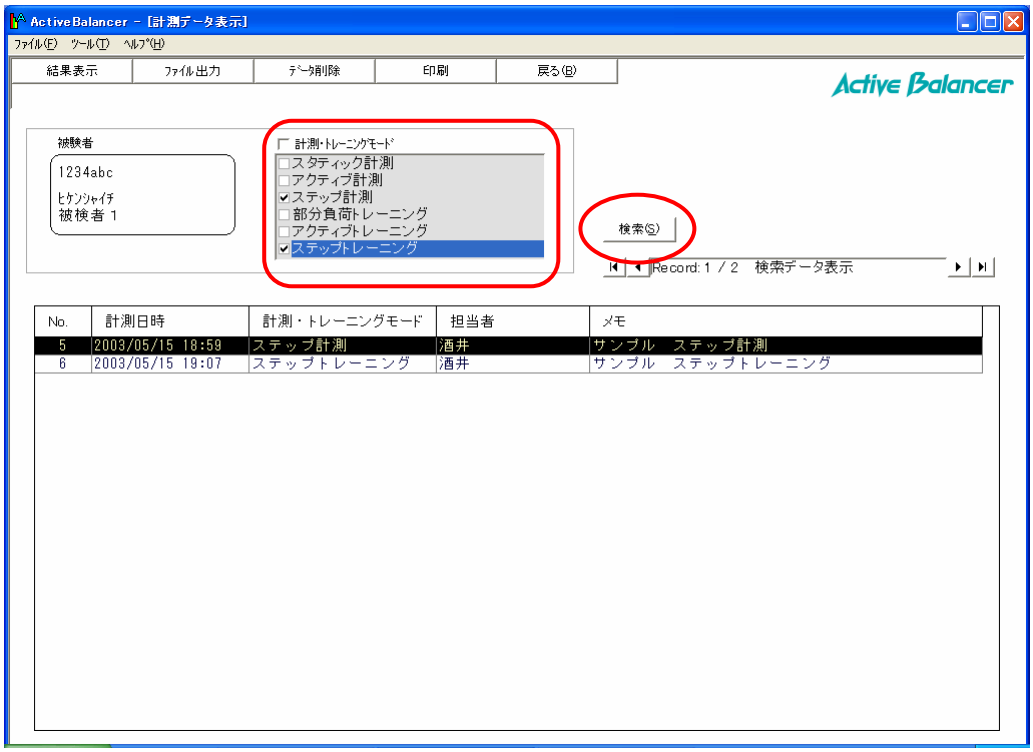


６－３－３　特定の計測・トレーニングモードのみデータ表示する

「計測データ表示」ウィンドウで計測・トレーニングモードを選択してデータ検索し、表示する対象を絞り込むことができます。

（1）「計測データ表示」ウィンドウで計測・トレーニングモードリストで検索したいモードを選択し、［**検索(S)**］ボタンをクリックします。

例：ステップ計測、ステップトレーニング　を選択した状態



（2）検索状態を解除して全てのデータを表示し直すにはリスト内のチェックボックスを「全て選択」にするかあるいは「全て非選択」にして［**検索(S)**］ボタンをクリックします。

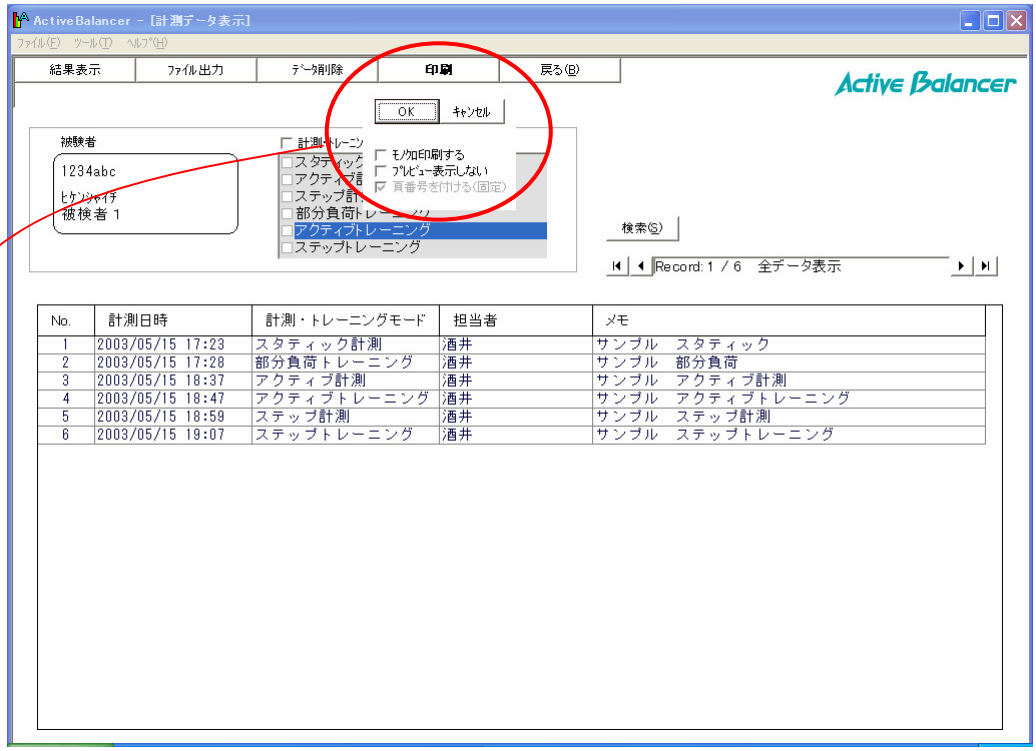
６－３－４　被検者情報と計測・トレーニング履歴を印刷する

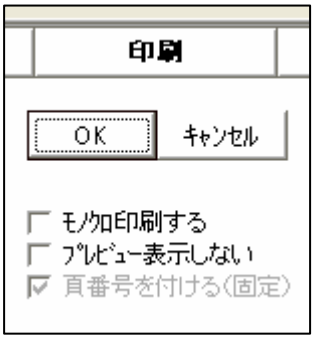
選択している被検者の情報と計測・トレーニング履歴を印刷する手順です。印刷対象・順番は「計測データ表示」ウィンドウで表示している内容と同じです。

(1)　「計測データ表示」ウィンドウで必要に応じて検索を行います。

関連【６－３－３　特定の計測・トレーニングモードのみデータ表示する】

(2)　[印刷(P)] ボタンをクリックするとサブメニューが表示されます。





【以下の設定は印刷機能全般で共通です】

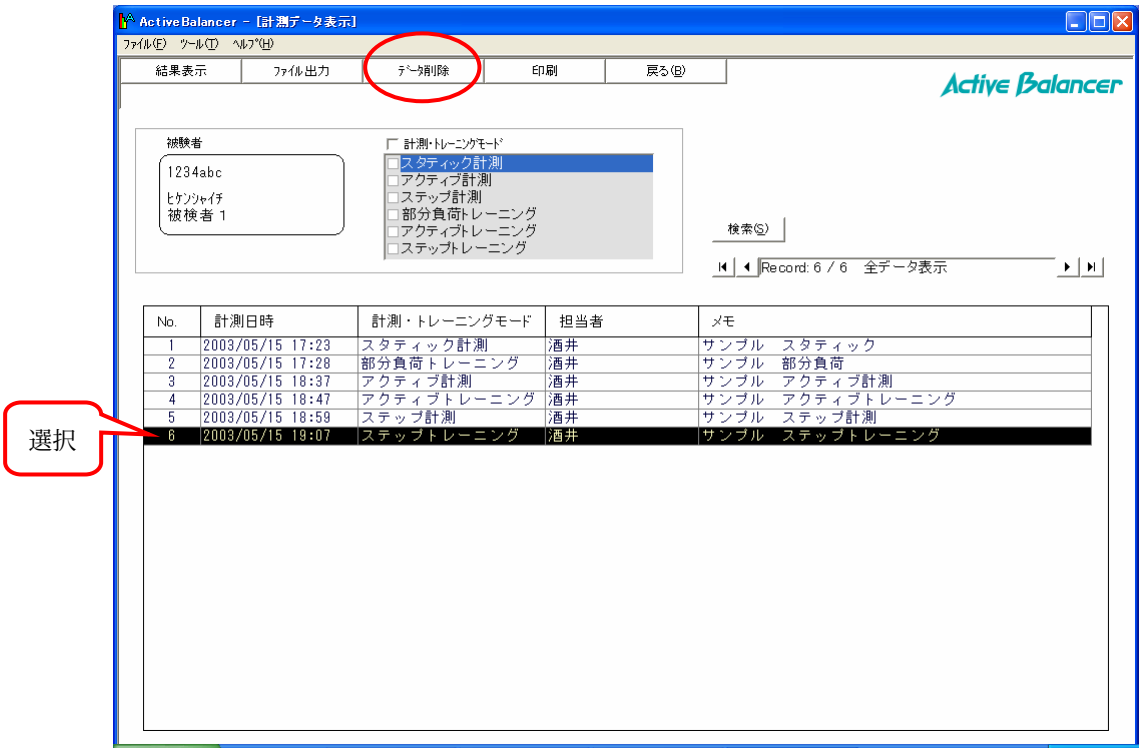
- 「モノクロ印刷する」チェックボックス
  チェックするとモノクロ印刷します。
- 「プレビュー表示しない」チェックボックス
  チェックすると「印刷プレビュー」ウィンドウを表示しません。
- 「頁番号を付ける」チェックボックス
  チェックすると用紙中央下に頁番号を付与します。
  ※一覧印刷時は選択できません（頁番号付きになります）。

(3)　[OK] ボタンをクリックすると「印刷プレビュー」ウィンドウが表示されます（プレビュー表示するの場合のみ）。【６－１－５　被検者一覧を印刷する】を参照してください。

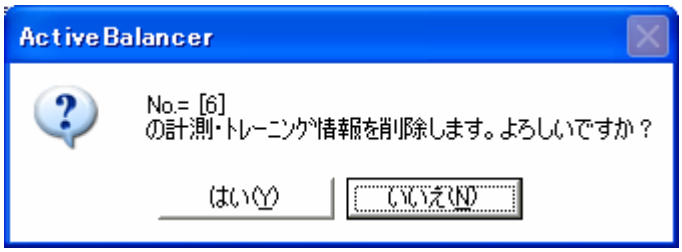
６－３－５　計測・トレーニングデータを削除する

計測・トレーニングデータの削除は１件づつ行います（複数データの一括削除はできません）。削除したデータを元に戻すことはできませんのでご注意ください。

（1）「計測データ表示」ウィンドウで削除するデータを選択し、[**データ削除**]ボタンをクリックします。



（2）削除確認のメッセージボックスが表示されます。

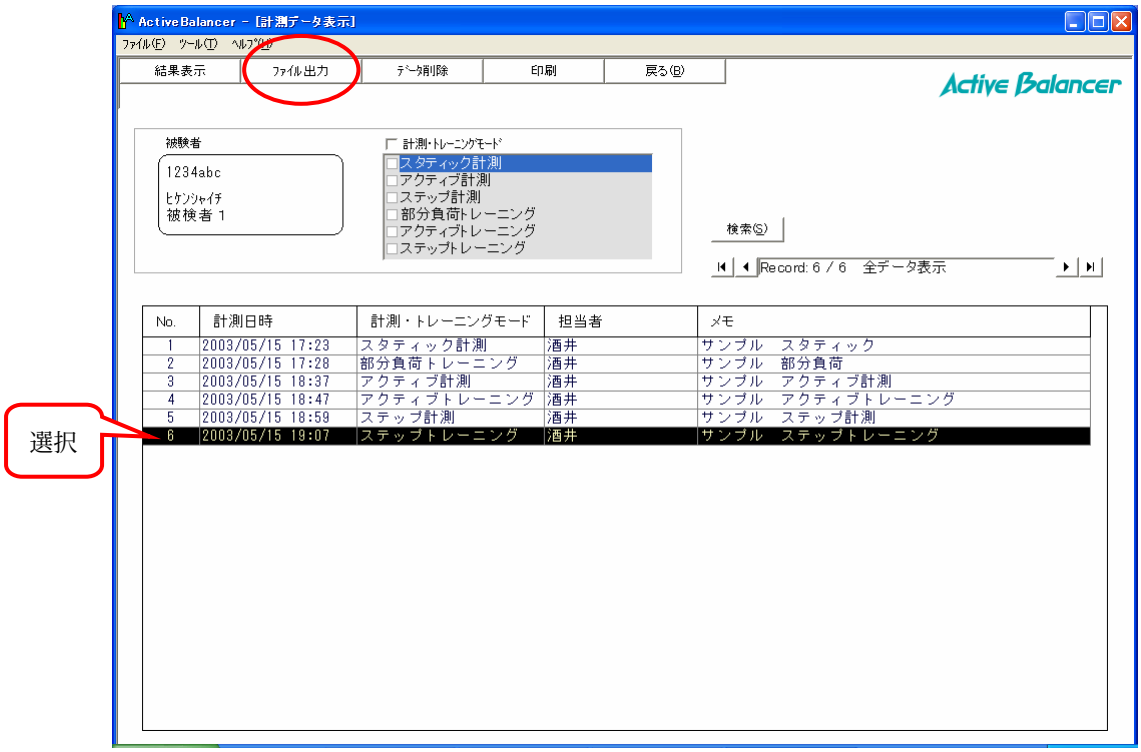


[**はい(Y)**]ボタンクリック ‥‥‥ データを削除します。
[**いいえ(N)**]ボタンクリック ‥‥‥ 削除しません。

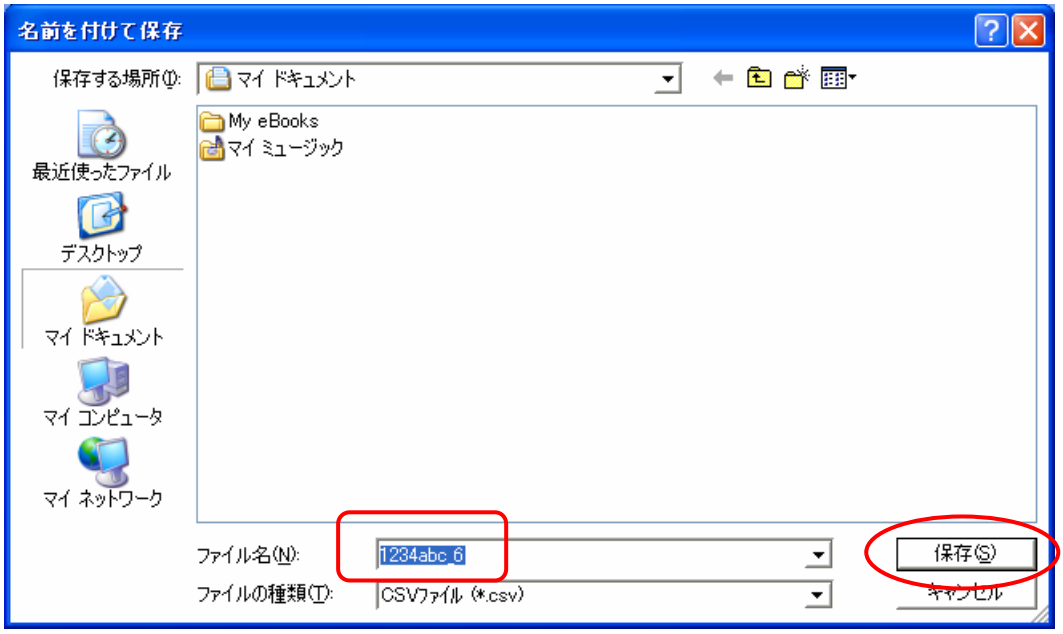
６－３－６　データをＣＳＶファイル（テキストファイル）に出力する

計測・トレーニング条件、結果情報、荷重値／重心位置データ等を任意の CSV ファイルに出力します。ファイルへの出力は１件づつ行います（複数データの一括出力はできません）。

（1）「計測データ表示」ウィンドウでファイル出力するデータを選択し、[**ファイル出力**] ボタンをクリックします。



（2）出力ファイルを指定して、［**保存(S)**］ボタンをクリックします。
デフォルト表示されるファイル名は【*ID_計測 No.*】です。



（3）確認のメッセージボックスが表示されます。

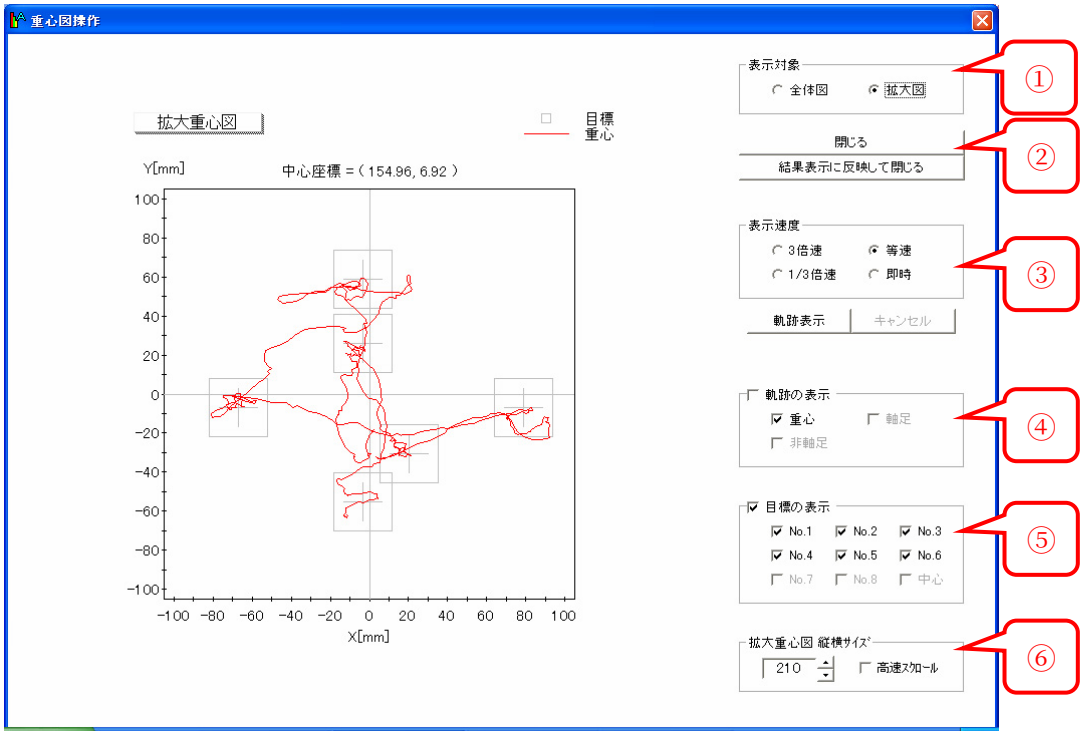
関連【８－１　計測・トレーニングデータＣＳＶファイル形式】

６－３－７　重心図を操作する（軌跡再生／スケール変更等）

全体重心図および拡大重心図を操作して軌跡再生や表示内容を変更することができます。操作は各モード共通です。アクティブ計測の場合で説明します。

（1）「結果表示」ウィンドウで、［**重心図操作**］ボタンをクリックします。
※スタティック計測では［**開眼重心図操作**］ボタン、［**閉眼重心図操作**］ボタンです。

（2）「重心図操作」ウィンドウが表示されます。



① 表示対象（全体重心図あるいは拡大重心図）を選択します。

② ボタンクリックすると「重心図操作」ウィンドウを閉じます
［**結果表示に反映して閉じる**］ボタンをクリックすると、このウィンドウでのその時点での表示内容が「結果表示」ウィンドウに反映されます。スケール変更等の結果を印刷したい場合にはこの操作を行い、「結果表示」ウィンドウで印刷操作を行ってください。

③ 表示速度を選択して［**軌跡表示**］ボタンをクリックすると表示中の軌跡を再生します。［**キャンセル**］ボタンをクリックすると再生を中止します。

④ 表示する軌跡（重心、軸足、非軸足）を選択します。拡大重心図では軸足、非軸足は選択できません。
部分負荷トレーニング、アクティブ計測、ステップ計測のみ使用可能（フレームが表示されます）です。

⑤ 目標の表示有無を指定します。
アクティブ計測のみ使用可能（フレームが表示されます）です。

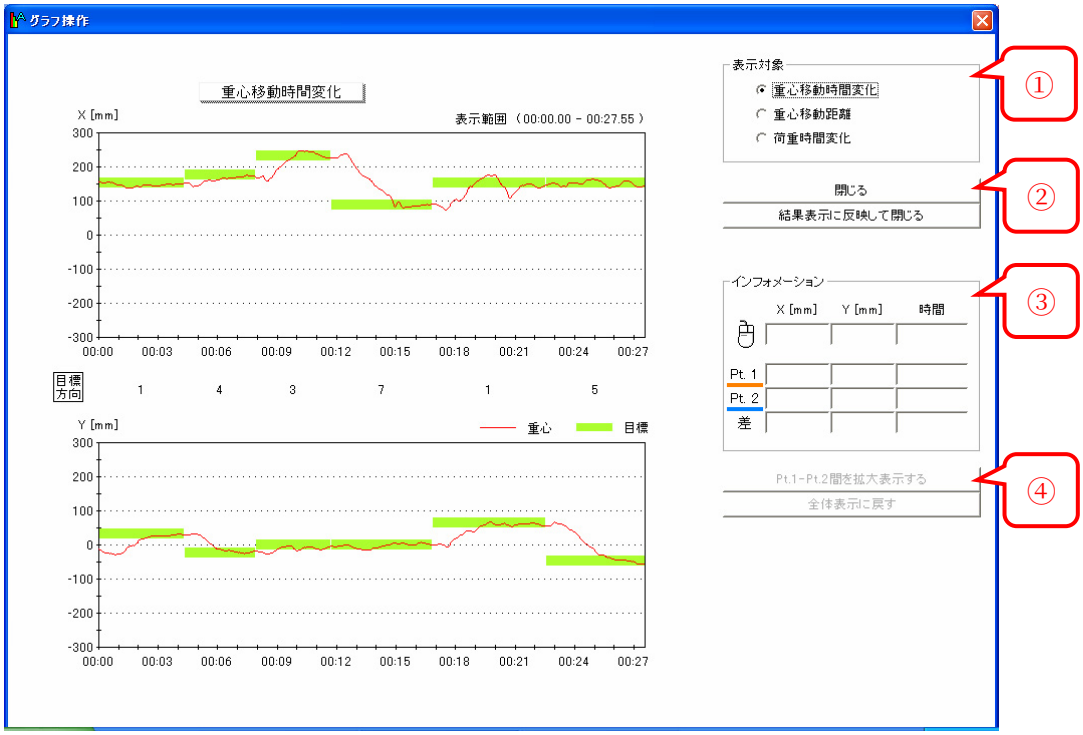
⑥ 拡大重心図の縦横サイズ(表示スケール)を変更することができます。
「高速スクロール」チェックボックスを ON にすると変更量が大きくなります。

６－３－８　グラフを操作する（部分拡大／数値表示）

重心移動時間変化、重心移動距離および荷重時間変化の各グラフを操作して部分拡大や数値の表示ができます。操作は各モード共通です。アクティブ計測の場合で説明します。

（1）「結果表示」ウィンドウで、［**グラフ操作**］ボタンをクリックします。

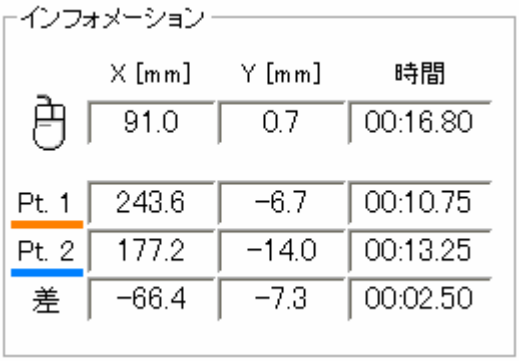
（2）「グラフ操作」ウィンドウが表示されます。



① 表示対象（重心移動時間変化、重心移動距離あるいは荷重時間変化）を選択します。

② ボタンクリックすると「グラフ操作」ウィンドウを閉じます
［結果表示に反映して閉じる］ボタンをクリックすると、このウィンドウでのその時点での表示内容が「結果表示」ウィンドウに反映されます（重心図操作と同様です）。

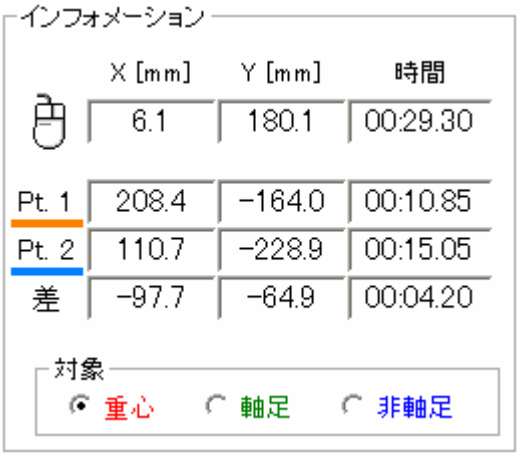
③ グラフ上の任意の時間の数値を表示します。
グラフ上でマウスポインタを移動させるとそれに伴い黒い点線が表示されます。そのポイントでの数値がマウスの絵の段（一番上）に表示されます。マウスを左クリックするとポイント１（Pt.1：オレンジ色の点線）を指定できます。右クリックするとポイント２（Pt.２：水色の点線）を指定できます。差の段にはポイント１、２間の差異が表示されます。



表示例：アクティブ計測
重心移動時間変化

← マウス位置

← ポイント１（左クリック）
← ポイント２（右クリック）
← 差異



表示例：ステップ計測
重心移動時間変化

← マウス位置

← ポイント１（左クリック）
← ポイント２（右クリック）
← 差異

← 対象選択

④　グラフを拡大表示／元に戻します。

［**Pt.1－Pt.2 間を拡大表示する**］ボタンをクリックするとポイント１とポイント２間を拡大表示します。

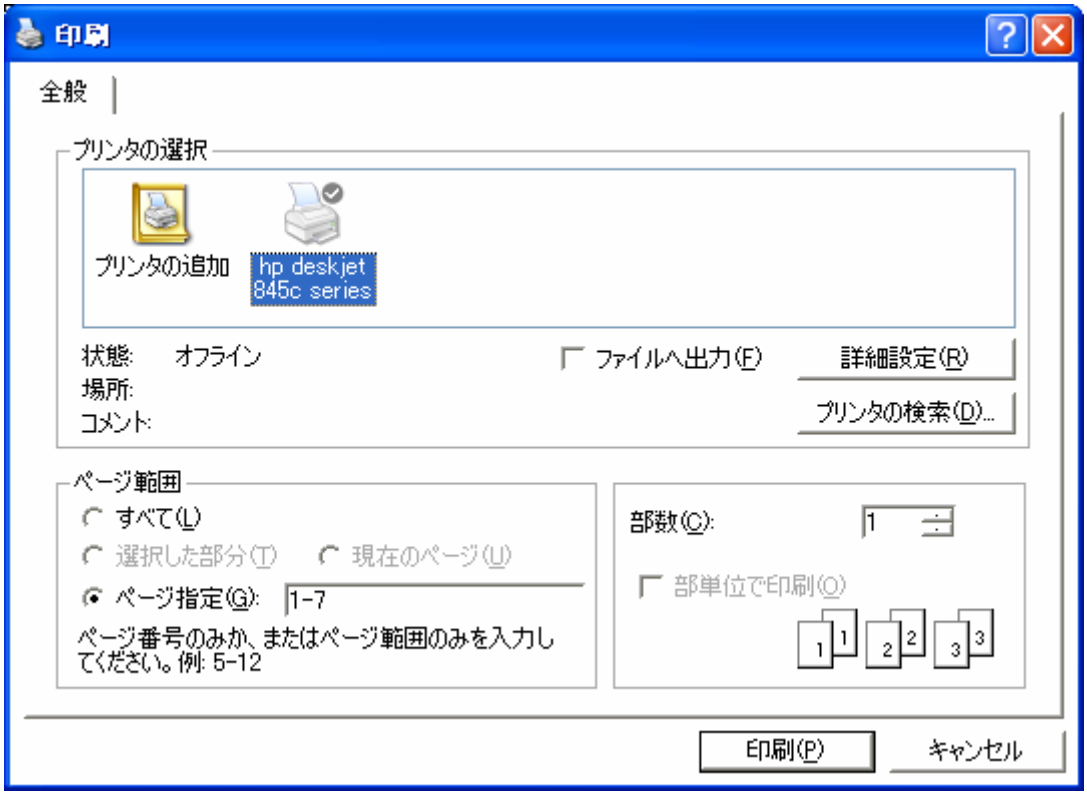
［**全体表示に戻す**］ボタンをクリックすると全体を表示します。

６－４　印刷関連

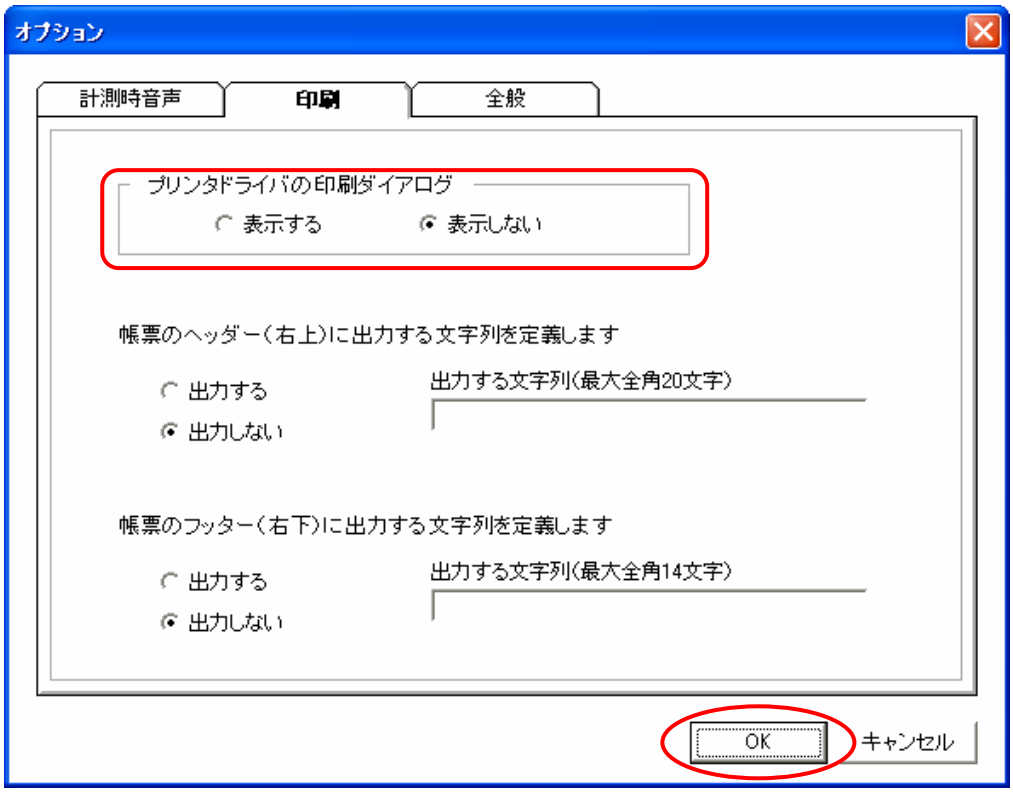
６－４－１　プリンタドライバの印刷ダイアログを表示せずに印刷する

各ウィンドウの［印刷］ボタンをクリックすると出荷時設定値では
①印刷プレビュー ②印刷ダイアログ
の順にウィンドウを表示し、印刷実行します。設定を変更して印刷ダイアログを表示しないようにできます。
印刷部数を指定したい場合、あるいは印刷設定を都度変更したい場合等では印刷ダイアログを表示させる必要があります。

印刷ダイアログ例：下例とは異なることがあります。



(1) メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［印刷］-［プリンタドライバの印刷ダイアログ］の設定を変更します。



［表示する］ ・・・・・・・・・ 印刷ダイアログを表示します。
［表示しない］ ・・・・・・・ 印刷ダイアログを表示しません。

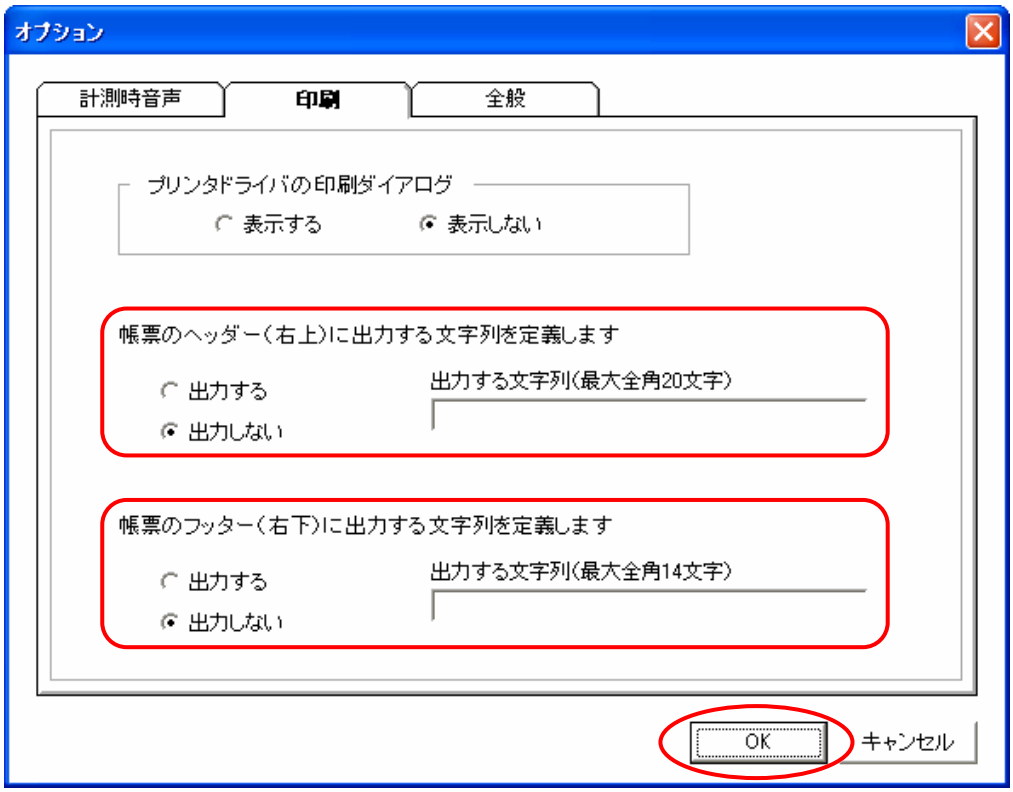
(2) **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

参考 印刷プレビューおよび印刷ダイアログのいずれも表示しない場合、各ウィンドウの**［印刷］**ボタンあるいは**［OK］**ボタンのクリックで印刷を開始します。

６－４－２　ヘッダーとフッターに任意の文字列を設定する

印刷帳票のヘッダー右端とフッター右端に任意の文字列を出力することができます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［印刷］-［帳票のヘッダー（右上）に出力する文字列を定義します］あるいは［帳票のフッター（右下）に出力する文字列を定義します］の設定を変更します。



［出力する］ ・・・・・・・・・ テキストボックスに設定した文字列を出力します。
テキストが空の場合、空白になります。
［出力しない］ ・・・・・・・ ヘッダー：出力しません（空白になります）。
フッター：製品ロゴが出力されます。

設定する文字列は任意ですが、「&F」あるいは「&f」（２文字固定）と設定するとデータベースファイル名を出力します。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

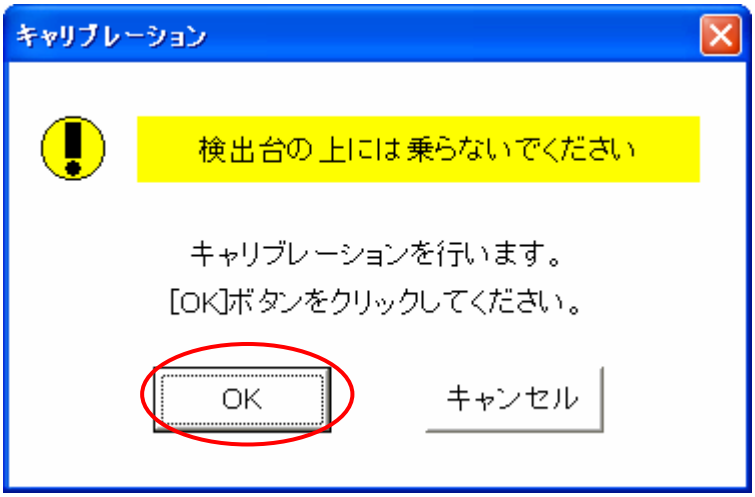
６－５　その他の機能

６－５－１　キャリブレーションをやり直す

「被検者情報」ウィンドウで［計測・トレーニング］を選択すると「キャリブレーション」ウィンドウが自動表示されますが、その他任意の時点でキャリブレーションを実施することができます。

（1）検出台にマットを乗せた状態にしてください。

（2）メニュー［ツール(T)］-［キャリブレーション(C)］(*)で「キャリブレーション」ウィンドウを開き、**［OK］**ボタンをクリックします。キャリブレーションは２秒程で終わります。**終わるまで検出台に乗る、触る、振動を与える等しないでください。**



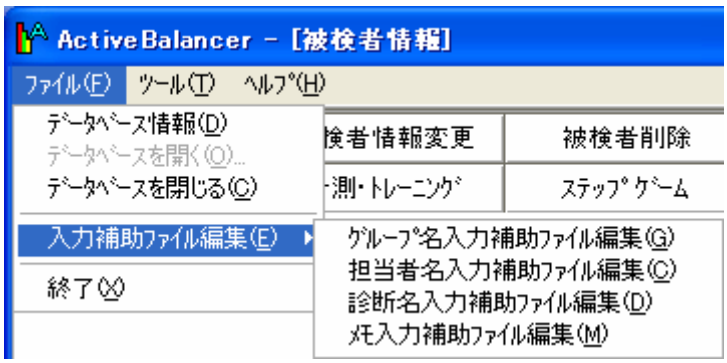
（3）キャリブレーションが終了するとウィンドウは閉じられます。

* キャリブレーションを実施できないウィンドウではメニュー選択できません。

６－５－２　入力補助ファイルを編集する

入力補助ファイルを編集するためにエディタを起動します。

（1）メニュー［ファイル(F)］-［入力補助ファイル編集(E)］でサブメニューを開き、
［グループ名入力補助ファイル編集(G)］
［担当者名入力補助ファイル編集(C)］
［診断名入力補助ファイル編集(D)］
［メモ入力補助ファイル編集(M)］
の何れかで編集ファイルを選択します。



（2）エディタが起動され、選択したファイルが編集可能になります。編集・書き込み後、エディタを終了してください。

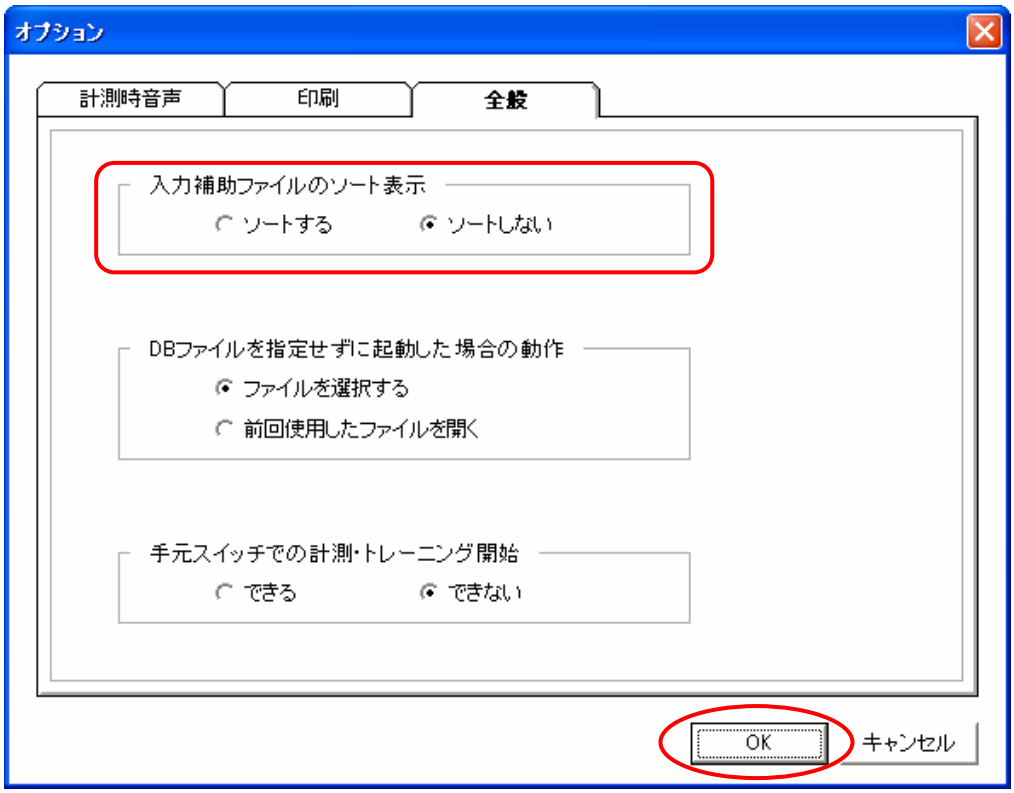
参考 エディタは拡張子 TXT のファイルに関連付けされたプログラムが起動されます。Windows の初期設定では通常、メモ帳（Notepad.exe）になっています。フォルダオプションの「ファイルの種類」タブの設定で確認できます（コントロールパネルでは［デスクトップの表示とテーマ］-［フォルダオプション］で表示します）。

関連 **【４－５－５　入力補助ファイル】【８－２　入力補助ファイル形式】【６－５－３　入力補助ファイル内容をソートして表示する】**

６－５－３　入力補助ファイル内容をソートして表示する

「被検者情報」ウィンドウのグループ名、診断名、計測・トレーニングの「条件設定」ウィンドウの担当者、メモの各リストには各々の入力補助ファイルに記述した内容が一覧表示されます。記述順に表示する／ソートして表示するの２通りから選択できます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［入力補助ファイルのソート表示］の設定を変更します。



［ソートする］　･････ ソートして表示します。
［ソートしない］　･･･ 入力補助ファイルに記述された順に表示します。

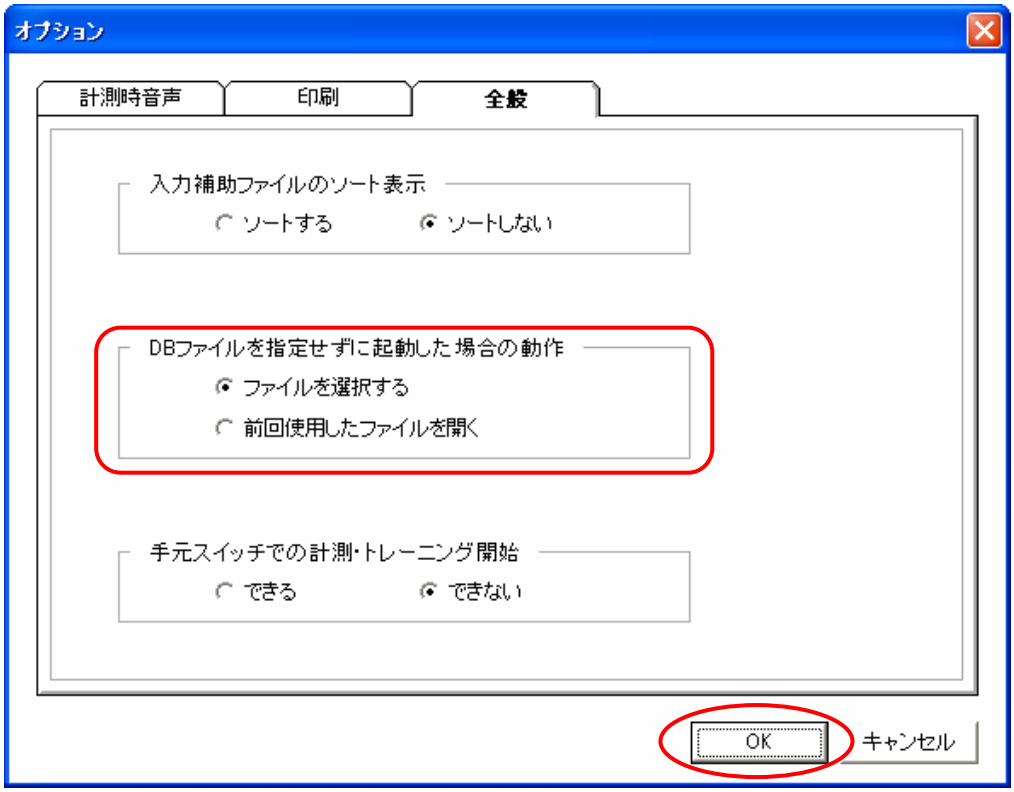
（2）［OK］ボタンをクリックして設定を有効にします。

（3）以降、各項目の表示は設定に従います。「被検者情報」ウィンドウあるいは「条件設定」ウィンドウの表示中に上記設定変更を実行した場合は次回の表示から有効になります。

６－５－４　起動時に前回使用した DB ファイルを開く

データベース(DB)ファイルを指定せずにソフトウェアを起動した場合の動作を設定することができます。

（1）メニュー［ツール(T)］-［オプション(O)］で「オプション」ウィンドウを開き、［全般］-［DB ファイルを指定せずに起動した場合の動作］の設定を変更します。



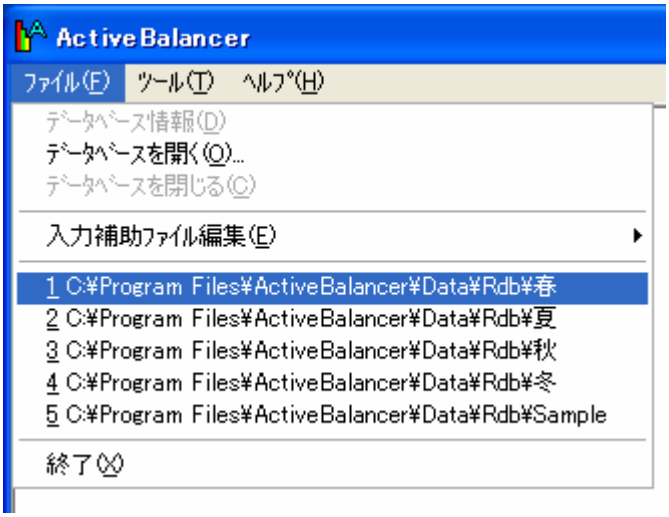
［ファイルを選択する］ ･･･････････ ファイル選択ダイアログで DB ファイルを選択します。

［前回使用したファイルを開く］ ････ 前回起動時に最後に開いていた DB ファイルを開きます。

（2） **［OK］**ボタンをクリックして設定を有効にします。

参考 最近使用したDBファイルを選択できます。

DBファイルを閉じた状態（「被検者」ウィンドウでメニュー［ファイル(F)］-［データベースを閉じる(C)］選択）で、メニュー［ファイル(F)］を選択するとサブメニューに最近使用したDBファイルパス名が表示されます（最大８ファイル）。マウスで選択するか、あるいは該当数字（１～８）をキー押下してください。



７．データベース

７－１　データベースユーティリティ

データベースユーティリティを使うと新たなデータベースファイルを作成したり、データベースファイル間でデータをコピーする等の操作ができます。

データベースユーティリティは以下の操作が可能です。

- **データベースファイルの新規作成**
  空のデータベースファイルを作成します。
  作成できるのはデータ格納用データベースファイルです。

- **データベースファイル間でのデータのコピー／移動／削除**
  対象は「被検者情報と計測・トレーニングデータ」です。

- **データベースファイルの最適化**
  最適化を行うとデータ削除／更新／追加等により生じた不連続領域を再配置してファイルサイズを縮小したり、ファイル内データを並べ替えしてデータアクセス効率を向上させることができます。
  データ格納用およびシステム用データベースを最適化することができます。
  システム用データベースにはシステム共通データを格納しています。

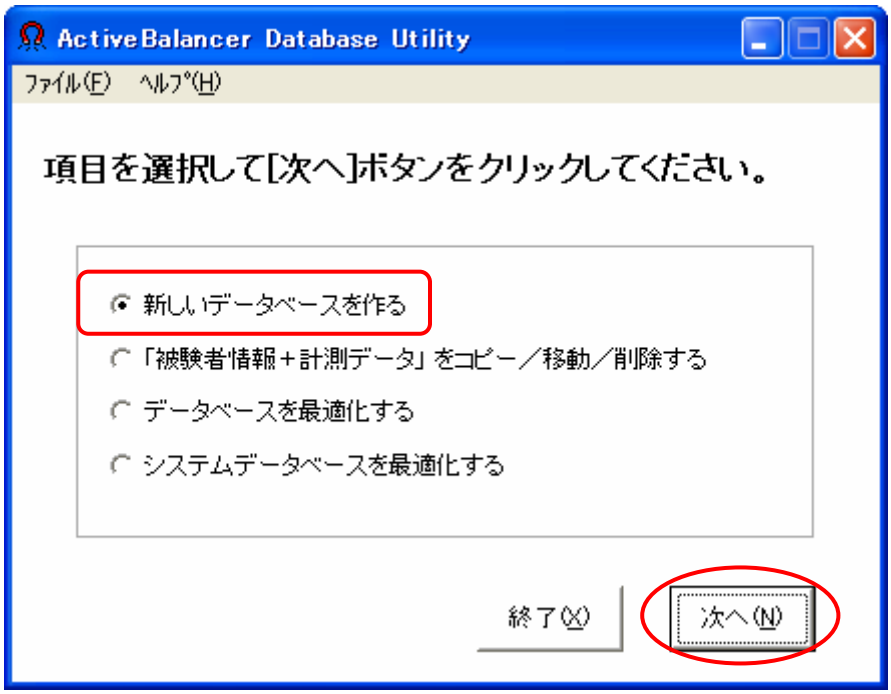
各々の操作はウィンドウに表示されるガイドに従ってください。
計測・トレーニングソフトウェアでデータベースを閉じた状態で実行してください。

⚠注意　ファイル操作の前に DB ファイルのバックアップをとってください。

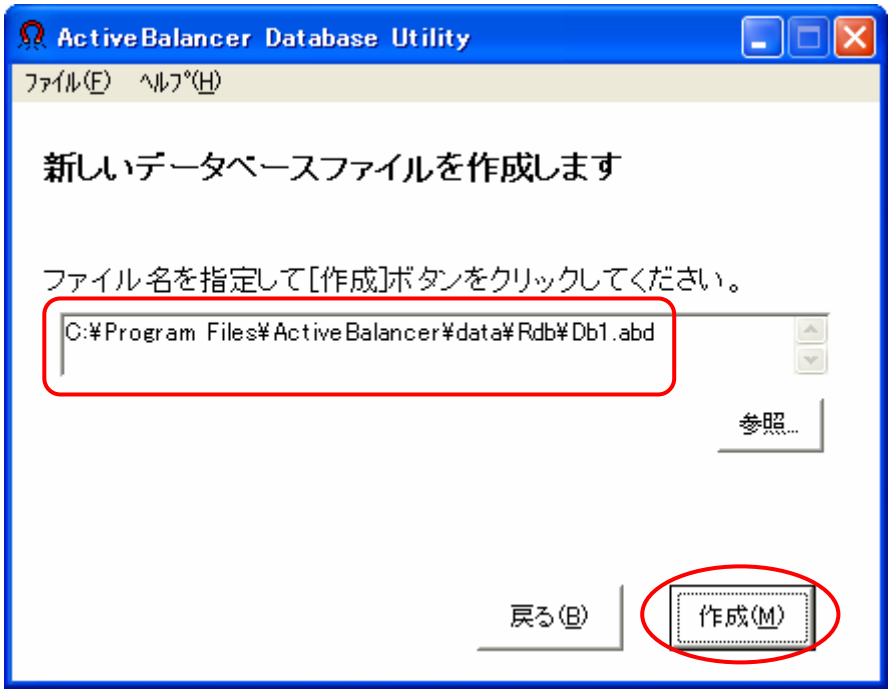
例：データベースファイルを新規に作成する場合

（1）Windows タスクバーからスタート-［すべてのプログラム］-［ActiveBalancer］-［DB ユーティリティ］で起動します。
計測・トレーニングソフトウェアからはメニュー［ツール(T)］-［DB ユーティリティ(U)］で起動できます。

（2）「新しいデータベースを作る」を選択して［次へ(N)］ボタンをクリックします。



(3) テキストボックスでファイル名を指定して［**作成(M)**］ボタンをクリックします。テキストボックスには作成可能なファイル名（Db*.abd）がデフォルトで表示されます。表示された名称で作成するか、あるいは**既存でない任意のファイル名に変更することも可能です**。ファイル名は作成後に変更しても機能上問題ありません。



(4)　［**OK**］ボタンをクリックするとファイルを作成します。

８．テキストファイル形式

８－１　計測・トレーニングデータＣＳＶファイル形式

取扱説明書「データ解析編」を参照してください。

８－２　入力補助ファイル形式

- 共通事項
  - テキストファイル１行に１項目を記述します。
  - 項目の最大数は１０００です。それを超える部分の表示はしません。
  - 空行は無視します。

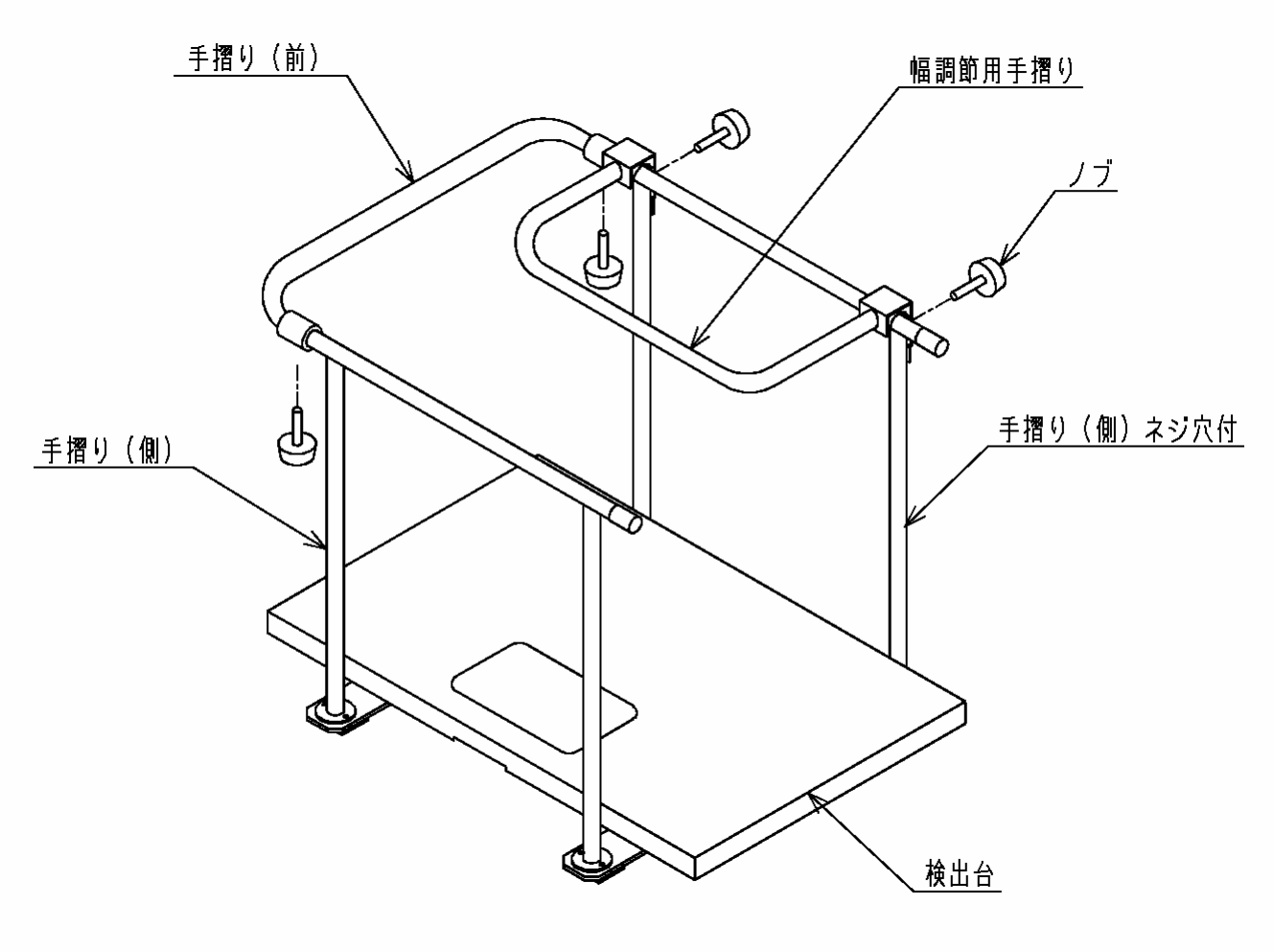
- 個別形式
  - グループ名入力補助ファイルの１項目の最大長は全角７文字です。
  - 担当者名入力補助ファイルの１項目の最大長は全角１０文字です。
  - 診断名入力補助ファイル１項目の最大長は全角２０文字です。
  - メモ入力補助ファイル１項目の最大長は全角３０文字です。
  - グループ名・担当者名・メモの各入力補助ファイルは半角のダブルクォーテーション(")、パーセント(%)、シングルクォーテーション(')、アスタリスク(*)、カンマ(,)は使用できません（読込みは可能ですが、登録できません）。

参考 ソート表示させる場合の記述

全角文字で記述した入力補助ファイルの内容をソートしてリスト表示させる場合、項目の先頭にソート可能な識別情報（例えば半角文字の数字）を付与すると意図した通りにソートされます。

例　001 項目１
　　002 こうもく２
　　003 KOUMOKU3

９．手すりの利用方法



（1）手すり（前）は、計測・トレーニング方向，ディスプレイの位置により、逆に付け替えることができます。２ヶ所のノブを緩めて引き抜き、反対側に差し込んでノブでしっかり締め付けてください。

（2）幅調節用手すりは、自立が完全にできない人の計測・トレーニング時にお使いください。普段は、ノブを緩めて外して保管してください。

⚠警告　トレーニング前に、すべての手すりを押し引きして、ノブがしっかり締まっていることを確認してください。緩んだ状態で使用していると手すりが抜け落ち、転倒の恐れがあります。

１０．使用上の注意

（1）本製品は各操作を十分熟知し、また各注意事項を厳守しながらご使用ください。
（2）本製品は堅固で水平な床面にてご使用ください。
（3）振動の多い場所での使用は、避けてください。正確な計測が行えなくなります。
（4）検出台およびパソコンは精密機器ですので、大きな衝撃を与えないでください。移動の際にも、衝撃を与えないように行ってください。
（5）検出台に乗る場合には、飛び乗ったりしないでください。また、検出台の上で飛び跳ねたりしないでください。
（6）検出台は長手方向に把手とキャスターが付いていますので、移動の時は把手部を持って引き上げ（４５°以内)、反対側のキャスターが床面に着いたら押して移動してください。移動後、再設置する場合は水準器で水平を確認してください。
（7）スタンドを移動する時は、キャスターロックを解除してから移動し、移動後は、キャスターをロックしてください。

⚠注意　　スタンドの移動の際は、転倒・落下に十分注意してください。

（8）計測・トレーニングを行う前に、マットが検出台のコーナー部に差し込まれていることを確認してください。

⚠注意　　マットが検出台のコーナー部に差し込まれていないと、滑って転倒する場合があります。

（9）マット同士を長時間重ねて置くと印刷がもう一方のマットに写りますので、重ねないでください。
（10） キャリブレーション実行時に検出台の上には物を置く、触る、振動を与える等しないでください。キャリブレーション時の各センサーの状態を初期値としてシステムに取り込みますので、正確な測定ができなくなります。
（11） 被検者の体重は、スタティック計測時１５０kg，それ以外の計測・トレーニング時は、１００kgまでで設計されています。これを超える場合には、計測不良及び故障の原因となります。

(12) トレーニングを行っていない場合でも検出台の上に余計なものを置いた状態のままにしないで下さい。
(13) パソコン・ディスプレイ・プリンタにつきましては、各機器の取扱説明書を参照してください。
(14) 付近にマイクロ波，電磁波などを発生する装置がある部屋での使用は避けてください。故障または、誤動作の原因になります。
(15) 各機器は、絶対に改造しないでください。

⚠注意　　濡れた手で、操作をすると感電の恐れがあります。

１１．お手入れの仕方

お手入れの際は電源プラグを抜いてください。
検出台、手すりは柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどい場合は水にうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼってふき取り、乾いた布で仕上げて下さい。
スタンド､マットは固くしぼった布で拭いてください｡パソコン, ディスプレイ、プリンタなどは、各取扱説明書の指示に従ってください。

⚠注意　　ベンジン，シンナー等の揮発性，可燃性のあるもので拭かないでください。色あせや変形・故障の原因となります。

１２．ソフトウェアのインストール手順

本製品のパソコンの OS を再インストールした状態から、A/D 変換カードのドライバやソフトウェアをインストールして使用可能にする手順を記したドキュメントがセットアップ CD にあります（¥Doc¥Install フォルダ内)。

１３．このようなときには

症状	原因	対策
キャリブレーション時や計測時に「検出台からデータ読込に失敗しました。ActiveBalancer を終了させて、パソコンを再起動してください。」のメッセージが表示される。	Ａ／Ｄ変換カードがパソコンのＰＣカードスロットから抜けている。または、しっかり装着されていない。	Windows を終了／パソコンの電源を切った後にＡ／Ｄ変換カードを確実に装着し、再起動する。
	Ａ／Ｄ変換カードのドライバ内部でのエラー	Windows を終了／パソコンの電源を切った後に、再起動する。
計測・トレーニング時の荷重値が０[kg]のまま動かない。あるいは重心位置が動かない。	検出台のケーブルがＡ／Ｄ変換カードに接続されていない。	Windows を終了／パソコンの電源を切った後にケーブルをＡ／Ｄ変換カードに正しく接続してください。
	検出台の電源プラグが差し込まれていない。	検出台の電源プラグおよび電源スイッチをＯＮにしてください。
	検出台の電源がＯＮになっていない。	検出台の電源スイッチをＯＮにしてください。
計測・トレーニング時の荷重表示が明らかに多いあるいは少ない。	キャリブレーション時に検出台に余計なものが載っていた。	検出台に余計なものが載っていないことを確認してキャリブレーションをやり直してください。
	キャリブレーション時に振動等による誤差が生じた。	キャリブレーションをやり直してください。
「音声出力＝する」指定をしているが音声が聞こえない。	ディスプレイ－パソコン間のオーディオケーブルが外れている。	オーディオケーブルを正しく接続する。
	ディスプレイ側のボリュームが小さくなっている。	ディスプレイの取扱説明書を参照して、ディスプレイのスピーカーボリュームを調整してください。
	パソコンのスピーカー音量設定が小さくなっている。	Windows の音量設定で音量を調節してください。タスクバー（画面下部）のスピーカーの絵をクリックすると調整ウィンドウが表示されます。

症状	原因	対策
ディスプレイに表示されない。	ディスプレイの電源がＯＮになっていない。	ディスプレイ電源プラグ及び電源スイッチをＯＮに入してください。
	ディスプレイのケーブルがパソコンに接続されていない。	ディスプレイのケーブルをパソコン側に接続してください。
データの更新／追加時に「ファイル%%%を開くことができませんでした。他のユーザーが排他的に開いているか、データを読み取る権限がありません。」というメッセージが表示される。	書き込み不可のドライブにあるデータベースファイルを指定して起動した。	書き込み可能なドライブを使用してください。
印刷ができない。	プリンタの電源がＯＮになっていない。	プリンタの電源及びスイッチをＯＮにしてください。
	プリンタケーブルが接続されていない。	プリンタのケーブルをパソコン側に接続してください。
	オンライン状態になっていない。	プリンタの取扱説明書を参照して、オンライン状態にしてください。
キャリブレーション時に「デバイスを認識しない」というメッセージが表示される。	ＰＣカードを認識していない。	別添-1「ＰＣカードを認識しない場合の手順」を参照してください。

１４．機器の保守・点検

・本製品については、機器の管理者の方が以下の点検項目に基づき、必ず始業点検（日常の製品使用前）を実施してください。
・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。
・点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。
・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

●始業点検項目

区分	点検内容	点検方法
本体	周囲の障害物の有無	・目視
	配線・コネクター類	・配線は絡み合っていないか ・コネクターは確実に接続されているか ・アースは確実にとれているか
	パソコンの起動	・正常に起動するか
	汚れ・破損などないか	・目視
手すり (ｵﾌﾟｼｮﾝ)	手すりのノブ・ネジ類の緩み、ガタつき	・固定ノブはしっかり締まっているか ・ネジ類はしっかり締まっているか
	汚れ・破損などないか	・目視

１５．保証とアフターサービス

● 保証書と保証期間

保証書はよく読んで大切に保管してください。保証書がありませんと保証期間中でも代金を請求させていただく場合があります。
保証期間につきましては、正常な状態でご使用いただきながら故障した場合、本体フレームは５年間、それ以外は１年間です。詳しくは保証書をご覧ください。

● 修理を依頼される場合

- 修理を依頼される時は、下記のことをお知らせください。
  機種名　：　*EAB-100*
  お買い上げ年月日　：　　年　　月　　日
  故障状況（できるだけ詳細に）
  住所　氏名　電話番号
- メーカーより指示のある時以外は決して開けたり分解したりしないでください。

● 損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

- 正常な使用において、交換の目安が**約２年**のもの。
  マット
- 正常な使用において、交換の目安が**約３年**のもの。
  キャスター

●耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合

● 保守部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

１６．仕様

● ハードウェア仕様

最大荷重	スタティック計測時：１０～１５０ｋｇ その他の計測時　　：１０～１００ｋｇ
荷重計測精度	±１％ＦＳ
測定範囲	外周より１００mm内側の範囲
重心位置特性	スタティック計測時：±１．０mm以内 その他の計測時　　：±２．０mm以内
周波数特性	１５Hz 以上
ドリフト特性	±３．０mm以内（６０分間）
電源	単相１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ　１５Ａ
電源入力	１８０ＶＡ
質量	検出台　　約８０ｋｇ パソコン、プリンタ、スタンド　　約２７ｋｇ ディスプレイ、スタンド　　約９ｋｇ　　(*)
オプション	手すり

● ソフトウェア仕様

計測／トレーニング時間	モード	設定可能時間
	スタティック計測	１５，３０，４５，６０秒
	アクティブ計測 ステップ計測	最大１６０秒
	部分負荷トレーニング アクティブトレーニング ステップトレーニング	１～６０分
	ステップゲーム	－
データサンプリング周波数	２０Ｈｚ	
登録被検者数	１データベースファイルあたり最大 32,767 件（**）	
保存データ数	１被検者あたり最大 32,767 件	
印刷	用紙サイズ：A4　　給紙方向：縦	

■ 本製品は EMC(電磁両立性)規格 JIS T 0601-1-2:2002（CISPR11,Group1,ClassA）に適合しています。

---

* パソコン、ディスプレイ、プリンタは変更することがあります。

** 実質的にはハードウェア（メモリ、ＣＰＵ、ディスク等）に依存します。快適にお使いいただくには百件程度をお勧めします。

１７．医用電気機器の使用上(安全及び危険防止)の注意事項

●次の注意事項を熟読して、機器を正しく使って下さい。

１.機器を取扱うには、その機器の取扱法，操作を十分に熟知してから、使用して下さい。

２.機器の設置と保管する場所

１)水のかからない場所に設置，保管して下さい。

２)気圧，温度，湿度，風通し，日光に留意し、ほこり，塩分，イオウ分などを含んだ空気などにより悪影響の生ずる恐れのない場所に設置，保管して下さい。

３)傾斜，振動，衝撃(運搬時を含む)など安定状態に注意して下さい。

４)化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に設置，保管しないで下さい。

５)電源の電圧，周波数，消費電力に注意して設置して下さい。

６)電池電源の場合には、放電状態，極性などを確認して下さい。

７)機器を設置するときには、アースを正しく確実に接続して下さい。

８)コンピュータ等に代表される電子回路の機器は、高周波や電磁波などの電気的雑音によって誤作動が起きることがあり、電気的雑音は電源ラインからの混入が多いので、電源コンセントは高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）と同一のラインを使用しないで下さい。

９)電気的雑音は電波として空中から影響を受けることがあるので、高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）の近く及び静電気の発生し易い場所には設置、保管しないで下さい。

３.機器を使用する前の準備

１)機器が正常で安定に作動することを確認して下さい。

２)アース線，コード類の接続が正確で、また完全であることを確認して下さい。

３)他の機器を併用する場合は、専門家の指示に従って下さい。

４)患者に直接接続する外部回路が正常であることを確認して下さい。

５)電気的雑音は電波として空中から影響することがあるので、近くに高周波、電磁波等を発生する機器（マイクロウェーブ等）が無いことを確認して下さい。

６)電子回路の機器は静電気により誤作動が起こることがあり、又、身体には静電気が帯電しやすいので、近くの金属（机・ドアのノブ等）にふれて身体に静電気が帯電していない状態で操作して下さい。

７)電池電源を確認して下さい。

４.機器の使用中の注意

１)診断，治療に必要な時間，量は指定以上にならないように注意して下さい。

２)機器及び患者に異常がないことを絶えず監視し、異常が発見された場合は、直ちに患者が安全であるように機器の作動を止めるなどの適切な措置を講じて下さい。

３)機器及び他の電気器具などに患者が触れることのないように、注意して下さい。

５.機器の使用後の注意

１)定められた手順により操作スイッチ、ダイヤルなどを使用前の状態に戻したのち、電源スイッチを切って下さい。

２)コード類を取りはずすときは、コードを持って引抜いたりしないで、正しくプラグを持って取りはずして下さい。

３)機器は次回の使用に支障のないように、必ず清浄にしておいて下さい。

６.故障したときは適切な指示をして、専門家に御連絡下さい。

７.機器及び部品は必ず点検を行って下さい。

８.機器は絶対に改造しないで下さい。